



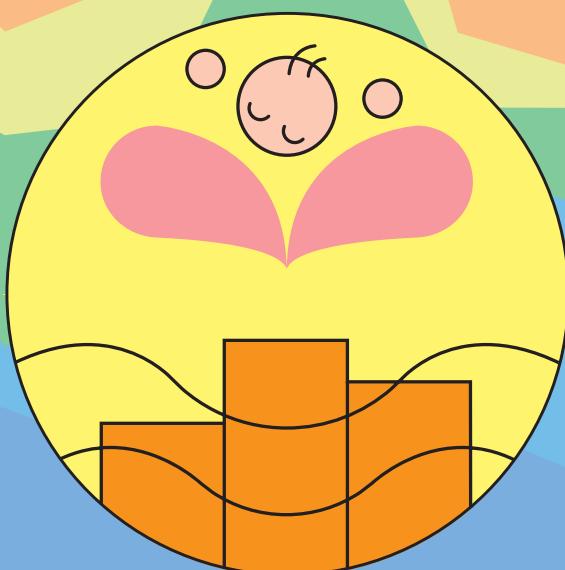
平成26年

我が国の人口動態

Vital statistics in Japan

平成24年までの動向

Trends up to 2012



厚生労働省大臣官房統計情報部

STATISTICS AND INFORMATION DEPARTMENT,
MINISTER'S SECRETARIAT,
MINISTRY OF HEALTH, LABOUR AND WELFARE

ま　え　が　き

人口動態統計は、出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の実態を表すものとして、国、地方自治体の行政の資料としての利用はもとより、「生命表」「将来推計人口」作成の基礎数値ともなり、我が国の社会、経済の発展に欠くことのできない情報となっております。特に、近年の出生率の低下にみられる少子化、死亡状況の改善による人口の高齢化など、国の将来にかかる大きな問題を提起しております。

我が国の人囗動態調査は、「戸籍法」制定の翌年の明治32年から現在の近代的な人口動態統計制度として行われるようになりました。

この「我が国の人囗動態」は、平成24年までの人口動態統計の主な内容、人口の動きや寿命について、グラフを中心に時系列観察、地域別観察、諸外国との比較を行っており、貞毎に簡単な解説と主な統計表を掲載するなど、人口動態の概要ができるだけ平易に分かるように構成しています。

本書を刊行するに当たり、人口動態調査に種々ご尽力を賜りました市区町村、保健所、都道府県を始めとした関係の方々に、厚くお礼申し上げますとともに、今後とも、「我が国の人囗動態」が人口及び厚生労働行政施策の広範な分野に活用されることを願っております。

平成26年2月

厚生労働省大臣官房統計情報部長

姉　崎　　猛

目 次 Contents

人口動態統計とは Outline of Vital Statistics 4

比率の解説 Explanation of rates 5

人口 Population

我が国の人ロピラミットー平成24年10月1日現在一 6
年齢3区分別人口割合の年次推移一昭和22～平成24年一 6
都道府県別にみた年齢3区分別人口割合及び老人人口指教一平成24年一 7

人口動態の年次推移 Trends in major indices for the vital events

1日平均件数の年次推移 8

出生の動き Natality

出生数及び合計特殊出生率の年次推移一明治32～平成24年一 9
母の年齢階級別出生率の年次推移一昭和22～平成24年一 9
出生順位別にみた出生数及び合計特殊出生率（内訳）の年次推移一昭和45～平成24年一 10
出生順位別にみた父母の平均年齢の年次推移一昭和50～平成24年一 10
都道府県別にみた合計特殊出生率の年次比較一平成14・24年一 11
都道府県別にみた第1子出生時の母の平均年齢の年次比較一平成14・24年一 11
結婚生活に入ってから第1子出生までの期間別にみた出生数割合及び平均同居期間の年次推移
　　一昭和55～平成24年一 12
結婚生活に入ってから第1子出生までの期間（1年未満）別にみた母の年齢階級別出生数一平成24年一 12
性別にみた出生時平均体重及び2,500g未満出生数割合の年次推移一昭和50～平成24年一 13
妊娠期間別出生数割合の年次推移一昭和55～平成24年一 13
合計特殊出生率の年次推移一諸外国との比較 1947～2012年 14
合計特殊出生率の主な国及び地域との比較 14

死亡の動き General mortality

死亡数及び死亡率の年次推移一明治32～平成24年一 15
性別にみた都道府県別死亡率及び65歳以上人口割合一平成24年一 16
主な死因別にみた死亡率の年次推移一昭和22～平成24年一 17
主な死因別にみた性別年齢調整死亡率の年次推移一昭和22～平成24年一 17
部位別にみたがんの死亡率の年次推移，男一昭和25～平成24年一 18
部位別にみたがんの死亡率の年次推移，女一昭和25～平成24年一 19
性・年齢階級別にみた主な死因の死亡数一平成24年一 20
性別にみた自殺の死亡率の年次推移一昭和25～平成24年一 21
性・年齢階級別にみた自殺の死亡率一平成24年一 21
都道府県別にみた自殺の死亡率一平成24年一 21
死亡率の年次推移一諸外国との比較 1947～2012年 22
年齢調整死亡率の諸外国との比較 2008年 22
性別にみた主な死因別死亡率の諸外国との比較 23

乳児死亡の動き Infant mortality

乳児死亡数及び乳児死亡率の年次推移一昭和25～平成24年一 24
死因別乳児死亡数割合一平成24年一 24
乳児死亡率の年次推移一諸外国との比較 1947～2012年 25
生存期間別乳児死亡率の諸外国との比較 25

自然増減の動き Natural change

自然増減数及び自然増減率の年次推移一明治32～平成24年一 26
都道府県別にみた自然増減数及び自然増減率一平成24年一 27
性別にみた出生数及び死亡数の年次推移一明治32～平成24年一 27

死産の動き Foetal mortality	
死産数及び死産率の年次推移—昭和25～平成24年—	28
妊娠期間（4週区分）別にみた性別自然死産数—平成24年—	28
周産期死亡の動き Perinatal mortality	
周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移—昭和54～平成24年—	29
周産期死亡率の諸外国との比較	29
婚姻の動き Marriages	
婚姻件数及び婚姻率の年次推移—昭和22～平成24年—	30
夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚の婚姻件数の年次推移—昭和27～平成24年—	30
夫・妻の年齢階級別にみた婚姻件数及び平均婚姻年齢の年次推移—昭和22～平成24年—	31
結婚生活に入ったときの年齢階級別にみた初婚率・再婚率（人口千対）の年次比較—平成4・14・24年—	32
夫妻の一方が外国人の国籍別婚姻件数の年次推移—昭和40～平成24年—	32
夫妻の一方が外国人の国籍別割合—平成24年—	32
婚姻率の年次推移—諸外国との比較 1947～2012年	33
<参考>出生に占める嫡出でない子の出生割合の国際比較	33
離婚の動き Divorces	
同居期間別にみた離婚件数の年次推移—昭和22～平成24年—	34
<再掲>同居期間20年以上の離婚件数—昭和50～平成24年—	34
親権を行う者別にみた離婚件数及び親が離婚をした未成年の子の数の年次推移 —昭和25～平成24年—	35
夫・妻の年齢階級別にみた離婚件数構成割合の年次推移—昭和25～平成24年—	35
離婚率の年次推移—諸外国との比較 1947～2012年	36
「平成22年度 人口動態職業・産業別統計」から Vital statistics : occupational and industrial aspects, FY2010	
出生順位別にみた有職の母の割合の年次比較—平成17年度・平成22年度—	37
就業状態別にみた主要死因別死亡数構成割合—平成22年度—	37
夫妻の就業状態別にみた婚姻件数割合の年次比較—平成17年度・平成22年度—	38
妻の就業状態別にみた親権を行わなければならない子の有無・親権を行う者の割合—平成22年度—	38
平均寿命 Life expectancy at birth	
各国の平均寿命の年次推移 1947～2012年	39
都道府県別平均寿命—平成22年—	40
市区町村別平均寿命の分布—平成22年—	41
市区町村別平均寿命（上位5市区町村）—平成22年—	41
統計表 Statistical tables	
第1表 人口動態総覧、年次別（明治32年以降）	44
第2表 人口動態総覧、都道府県別（平成24年）	48
第3表 主な死因の死亡数・死亡率（人口10万対）、都道府県別（平成24年）	50
第4表 主な死因の死亡数・死亡率（人口10万対）、性・年齢階級別（平成24年）	52
第5表 性・年齢階級別にみた死因順位（平成24年）	54
第6表 都道府県別にみた死因順位（平成24年）	57
付録 諸率の算出に用いた人口	58
死因分類の変更とその影響	59
年齢調整死亡率について	59
基準人口—昭和60年モデル人口—	59

人口動態統計とは Outline of Vital Statistics

我が国では、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の5種類の「人口動態事象」について、人口動態統計を作成している。

出生・死亡・婚姻及び離婚については「戸籍法」により、死産については、「死産の届出に関する規程」によって、それぞれ市区町村長に届け出られる。市区町村長は、これらの届書及び出生証明書・死亡診断書・死産証書等の関係書類に基づいて「人口動態調査票」を作成する。調査票は、地域保健活動の基礎資料として利用されるため、保健所長を経由して都道府県知事に提出され、さらに厚生労働大臣に提出される。厚生労働省では、これらの調査票を集計して人口動態統計を作成している。

我が国の人口動態に関する調査は、明治5年に始まる戸籍表（内務省戸籍局）と明治7年に東京、京都、大阪について行われた死亡届の発展形態としての衛生統計諸表（内務省衛生局）との2つの系統によって行われていたが、明治19年の内務省報告例の制定により一本化され、年報の表式統計として明治31年まで実施されている。明治31年に「戸籍法」が制定され、登録制度が法体系的にも整備されたのを機会に、同32年からは人口動態調査票は1件につき1枚の個別票が作成され、中央集計がされるという近代的な人口動態統計制度として行われるようになった。

その後、昭和22年6月に「統計法」に基づき「指定統計第5号」として指定され、その事務の所管は同年9月1日に総理庁から厚生省に移管された。さらに、平成21年4月からは新統計法（平成19年法律第53号）に基づく基幹統計調査となった。

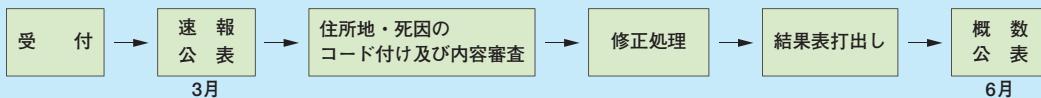
人口動態統計作成過程の概要は次のとおりである。

調査の経路

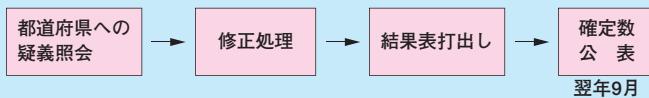


厚生労働省での集計と公表

●月報処理（例、調査月1月分）



●年報処理（1年分）※月報年計（概数）は翌年6月に公表



●結果の公表

●月報

人口動態統計速報 人口動態統計月報（概数）

●年報

人口動態統計月報年計（概数）

人口動態統計上巻、中巻、下巻

我が国の人団動態

●特殊報告

都道府県別年齢調整死亡率

人口動態保健所・市区町村別統計

●人口動態職業・産業別統計

●ホームページに掲載

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

「政府統計の総合窓口（e-Stat）」 <http://www.e-stat.go.jp/>

比率の解説 Explanation of rates

○出生率・死亡率・婚姻率・離婚率 = $\frac{\text{年間の件数}}{\text{人口}} \times 1,000$

○死産率・自然死産率・人工死産率 = $\frac{\text{死産 (自然・人工) 数}}{\text{出産 (出生+死産) 数}} \times 1,000$

死産とは妊娠満12週以後の死児の出産をいう。

○妊娠満22週以後の死産率 = $\frac{\text{妊娠満22週以後の死産数}}{\text{出産 (出生+妊娠満22週以後の死産) 数}} \times 1,000$

○乳児死亡率・新生児死亡率・早期新生児死亡率 = $\frac{\text{乳児・新生児・早期新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$

乳児死亡とは生後1年末満の死亡、新生児死亡とは生後4週（28日）未満の死亡、早期新生児死亡とは生後1週（7日）未満の死亡をいう。

○周産期死亡率 = $\frac{\text{妊娠満22週以後の死産数+早期新生児死亡数}}{\text{出産 (出生+妊娠満22週以後の死産) 数}} \times 1,000$

○老人人口指数 = $\frac{\text{老人人口 (65歳以上)}}{\text{生産年齢人口 (15~64歳)}} \times 100$

老人人口指数とは老人人口の生産年齢人口に対する比率である。

○自然増減率 = $\frac{\text{自然増減数 (出生数-死亡数)}}{\text{人口}} \times 1,000$

○合計特殊出生率 = $\left(\frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女性人口}} \right) \text{ 15歳から49歳までの合計}$
(都道府県別は5歳階級で算出し、5倍したものを合計している。)

15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

○死因別死亡率 = $\frac{\text{死因別死亡数}}{\text{人口}} \times 100,000$

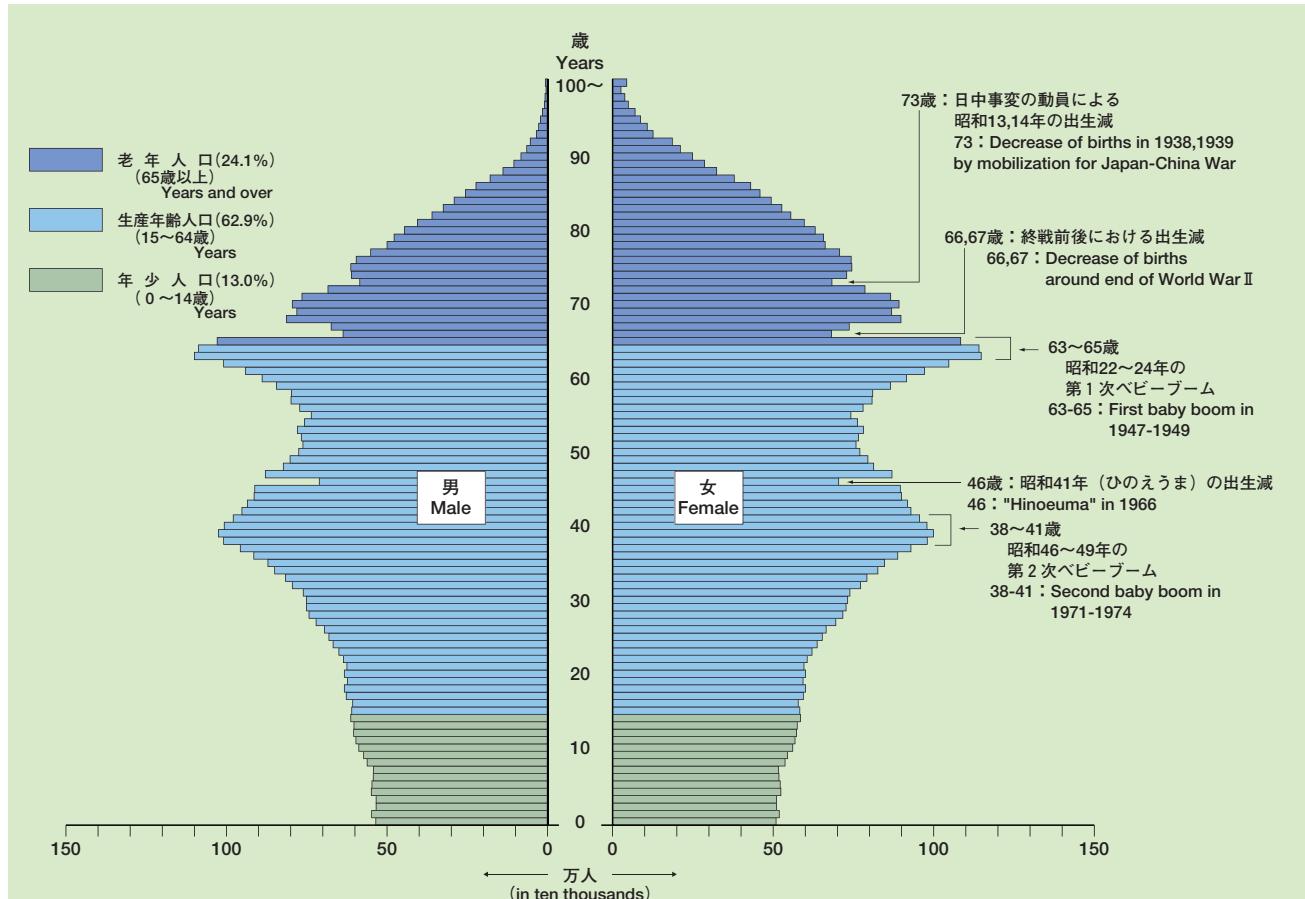
○年齢調整死亡率 = $\frac{\left(\begin{array}{l} \left[\text{観察集団の各年齢} \right] \times \left[\text{基準となる人口集団の} \right] \\ \left[\text{階級の死亡率} \right] \times \left[\text{その年齢階級の人口} \right] \end{array} \right) \text{ の各年齢} \text{ 階級の総和}}{\text{基準となる人口集団の総和 (昭和60年モデル人口)}}$

年齢構成が著しく異なる人口集団の間での死亡率や、特定の年齢層に偏在する死因別死亡率などを、その年齢構成の差を取り除いて比較する場合に用いる（59頁参照）。なお、計算式中の「観察集団の各年齢階級の死亡率」は、1,000倍（死因の場合は100,000倍）されたものである。

人 口 Population

平成24年の総人口は1億2752万人 老年人口は24.1%

我が国の人団ピラミッドー平成24年10月1日現在ー
Population pyramid as of Oct.1,2012

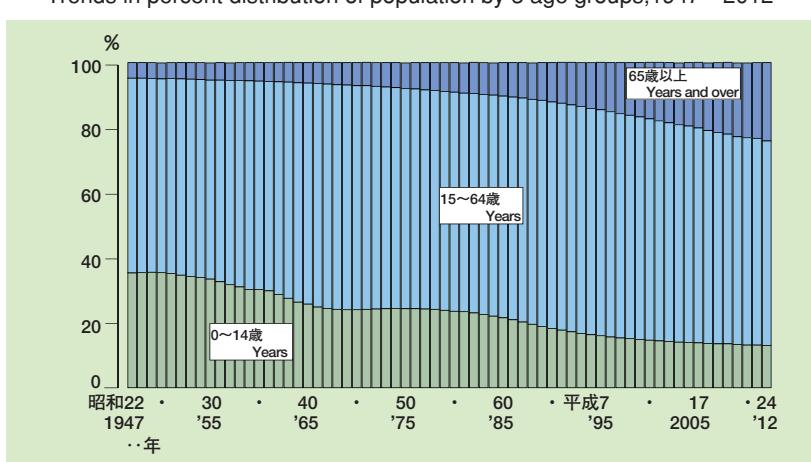


総務省統計局の「人口推計（平成24年10月1日現在）」によれば、平成24年10月1日の我が国（日本に常住している外国人を含む。）は1億2752万人である。

人口の年齢構造をピラミッドに表すと、各年代の社会情勢の影響をうけた出生と死亡の変動が明らかに刻まれている。戦後の昭和22年から24年生まれの第1次ベビーブーム期と46年から49年生まれの第2次ベビーブーム期の2つのふくらみが特徴的であり、その後は出生数の減少でピラミッドのすそは年々狭まっている。

総人口の年齢3区分別人口割合の年次推移をみると、第2次ベビーブーム期以降の出生数の減少傾向と死亡状況の改善による高年齢層の増加から、0～14歳の年少人口割合は減少し、65歳以上の老人人口割合は増加しており、平成9年以降は老人人口が年少人口を上回っている。平成24年は年少人口13.0%、老人人口24.1%となった。また、15～64歳の生産年齢人口割合は平成4年をピークに減少している。

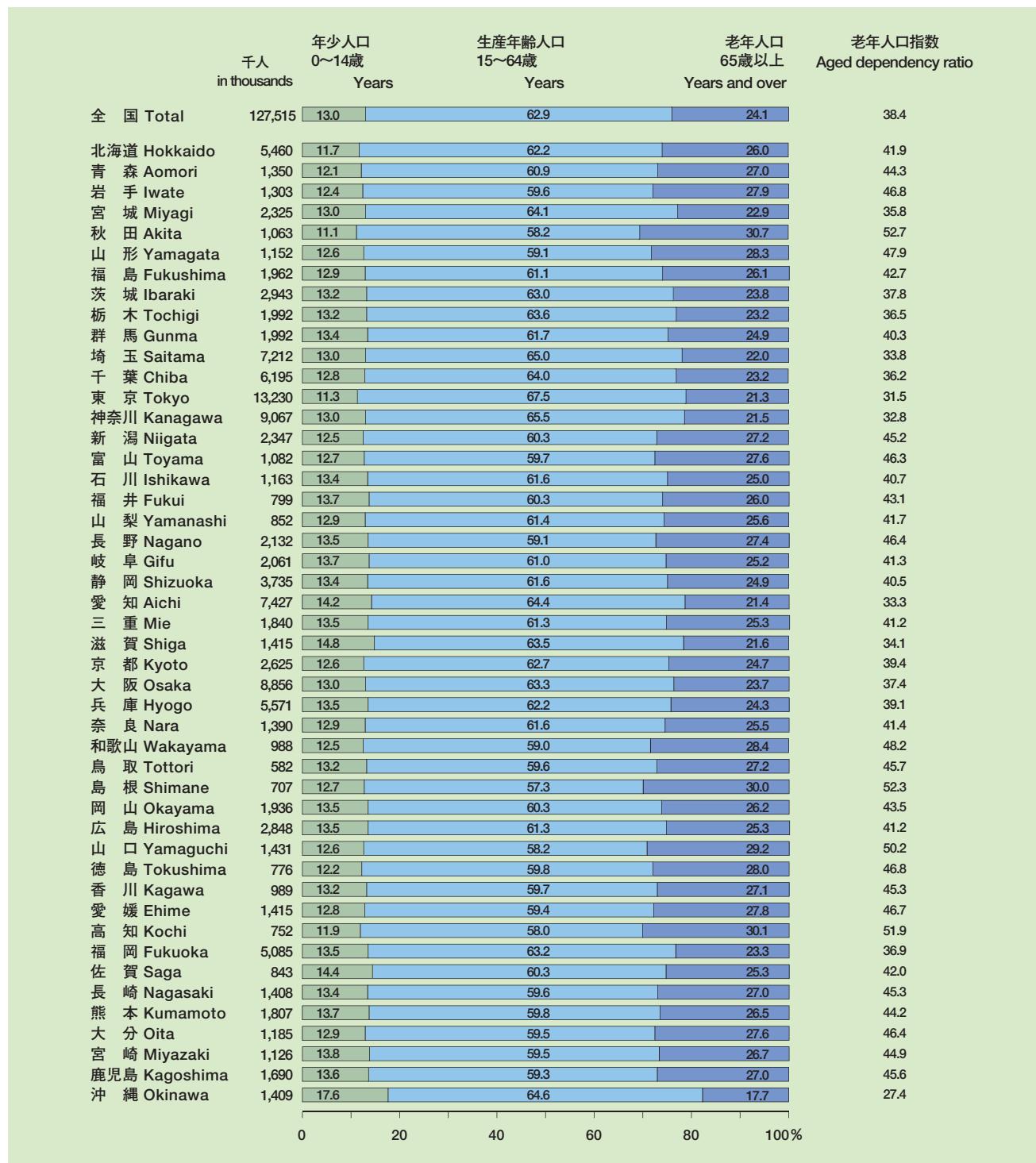
年齢3区分別人口割合の年次推移—昭和22～平成24年—
Trends in percent distribution of population by 3 age groups, 1947–2012



老年人口割合は大都市を有する都道府県で低い

都道府県別にみた年齢3区分別人口割合及び老年人口指數一平成24年一

Percent distribution of population by 3 age groups and aged dependency ratio, by prefecture, 2012



資料：総務省統計局「人口推計（平成24年10月1日現在）」（総人口）

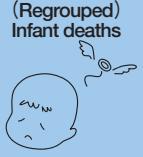
平成24年の年齢3区分別人口割合を都道府県別にみると、老年人口割合が最も低いのは沖縄17.7%、次いで東京21.3%、愛知21.4%、神奈川21.5%、滋賀21.6%となっており、おおむね大都市を有する都道府県とその周辺で低くなっている。一方、老年人口割合が最も高いのは秋田30.7%、次いで高知30.1%、島根30.0%、山口29.2%、和歌山28.4%となっている。

また、人口高齢化の指標の一つである老年人口指数をみても、老年人口割合とほぼ同様のことがいえる。

人口動態の年次推移

Trends in major indices
for the vital events

平成24年(2012)

出生 Live births	死亡 Deaths	(再掲) 乳児死亡 (Regrouped) Infant deaths	死産 Foetal deaths	婚姻 Marriages	離婚 Divorces
 1,037,231人 30秒に1人 $1/30\text{ s}$	 1,256,359人 25秒に1人 $1/25\text{ s}$	 2,299人 3時間49分15秒に1人 $1/3\text{ h }49\text{m}15\text{s}$	 24,800胎 21分15秒に1胎 $1/21\text{m}15\text{s}$	 668,869組 47秒に1組 $1/47\text{ s}$	 235,406組 2分14秒に1組 $1/2\text{m}14\text{s}$

1日平均件数の年次推移

Trends in average number of cases per day

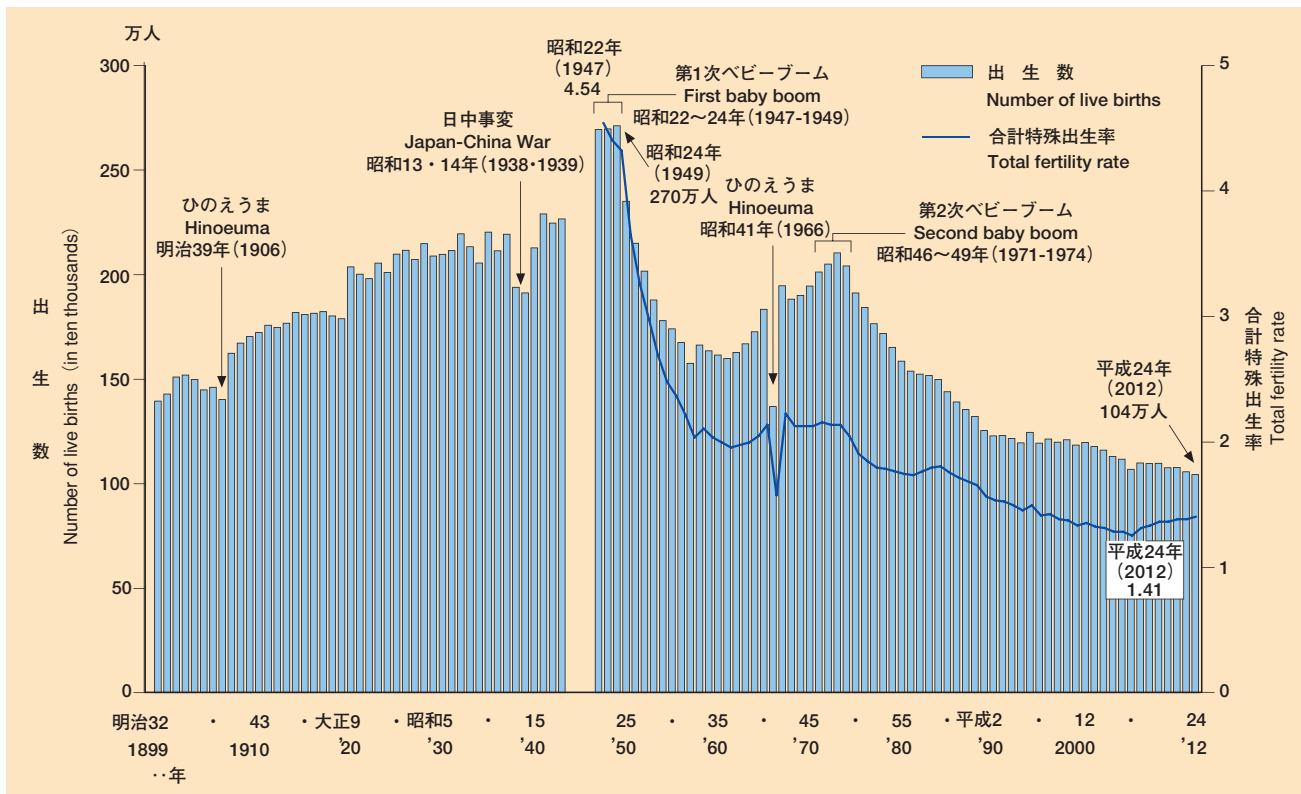
年次 Year		出生 Live births	死亡 Deaths	(再掲) 乳児死亡 (Regrouped) Infant deaths	死産 Foetal deaths	婚姻 Marriages	離婚 Divorces
2012	平成24年	2,834	3,433	6	68	1,828	643
2011	23年	2,879	3,433	7	71	1,813	646
2010	22年	2,935	3,279	7	73	1,918	689
2005	17年	2,911	2,969	8	87	1,957	718
2000	12年	3,253	2,627	10	105	2,181	722
1995	7年	3,252	2,526	14	108	2,170	545
1990	2年	3,347	2,247	15	148	1,978	432
1985	昭和60年	3,922	2,061	22	189	2,016	457
1980	55年	4,308	1,975	32	212	2,117	387
1975	50年	5,209	1,924	52	279	2,580	326
1970	45年	5,299	1,953	70	370	2,820	263
1965	40年	4,996	1,919	92	443	2,616	211
1960	35年	4,388	1,931	135	490	2,366	190
1955	30年	4,742	1,900	188	502	1,959	206
1950	25年	6,404	2,479	385	594	1,959	229
1947	22年	7,339	3,118	563	339	2,559	218

出生の動き Natality

出生数は減少・合計特殊出生率は上昇

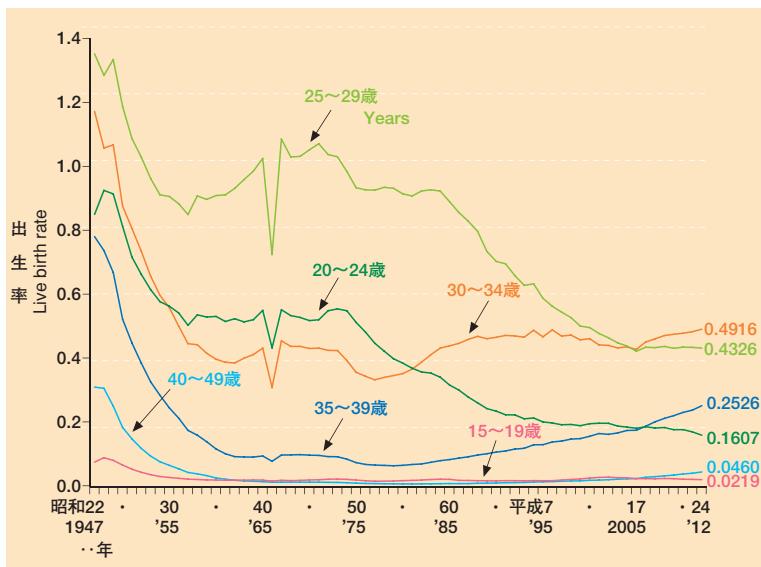
出生数及び合計特殊出生率の年次推移—明治32～平成24年—

Trends in live births and total fertility rates, 1899–2012



母の年齢階級別出生率の年次推移—昭和22～平成24年—

Trends in live birth rates by age of mother, 1947–2012



注：母の各歳別出生率を足し上げたもので、各階級の合計が合計特殊出生率である。

年に2を下回ってからは、50年代後半を除いて低下傾向が続いているが、平成18年からは3年連続で上昇した。21年は前年と同率となつたが、22年は上昇し、23年は前年と同率、24年は上昇した。

母の年齢階級別出生率の年次推移をみると、昭和50年代以降は20歳代の出生率が大きく低下し、近年は30～40歳代の出生率が上昇傾向となっている。

*人口置き換え水準とは、人口が将来にわたって増えも減りもしないで、親の世代と同数で置き換わるための大きさを表す指標である。人口置き換え水準に見合う合計特殊出生率は、女性の死亡率等によって変動するので一概にはいえないが、日本における平成24年の値は2.07である。なお、人口置き換え水準は、国立社会保障・人口問題研究所で算出している。

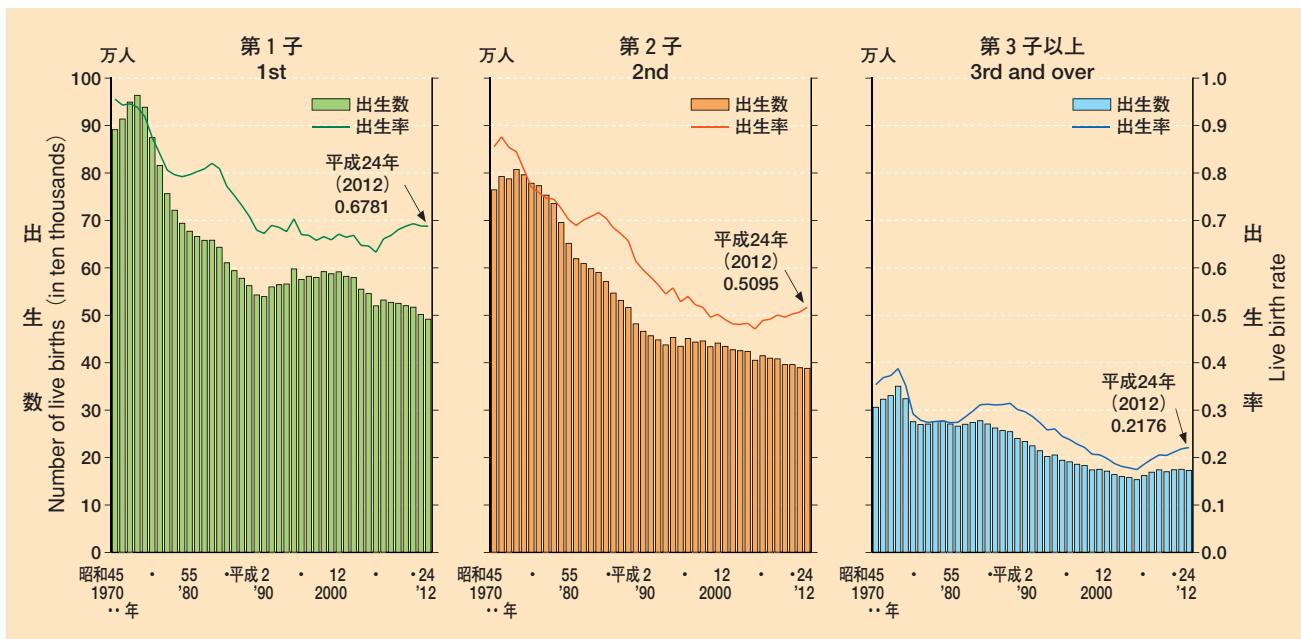
出生数の年次推移をみると、第2次世界大戦前は戦争のあったときを除いて増加していたが、戦後は、昭和22年から24年の第1次ベビーブーム期と46年から49年の第2次ベビーブーム期に200万人を超えたのを除いて、減少傾向にあった。平成元年以降は120万人前後で推移していたが、13年からは5年連続で減少した。18年から23年までは増減を繰り返しており、24年は103万7231人で、前年より1万3575人減少し、統計の得られていない昭和19年から21年を除き、現在の形式で統計をとり始めた明治32年以降最低となった。

合計特殊出生率は1.41で前年の1.39を上回った。合計特殊出生率の年次推移をみると、第1次ベビーブーム期には4を超えていたが、昭和20年代後半に急激に低下し31年には2.22となり、初めて人口置き換え水準*（同年2.24）を下回った。その後、46年までは「ひのえうま」前後の特殊な動きを除けば緩やかな上昇傾向にあり、第2次ベビーブーム期の47、48年には2.14となった。その後は低下に転じ、50年には2.14となつた。その後は低下に転じ、50年には2.14となつた。その後は低下に転じ、50年には2.14となつた。

出生数はすべての順位で減少、合計特殊出生率は第2子、第3子以上で上昇

出生順位別にみた出生数及び合計特殊出生率（内訳）の年次推移—昭和45～平成24年—

Trends in live births and total fertility rates by birth order, 1970-2012



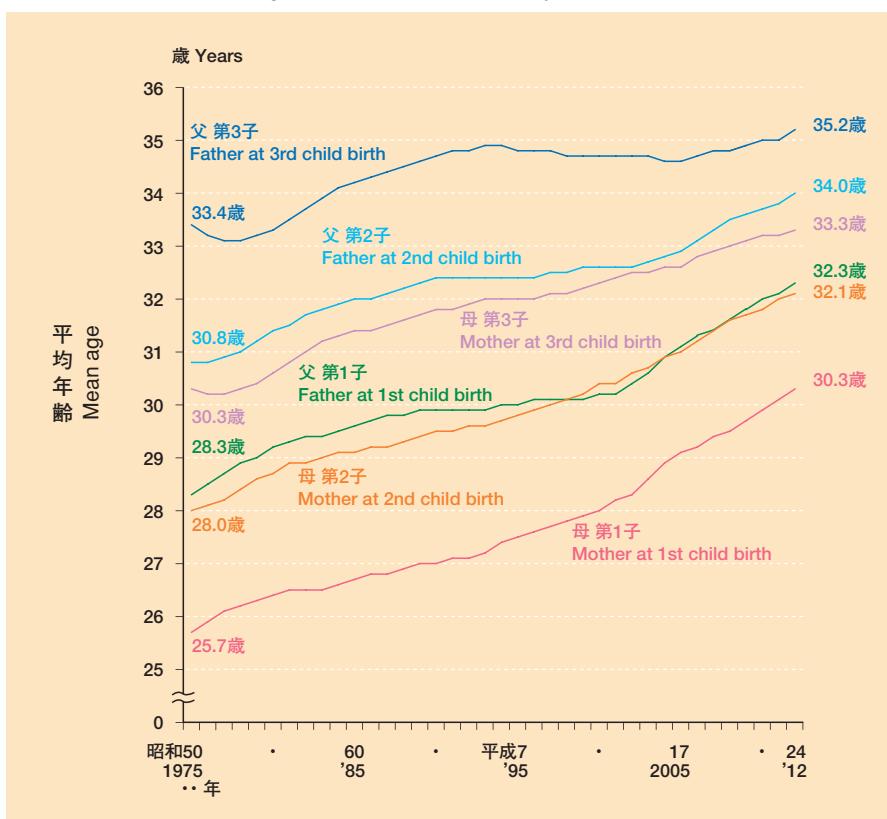
注：1) 出生順位とは、同じ母親がこれまでに生んだ出生子の総数について数えた順序である。

2) 出生順位別の出生率の数値は出生順位ごとに15歳から49歳の母の各歳別出生率を合計したものであり、第1子から第3子以上の出生率を合計したもののが、合計特殊出生率である。

父母の平均年齢は上昇

出生順位別にみた父母の平均年齢の年次推移—昭和50～平成24年—

Trends in mean age of father and mother by live birth order 1975-2012



出生順位別に出生数の年次推移をみると、出生数はすべての出生順位で第2次ベビーブーム期（昭和46～49年）に多くなっており、その後は第1子の平成3～12年を除いて減少傾向となっていたが、18年にはすべての出生順位で増加した。19年以降は第1子、第2子は減少傾向にある。

出生順位別に合計特殊出生率（内訳）の年次推移をみると、第2次ベビーブーム期以降、昭和50年代後半を除いてすべての出生順位で低下傾向となっていたが、平成18年以降は上昇傾向となっている。23年以降は第1子は低下、第2子、第3子以上では上昇している。

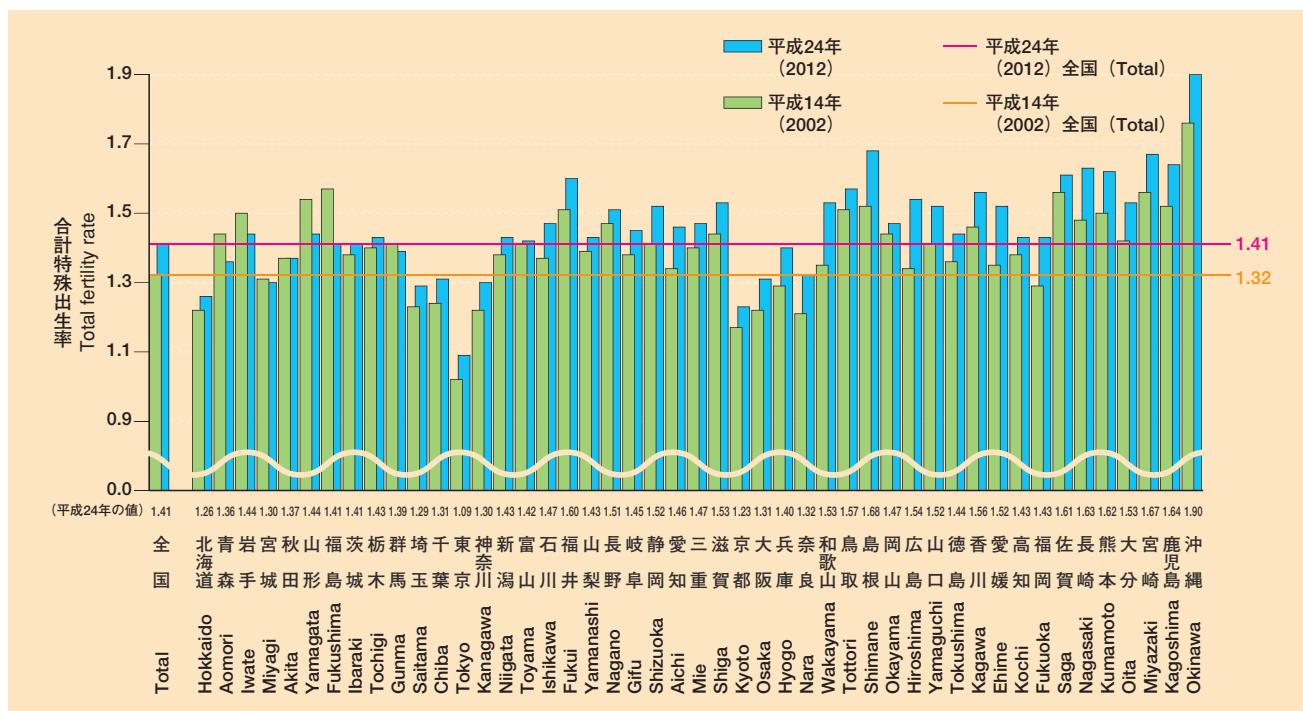
出生順位別に母の平均年齢をみると、平成24年は第1子は30.3歳、第2子は32.1歳、第3子は33.3歳となっており、昭和50年に比べ、それぞれ4.6歳、4.1歳、3.0歳上昇している。

父の平均年齢は、平成に入ってから一旦横ばいとなったが、近年は再び上昇しており、24年は第1子32.3歳、第2子34.0歳、第3子35.2歳となっている。

10年前と比較すると、合計特殊出生率は40都道府県で上昇

都道府県別にみた合計特殊出生率の年次比較—平成14・24年—

Comparison of total fertility rates by prefecture, 2002 · 2012

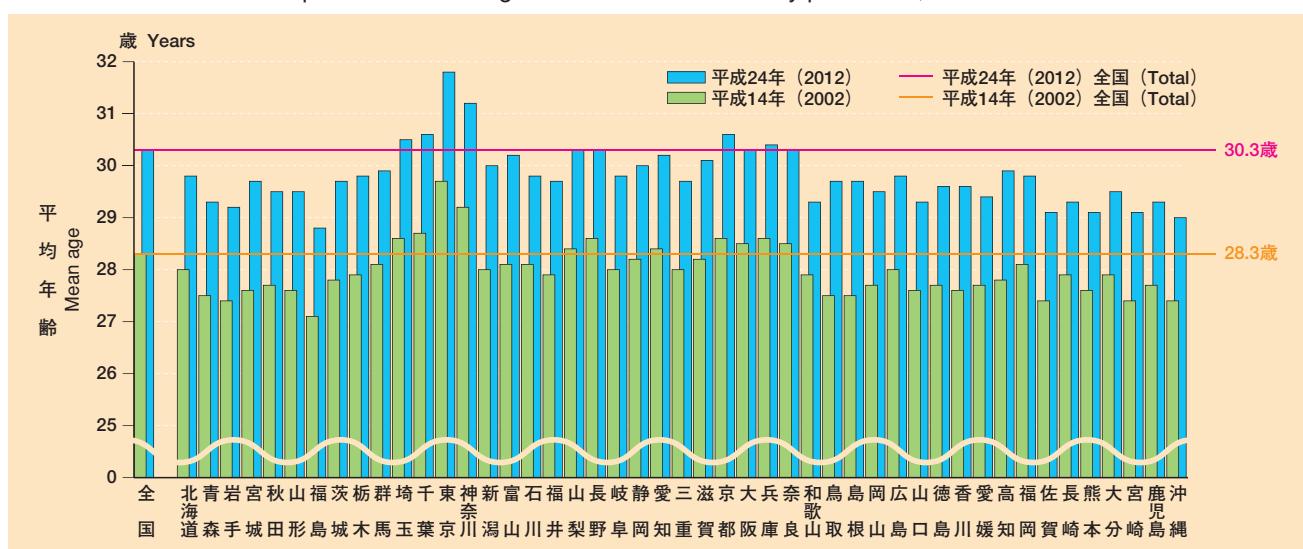


注：分母に用いた人口は、全国は各歳別日本人人口、都道府県は5歳階級別総人口である。

母の平均年齢は大都市を有する都道府県で高い

都道府県別にみた第1子出生時の母の平均年齢の年次比較—平成14・24年—

Comparison of mean age of mother at first child by prefecture, 2002 · 2012



平成24年の合計特殊出生率を都道府県別にみると、最も高いのは沖縄1.90、次いで島根1.68、宮崎1.67などっている。一方、最も低いのは東京1.09、次いで京都1.23、北海道1.26となっており、おおむね大都市を有する都道府県とその周辺で低い傾向がみられる。

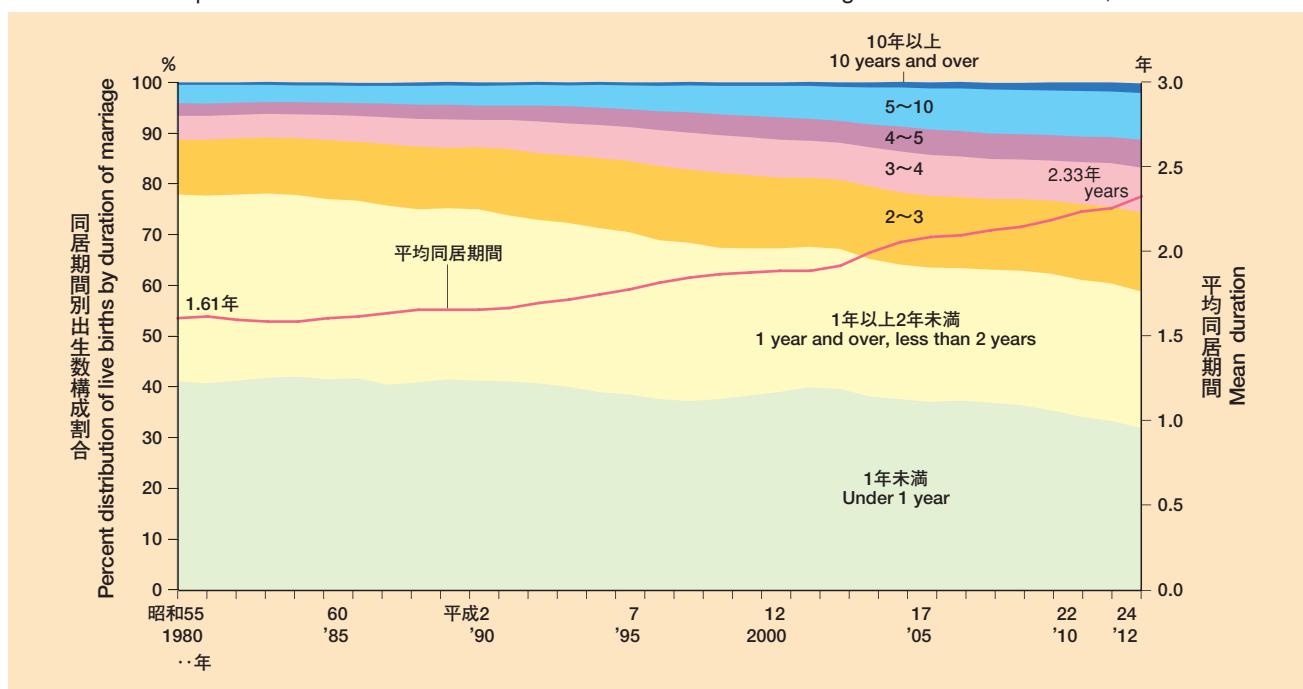
都道府県別に平成24年と14年の合計特殊出生率を比較すると、最も上がり幅が大きかったのは広島で0.20、次いで和歌山0.18、愛媛0.17などっている。一方、最も下がり幅が大きかったのは福島で△0.16、次いで山形△0.10、青森△0.08などっている。

都道府県別に第1子出生時の母の平均年齢をみると、東京、神奈川、千葉、京都、埼玉などの大都市を有する都道府県とその周辺で高くなっている。平成24年と14年を比較すると、すべての都道府県で1.4~2.2歳上昇している。

出生までの同居期間は長くなっている

結婚生活に入ってから第1子出生までの期間別にみた出生数割合及び平均同居期間の年次推移—昭和55～平成24年—

Trends in percent distribution of duration and mean duration of marriage at first child live birth ,1980-2012



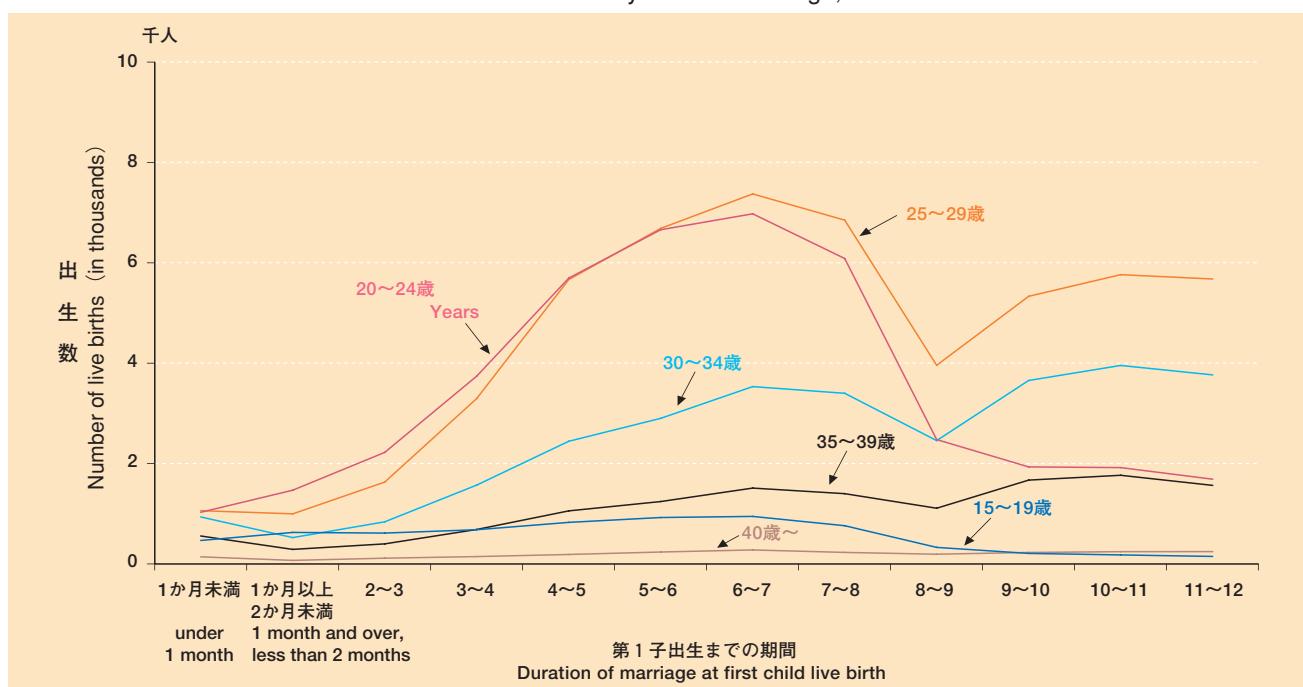
父母が結婚生活に入ってから第1子出生までの平均同居期間をみると、平成24年では2.33年となっており、昭和55年に比べ0.72年伸びている。期間別の内訳を年次推移でみると、2年未満の割合が大きく低下し、4年以上の割合が大きく上昇している。

また、1年未満で第1子を出生した期間を母の年齢階級別にみると、29歳以下では6か月以上7か月末満に出生数が最も多いため、30歳代では10か月以上11か月末満の出生数が多くなっている。

結婚生活に入ってから第1子出生までの期間（1年未満）別にみた母の年齢階級別出生数—平成24年—

First child live births distributed according to duration of marriage, by age of mother,

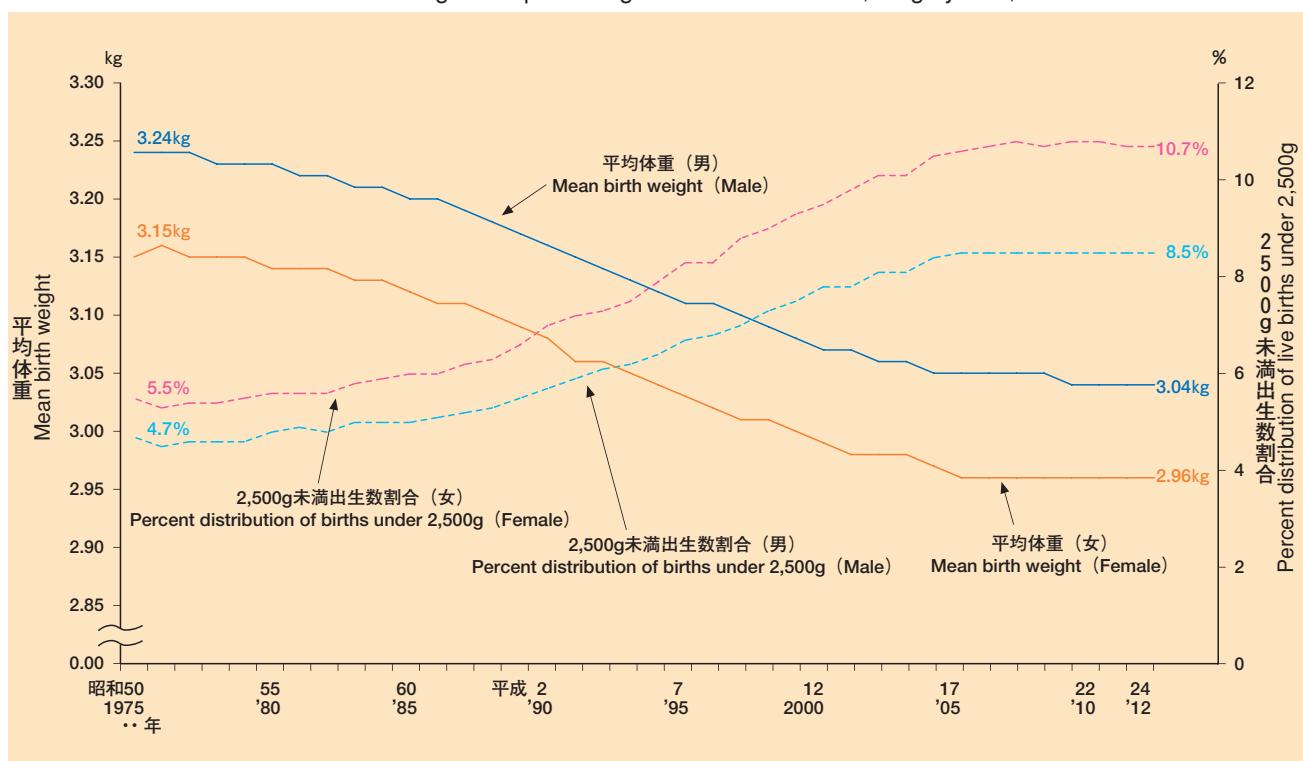
born in less than 1 year from marriage,2012



平均体重は男女とも減少傾向から近年は横ばい

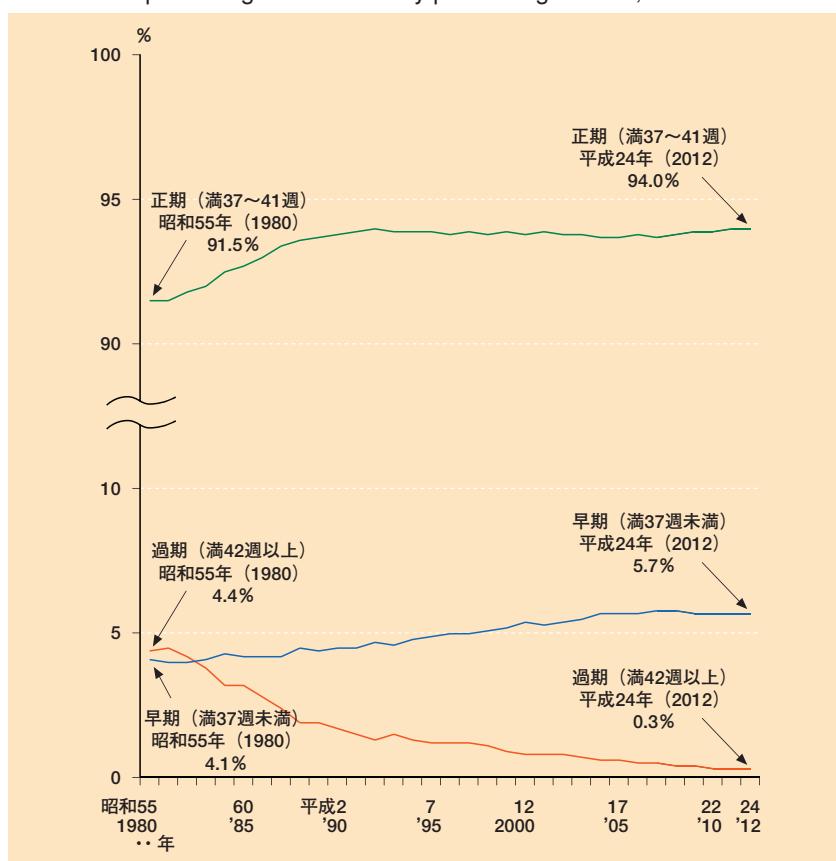
性別にみた出生時平均体重及び2,500g未満出生数割合の年次推移—昭和50～平成24年—

Trends in mean birth weight and percentage of live birth under 2,500g by sex ,1975—2012



妊娠期間別出生数割合の年次推移—昭和55～平成24年—

Trends in percentage of live birth by period of gestation,1980—2012



出生時平均体重はこの37年間で男女ともに約200g減少した。年次推移をみると男女とも減少傾向であったが、男は平成21年以降、女は17年以降横ばいとなっており、平成24年は男3.04kg、女2.96kgとなっている。

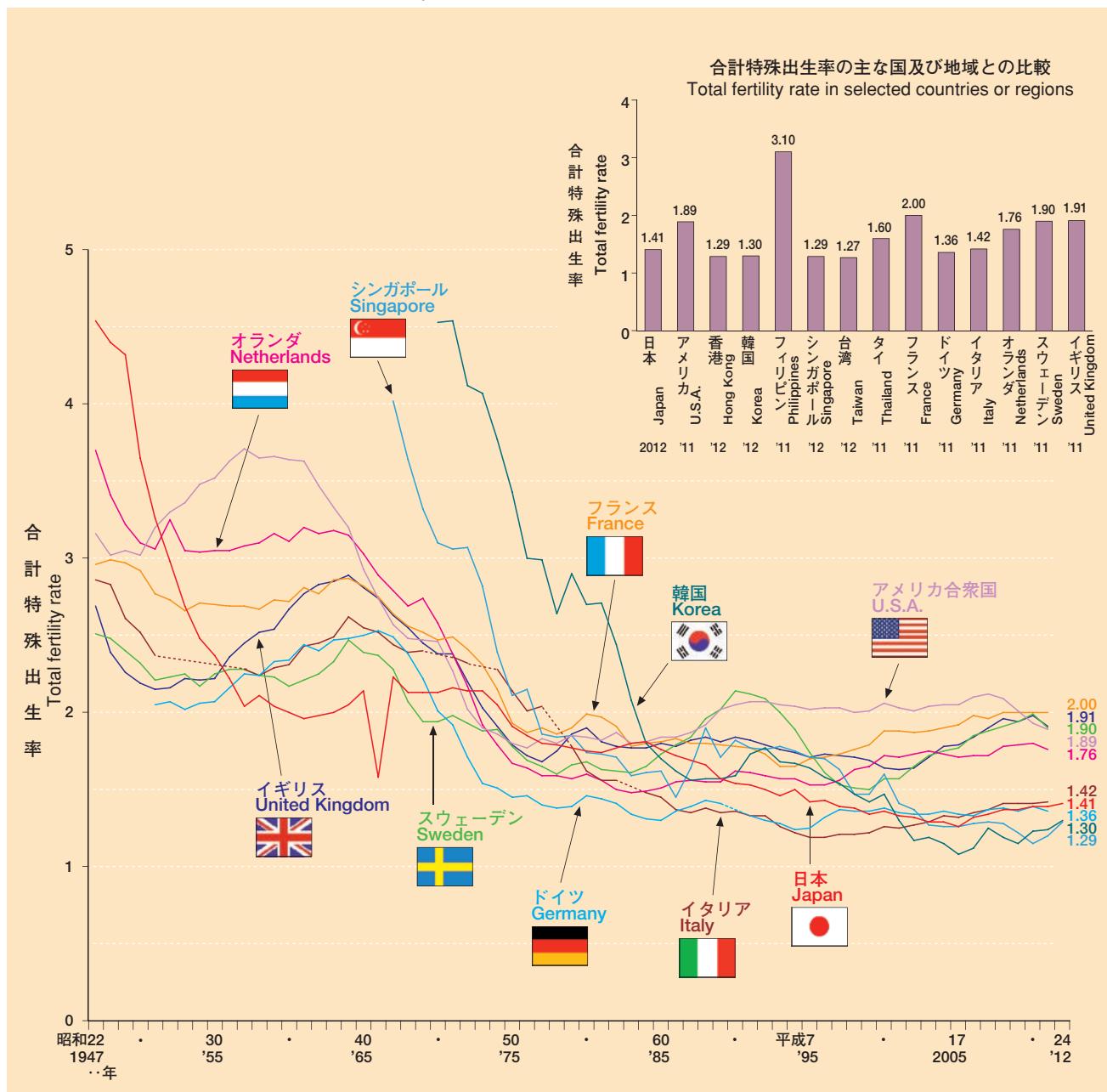
また、全出生数に対する2500g未満出生数割合をみると、男女とも上昇傾向であったが、近年は横ばいとなり、平成24年は男8.5%、女10.7%となっている。

妊娠期間別出生数割合をみると、早期(満37週未満)は緩やかな上昇傾向にあったが、近年は横ばいとなっている。正期(満37～41週)は昭和60年代前半頃まで上昇していたが、その後は横ばいが続いている。過期(満42週以上)は、昭和55年に6万9873人で全出生数の4.4%を占めていたが、年々低下し、平成24年は2905人で0.3%となった。

我が国の合計特殊出生率は2006年以降、緩やかな上昇傾向

合計特殊出生率の年次推移—諸外国との比較 1947～2012年

Total fertility rates in selected countries, 1947–2012



注：点線は数値なし。

ドイツは1990年までは旧西ドイツの数値である。

イギリスは1981年まではイングランド・ウェールズの数値である。

資料：UN「Demographic Yearbook」

US Department of Health and Human Services「National Vital Statistics Report」

Eurostat「Population and Social Conditions」

Council of Europe「Recent demographic developments in Europe」

WHO「World Health Statistics」

韓国統計庁資料

香港統計局資料

台湾内政部資料

国立社会保障・人口問題研究所「研究資料第287号」

我が国と諸外国との合計特殊出生率を比較したものである。

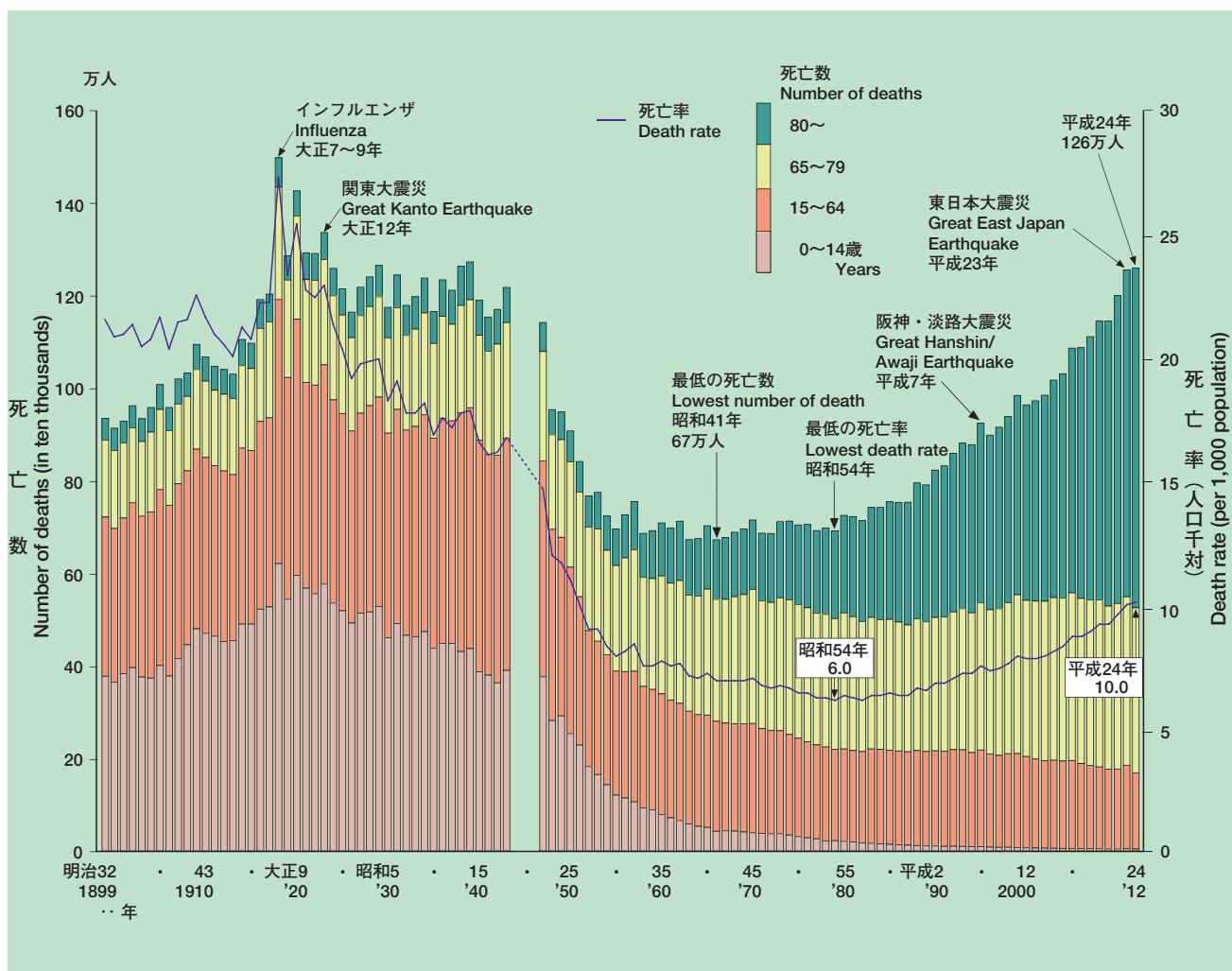
我が国は1947年は4.54と高率であったが、以後急激に低下し、1957年には2.04と諸外国に比べ低くなった。1960年代後半から各国が低下傾向のなか、我が国は第2次ベビーブーム期に横ばいとなったが、1980年代前半を除き再び低下傾向となった。その後、欧米では1990年代後半から上昇傾向となっている国が多いなか、我が国は2006年以降緩やかな上昇傾向となっている。

死亡の動き General mortality

死亡数は前年を上回る

死亡数及び死亡率の年次推移—明治32～平成24年—

Trends in deaths and death rates, 1899–2012



注：点線は数値なし。

平成24年の死亡数は125万6359人で前年より3293人増加し、死亡率（人口千対）は、10.0と上昇した。

死亡数と死亡率の年次推移をみると、明治から大正にかけて、死亡数は90万～120万人、死亡率は20台で推移してきた。昭和に入って初めて死亡率は20を割り、昭和16年に死亡数は115万人、死亡率は16.0まで低下した。第2次世界大戦後の22年に死亡数は114万人、死亡率は14.6であったが、医学や医療の進歩及び公衆衛生の向上などにより死亡の状況は急激に改善され、41年には死亡数が最も少ない67万人、54年には死亡率が最も低い6.0となった。

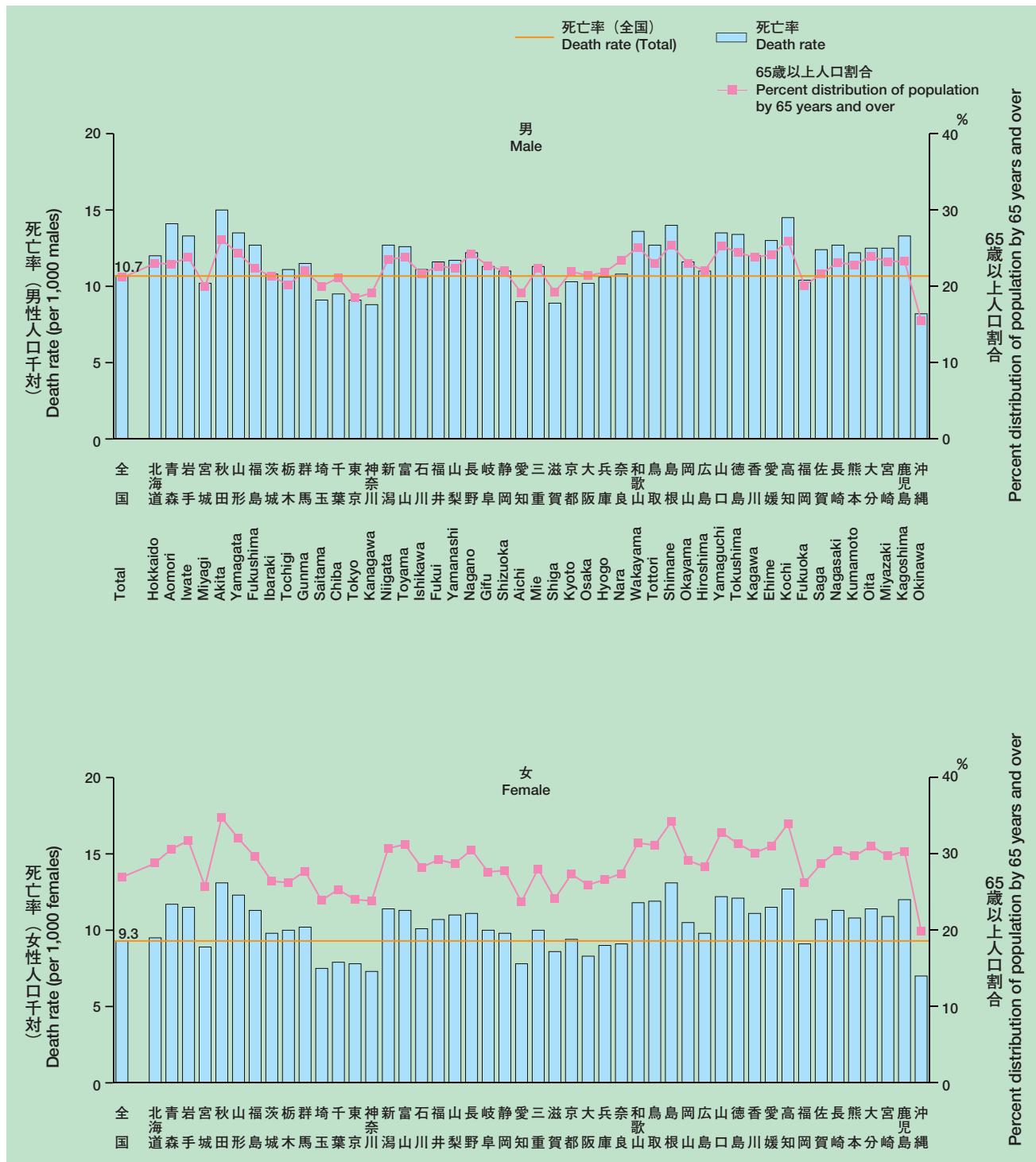
その後、人口の高齢化を反映して緩やかな増加傾向に転じ、平成15年に死亡数は100万人を超えた、死亡率も上昇傾向にある。

また、年齢階層でみると、14歳以下の死亡数は、明治から昭和初期にかけて多かったが、戦後、急激に減少している。近年では人口の高齢化を反映して65歳以上の死亡数が増加し、特に80歳以上の死亡数の増加は顕著で、全死亡数に占める割合は上昇しており、平成24年では58.3%となっている。

都道府県別にみた死亡率と65歳以上人口割合は、ほぼ同様の傾向

性別にみた都道府県別死亡率及び65歳以上人口割合一平成24年一

Death rates and percent distribution of population by 65 years and over by prefecture and sex, 2012



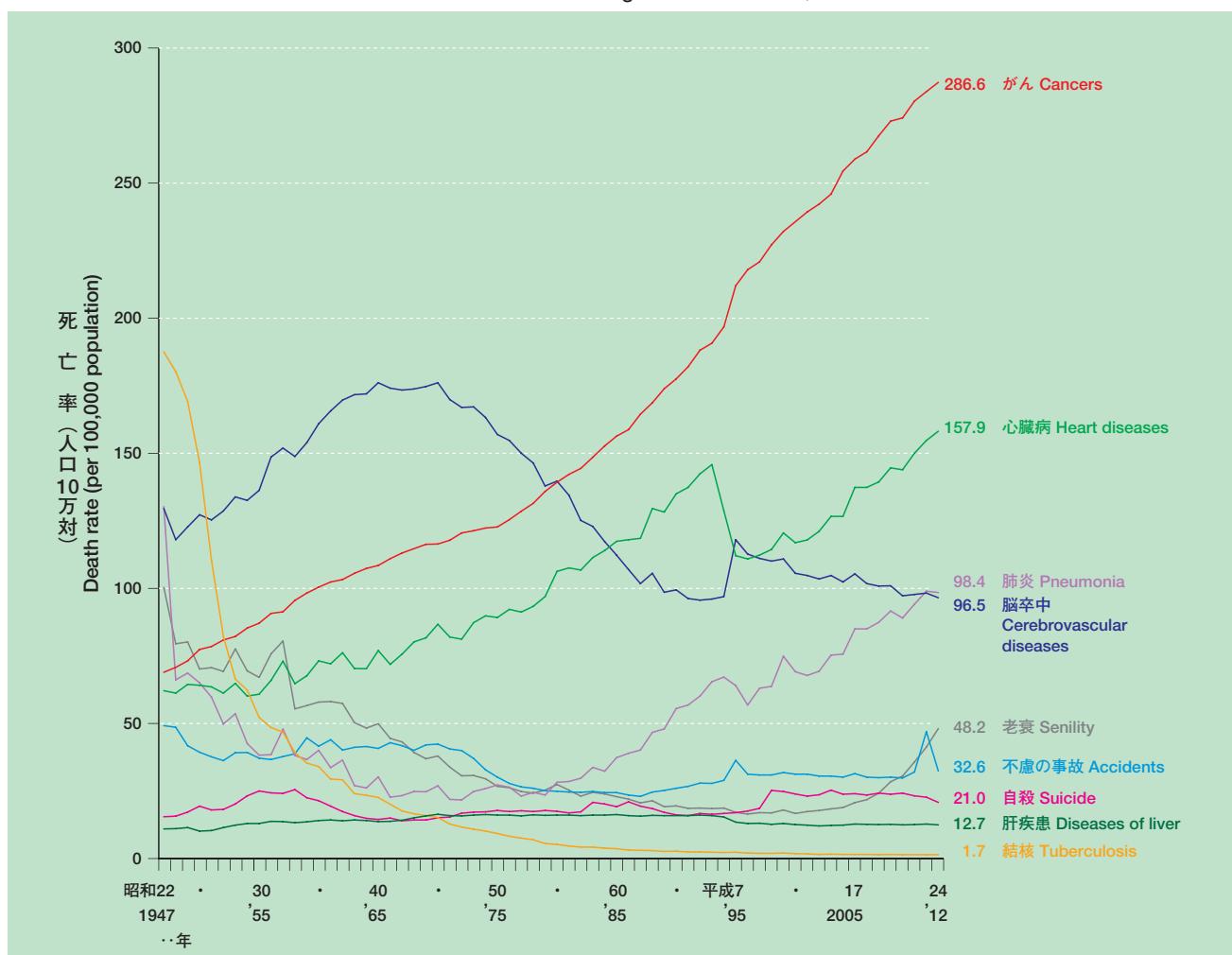
注：65歳以上人口割合とは、総人口に占める65歳以上の人口の割合である。

資料：65歳以上人口割合については、「人口推計（平成24年10月1日現在）」（総務省統計局）

平成24年の性別死亡率（人口千対）は男10.7、女9.3である。これを都道府県別にみると、死亡率が最も低いのは男では沖縄が8.2、次いで神奈川8.8、滋賀8.9、女では沖縄が7.0、次いで神奈川7.3、埼玉7.5である。また、最も高いのは男では秋田15.0、次いで高知14.5、青森14.1、女では島根と秋田で13.1、次いで高知12.7となっている。都道府県別にみた死亡率と65歳以上人口割合は、ほぼ同様の傾向である。

がんの死亡率は、上昇を続けている

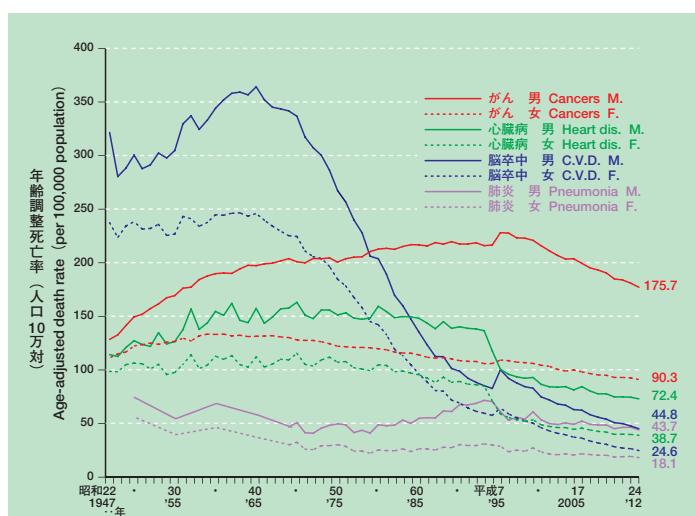
主な死因別にみた死亡率の年次推移—昭和22～平成24年—
Trends in death rates for leading causes of death, 1947–2012



主な死因別にみた性別年齢調整死亡率の年次推移

—昭和22～平成24年—

Trends in age-adjusted death rates for leading causes by sex,
1947–2012



注：1) C.V.D.←Cerebrovascular diseases

2) 年齢調整死亡率については、5頁、59頁を参照

3) 肺炎については、昭和25～40年までは5年ごと、44年以降は各年のデータである。

*1 本書の場合の「がん」、「心臓病」、「脳卒中」は国際疾病傷害死因分類における「悪性新生物」、「心疾患(高血圧性を除く)」、「脳血管疾患」にあたる。

*2 平成6、7年の心臓病の低下は、新しい死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）における「死亡の死因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの、事前周知の影響によるものと考えられる。

*3 平成7年の脳卒中の上昇の主な要因は、ICD-10（平成7年1月適用）による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

平成24年の主な死因別の死亡率（人口10万対）をみると、がん286.6、心臓病157.9、肺炎98.4、脳卒中96.5、老衰48.2などとなっている。年次推移をみると、がんは一貫して上昇を続け、昭和56年以降死因順位の第1位となっている。

心臓病は昭和60年に第2位となり、その後も上昇していたが、平成6、7年には急激に低下した。9年からは再び上昇傾向となっている。

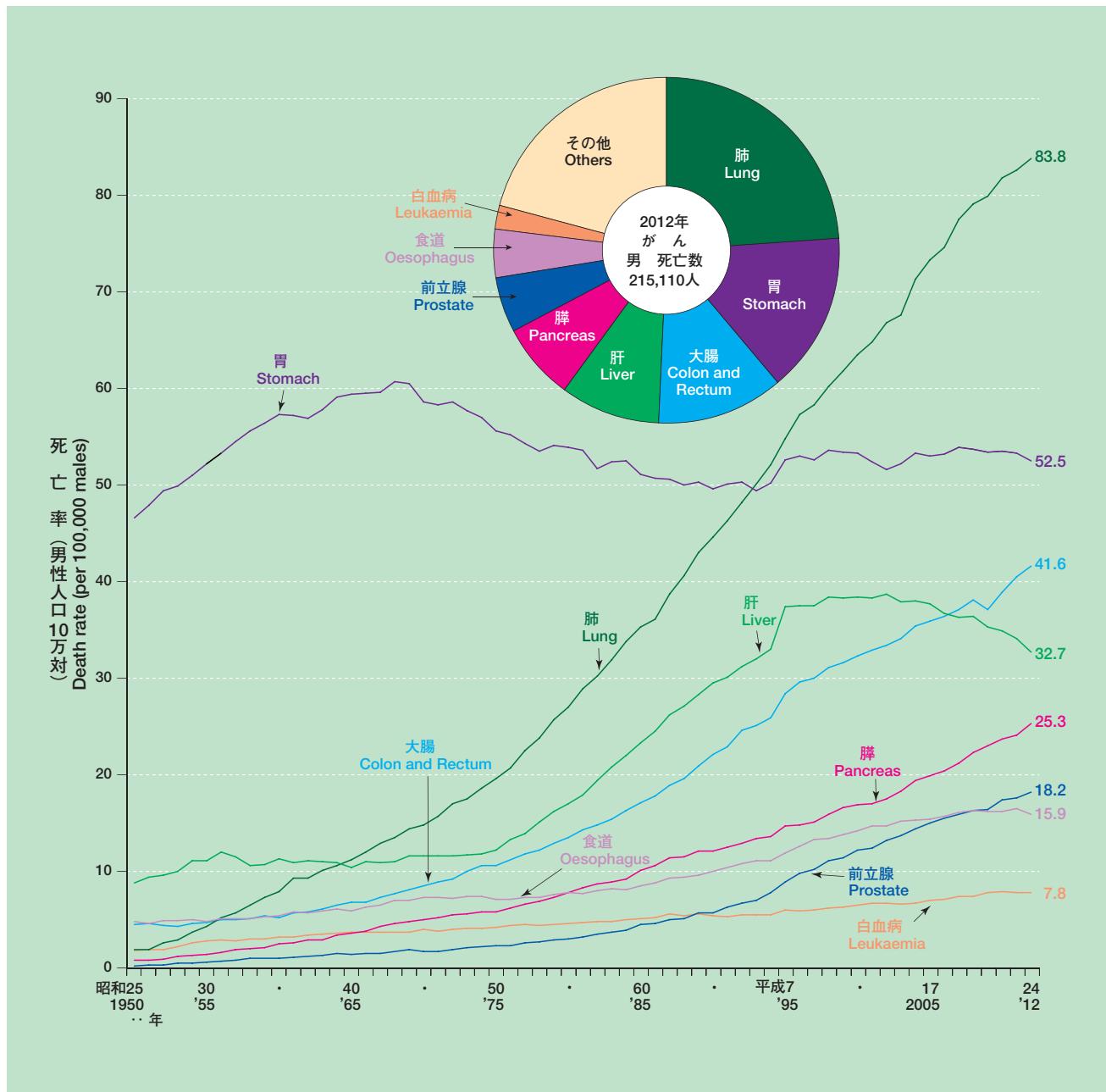
肺炎は昭和22年以降低下傾向であったが、48年以降は上昇傾向に転じ、平成23年には脳卒中を抜いて第3位となった。

脳卒中は昭和45年から低下、平成3年以降は横ばいで推移し、7年に急激に上昇したものの、その後は低下傾向となっている。

死亡の状況はその集団における人口の年齢構成に影響されるので、その年齢構成の差を取り除いて比較するための年齢調整死亡率で主な死因の年次推移をみると、近年は総じて低下傾向にある。

男は肺がんが第1位

部位別にみたがんの死亡率の年次推移、男—昭和25～平成24年—
Trends in death rates for cancers by site, Male, 1950–2012



注：1) 大腸←結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸（昭和40年まで直腸肛門部を含む。）Colon and Rectum←Colon and rectosigmoid junction and rectum
2) 肝←肝及び肝内胆管（昭和32年まで胆のう及び肝外胆管を含む。）Liver←Liver and intrahepatic bile ducts
3) 肺←気管、気管支及び肺 Lung←Trachea, bronchus and lung

平成24年の男のがんの死亡数は21万5110人、死亡率（男性人口10万対）は350.8である。

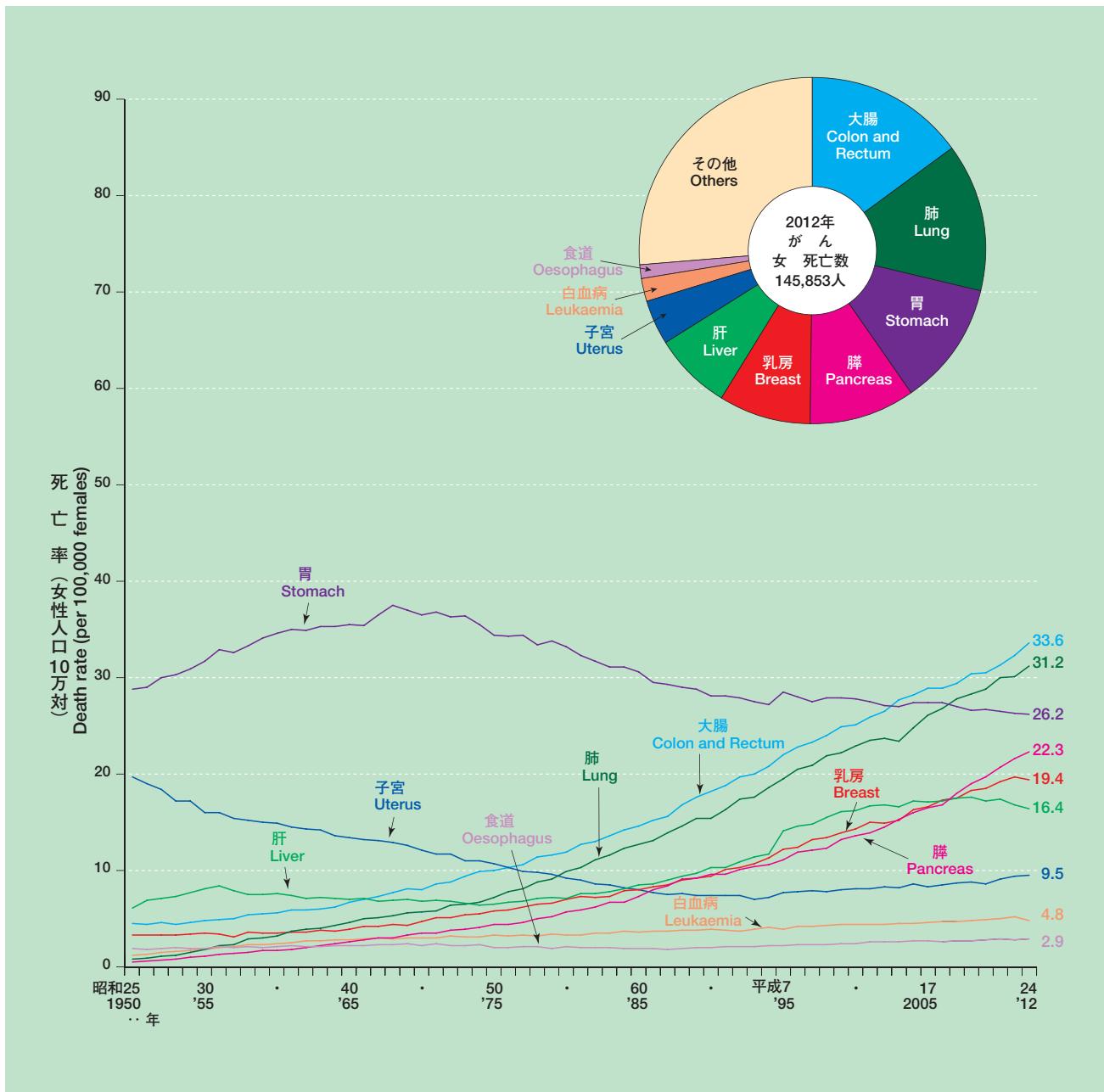
部位別に死亡率の年次推移をみると、肺がんは一貫して上昇を続けており、5年には胃がんを抜いて第1位となり、引き続き上昇している。

4年まで第1位であった胃がんは昭和43年をピークに低下傾向が続いているが、平成6年から上昇傾向となり、近年は横ばいとなっている。

大腸がんは上昇を続け、19年に肝がんを抜き第3位となり、上昇傾向にある。その他の部位では、上昇傾向であった肝がんは、近年は横ばいから低下傾向で推移しているが、脾がん、前立腺がんは上昇傾向にある。

女は大腸がんが第1位

部位別にみたがんの死亡率の年次推移、女—昭和25～平成24年—
Trends in death rates for cancers by site, Female, 1950—2012



注：平成6年以前の「子宮」は胎盤を含む。

平成24年の女のがんの死亡数は14万5853人、死亡率（女性人口10万対）は225.7である。

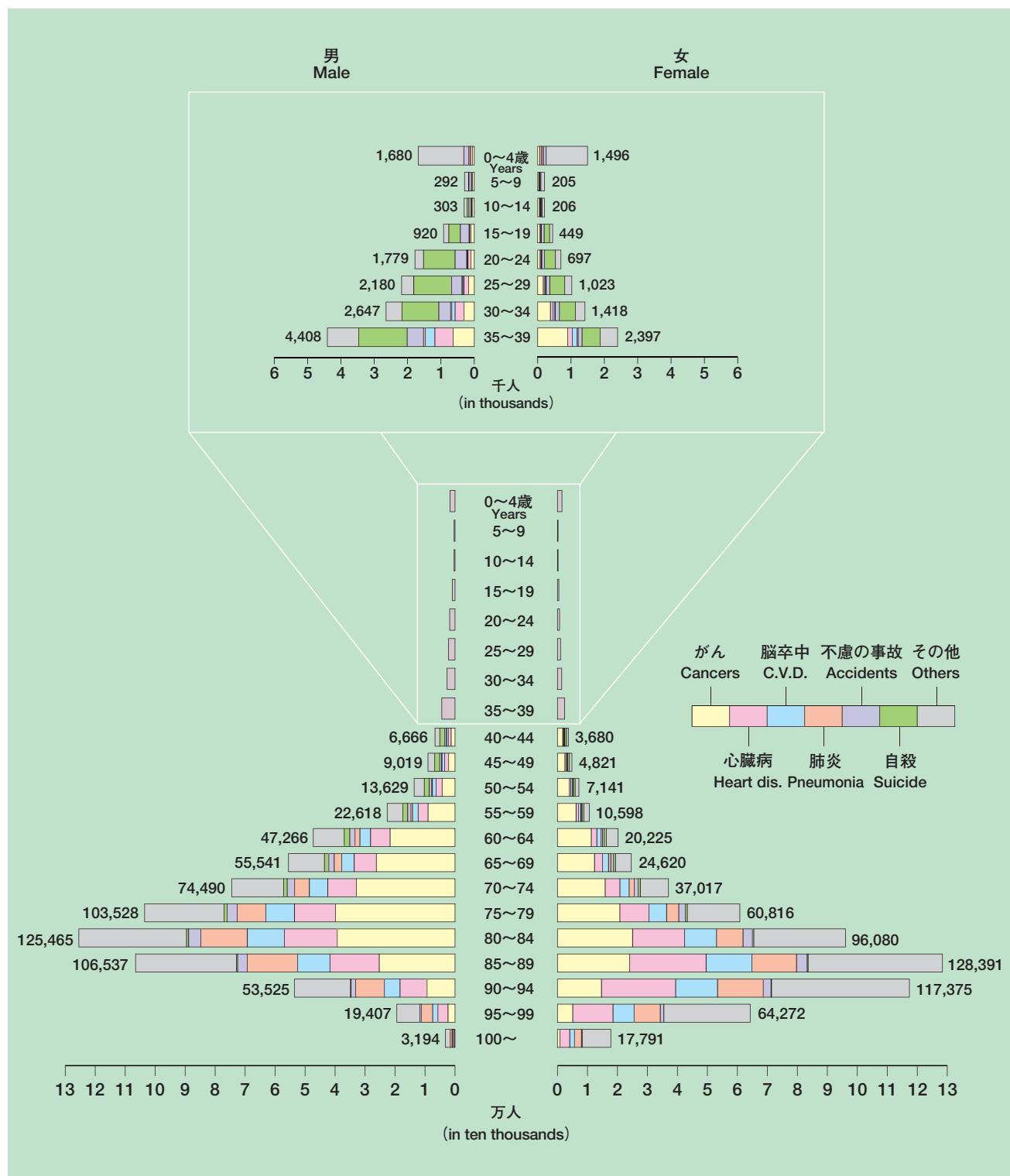
部位別に死亡率の年次推移をみると、一貫して上昇を続けていた大腸がんは、平成15年に胃がんを抜き、以降第1位となった。19年には、同様に上昇を続けていた肺がんも胃がんを抜いた。

脾がん、乳がんは上昇傾向にあり、また、子宮がんも近年緩やかな上昇傾向にある。

青年層では不慮の事故と自殺が多く、中高年層ではがんが多い

性・年齢階級別にみた主な死因の死亡数—平成24年—

Deaths from leading causes by sex and age groups, 2012



注：C.V.D. ← Cerebrovascular diseases

平成24年の性・年齢階級別の死亡数を主な死因別にみると、男女とも10歳代、20歳代では、不慮の事故及び自殺が多くなっている。50歳代、60歳代、70歳代では、がんが多くなり、80歳代以降は心臓病、脳卒中、肺炎が多くなっている。

自殺の死亡率は男が高い

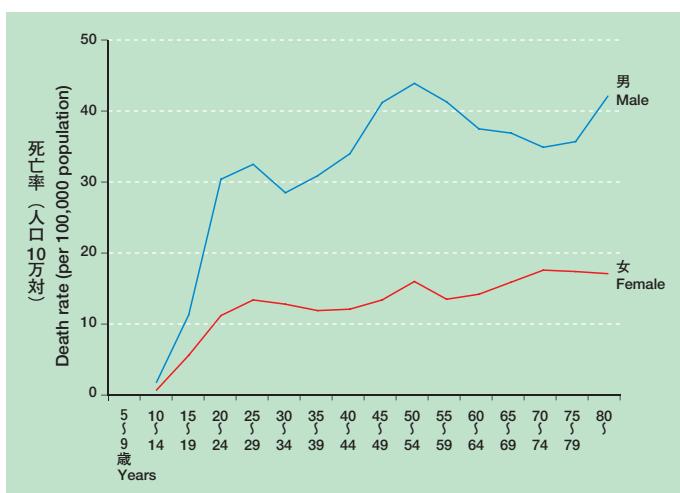
性別にみた自殺の死亡率の年次推移—昭和25～平成24年—

Trends in death rates for suicide by sex, 1950–2012



性・年齢階級別にみた自殺の死亡率—平成24年—

Death rates for suicide by sex and age groups, 2012



平成24年の自殺の死亡数は2万6433人、死亡率(人口10万対)は21.0で死因順位は第7位となっている。

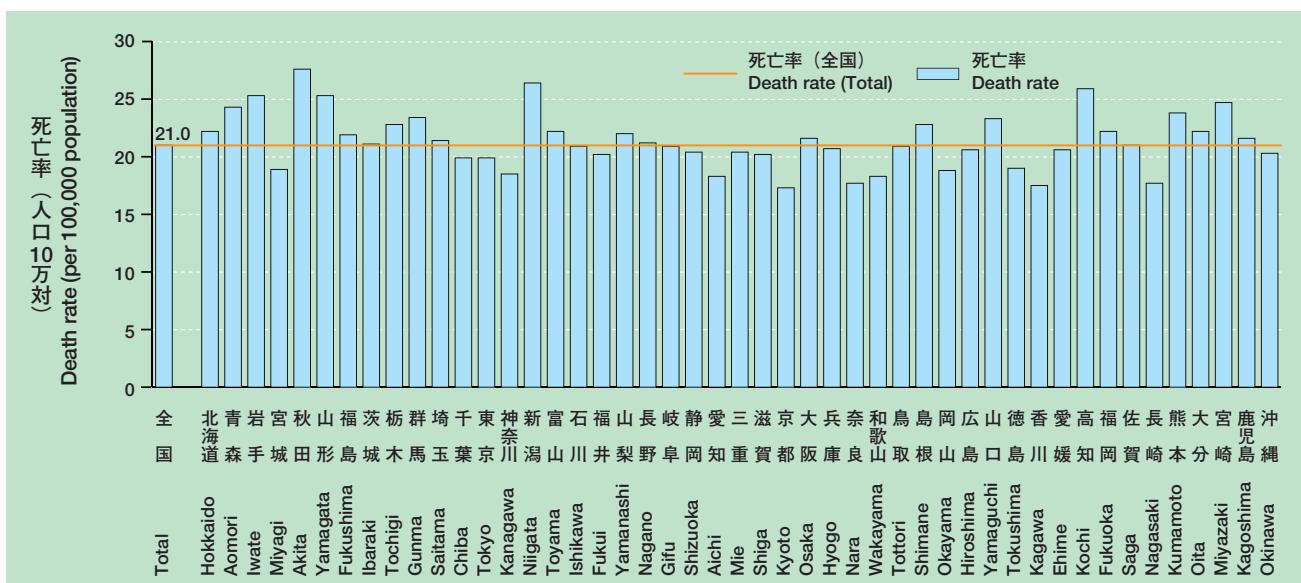
自殺の死亡率の年次推移を男女別にみると、男が一貫して高い水準で推移しており、男女とも昭和30年代前半に高く、以後40年代前半まで低下している。その後は60年前後に高くなったのち、平成3年まで低下したが、再び平成10年に急激に上昇した。その後は高い水準が続いているが、男は平成22年以降3年連続低下し、女は24年に低下した。

性・年齢階級別にみると、男は50～54歳が43.9、女は70～74歳が17.6と最も高くなっている。

都道府県別にみると、最も高いのは秋田27.6、次いで新潟26.4、高知25.9などで、最も低いのは京都17.3、次いで香川17.5、長崎と奈良で17.7などとなっている。

都道府県別にみた自殺の死亡率—平成24年—

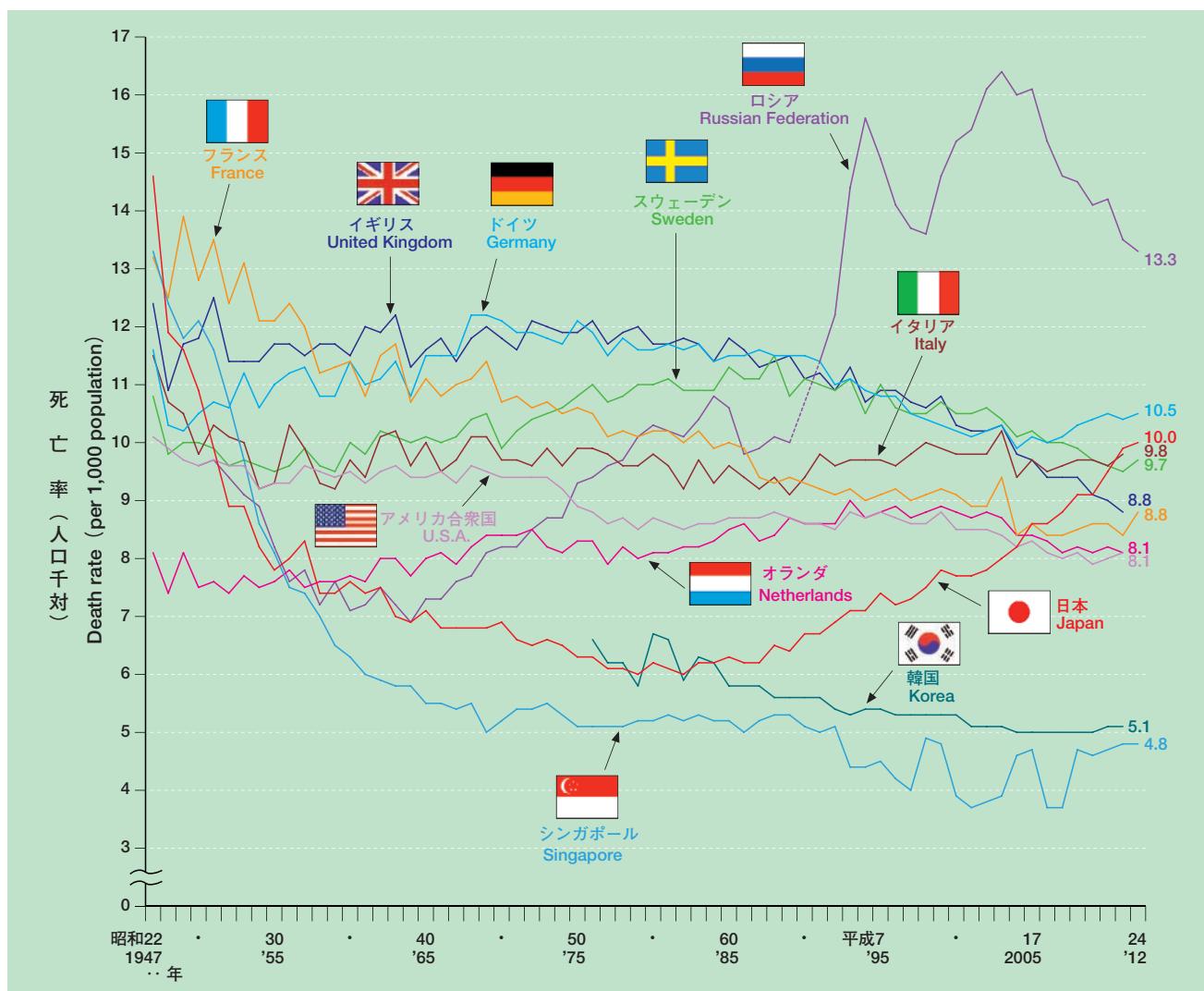
Death rates for suicide by prefecture, 2012



我が国の死亡率は、諸外国を上回る急速な高齢化を反映して上昇

死亡率の年次推移—諸外国との比較 1947～2012年

Death rates in selected countries, 1947–2012



注：点線は数値なし。

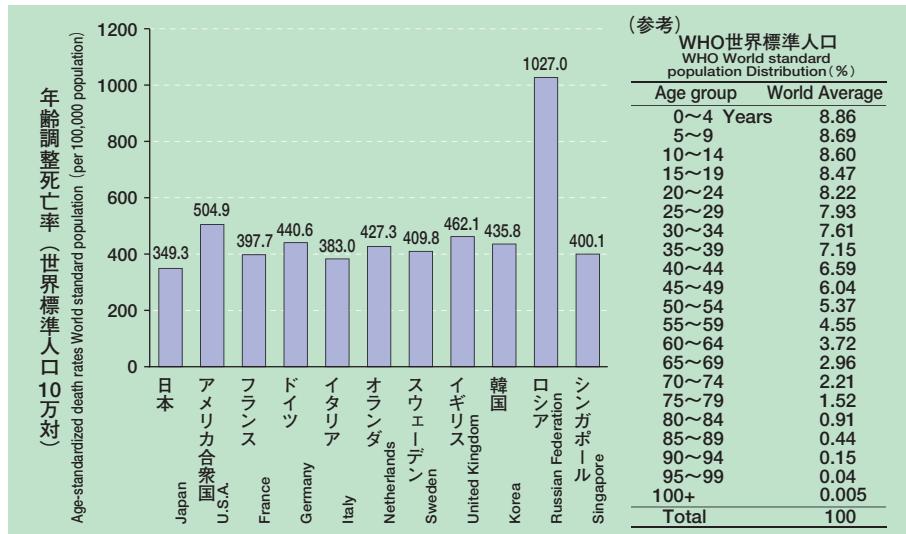
ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。

ロシアの1990年までは旧ソビエト連邦の数値である。

資料：UN「Demographic Yearbook」

年齢調整死亡率の諸外国との比較 2008年

Age-standardized death rates selected countries, 2008



注：標準人口はWHOが作成した世界標準人口による。

資料：WHO「Global burden of disease : 2008」

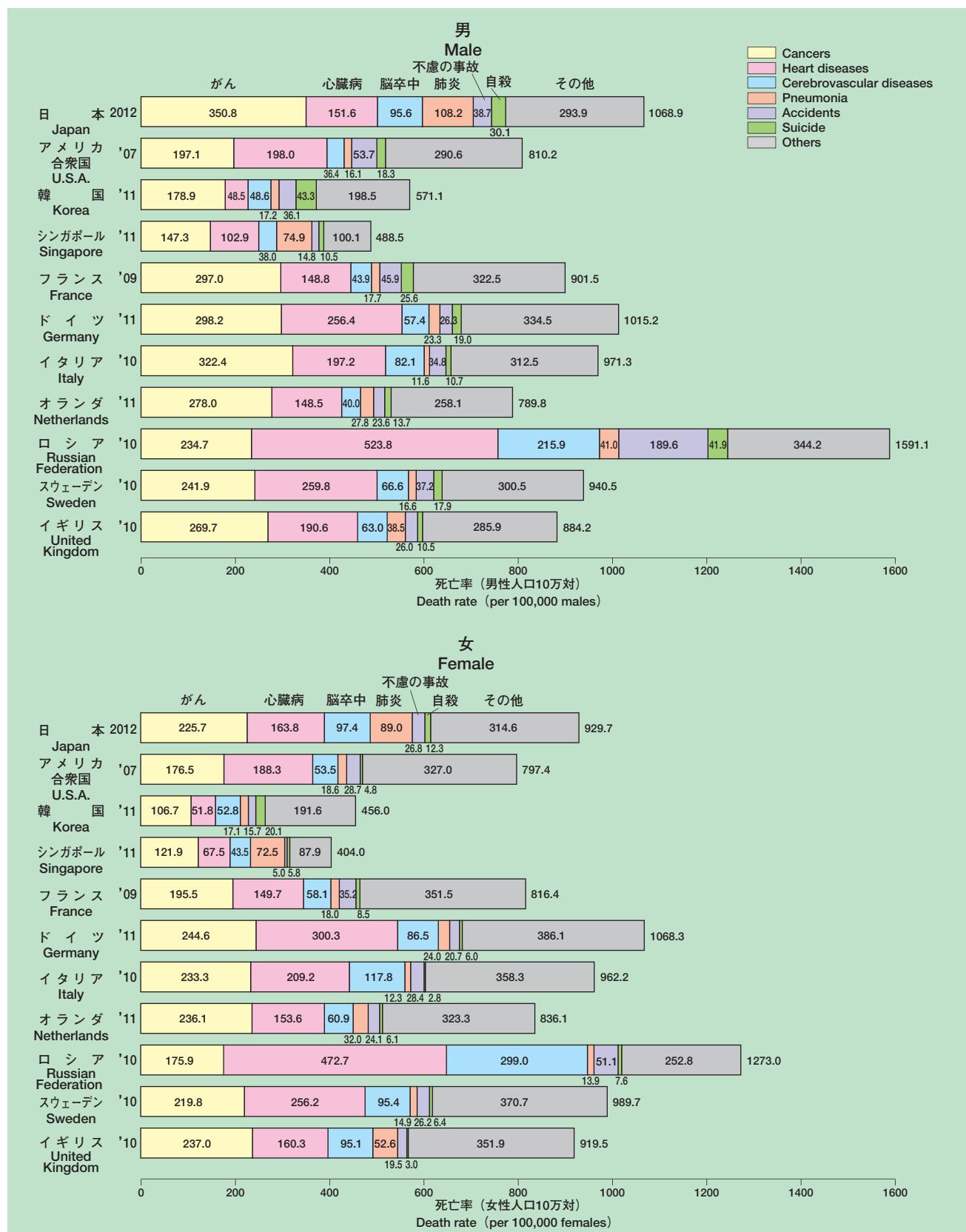
我が国の死亡率（人口千対）の年次推移を諸外国と比較すると、1947年の死亡率は諸外国と比べて高かったが、医学の進歩、公衆衛生の向上などによって急速に改善され、1965年以降は欧米諸国より低くなっていた。しかし、近年、我が国は諸外国を上回る急速な人口の高齢化を反映して上昇している。

年齢構成の差を取り除いて比較するための年齢調整死亡率（世界標準人口 10万対）でみると、我が国は低率国である。

我が国は男女とも肺炎が、諸外国と比べて高い

性別にみた主な死因別死亡率の諸外国との比較

Death rates for leading causes of death by sex in selected countries



注：1) 心臓病及び不慮の事故は、我が国で使用している死因分類の範囲と一致しない。

2) 死因分類についてはICD-10による分類である。ただし、シンガポールはICD-9による分類である。

資料：WHO “Health statistics and health information systems 「Mortality Database」”

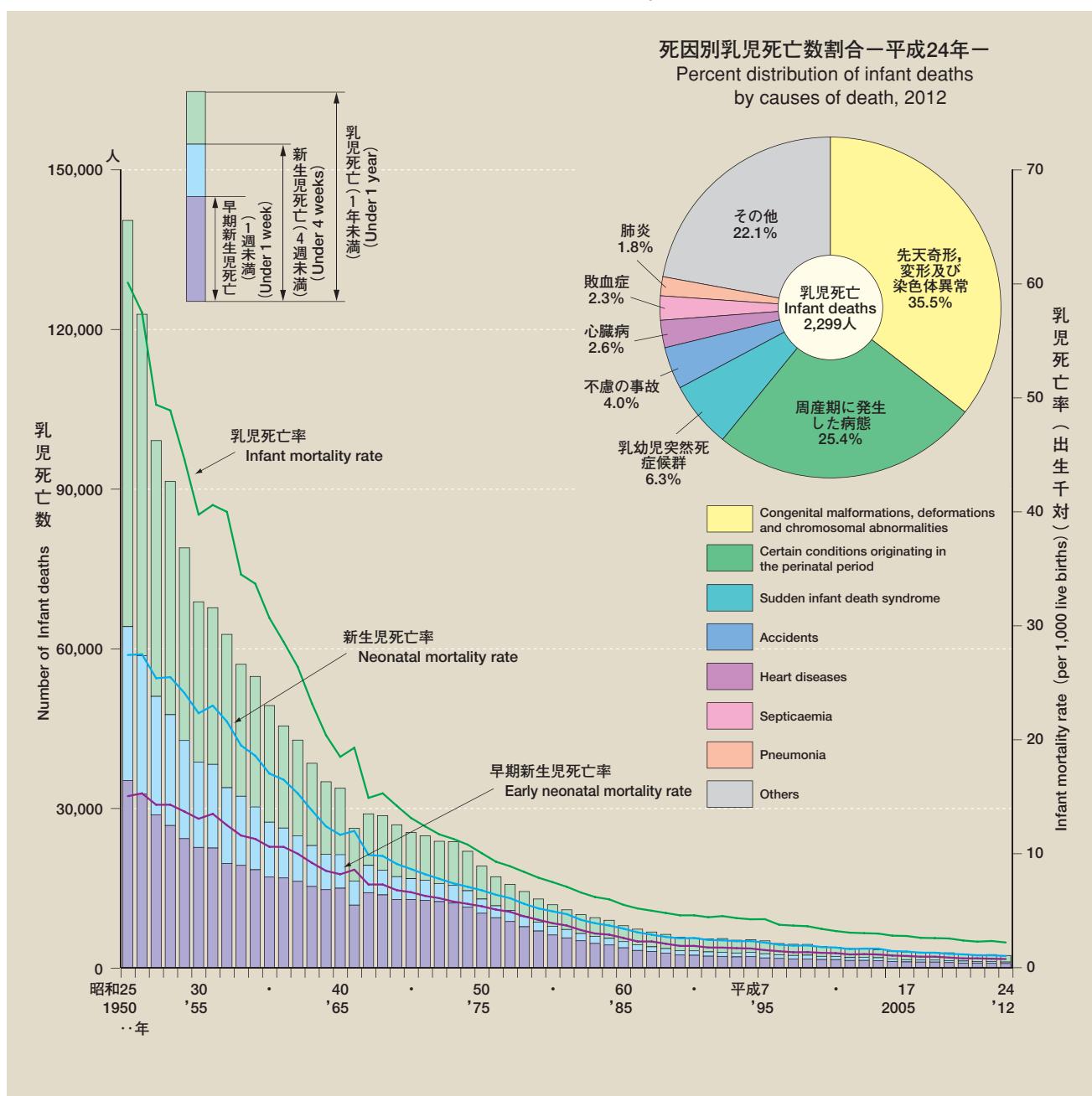
我が国の性別の死亡率（人口10万対）を諸外国と比較すると、男女とも肺炎が、諸外国と比べて高くなっている。

乳児死亡の動き Infant mortality

乳児死亡率は低下傾向

乳児死亡数及び乳児死亡率の年次推移—昭和25～平成24年—

Trends in infant deaths and infant mortality rates, 1950–2012



乳児死亡とは、生後1年未満の死亡であり、このうち4週（28日）未満の死亡を新生児死亡、1週（7日）未満の死亡を早期新生児死亡という。

平成24年の乳児死亡数は2299人、乳児死亡率（出生千対）は2.2となっている。

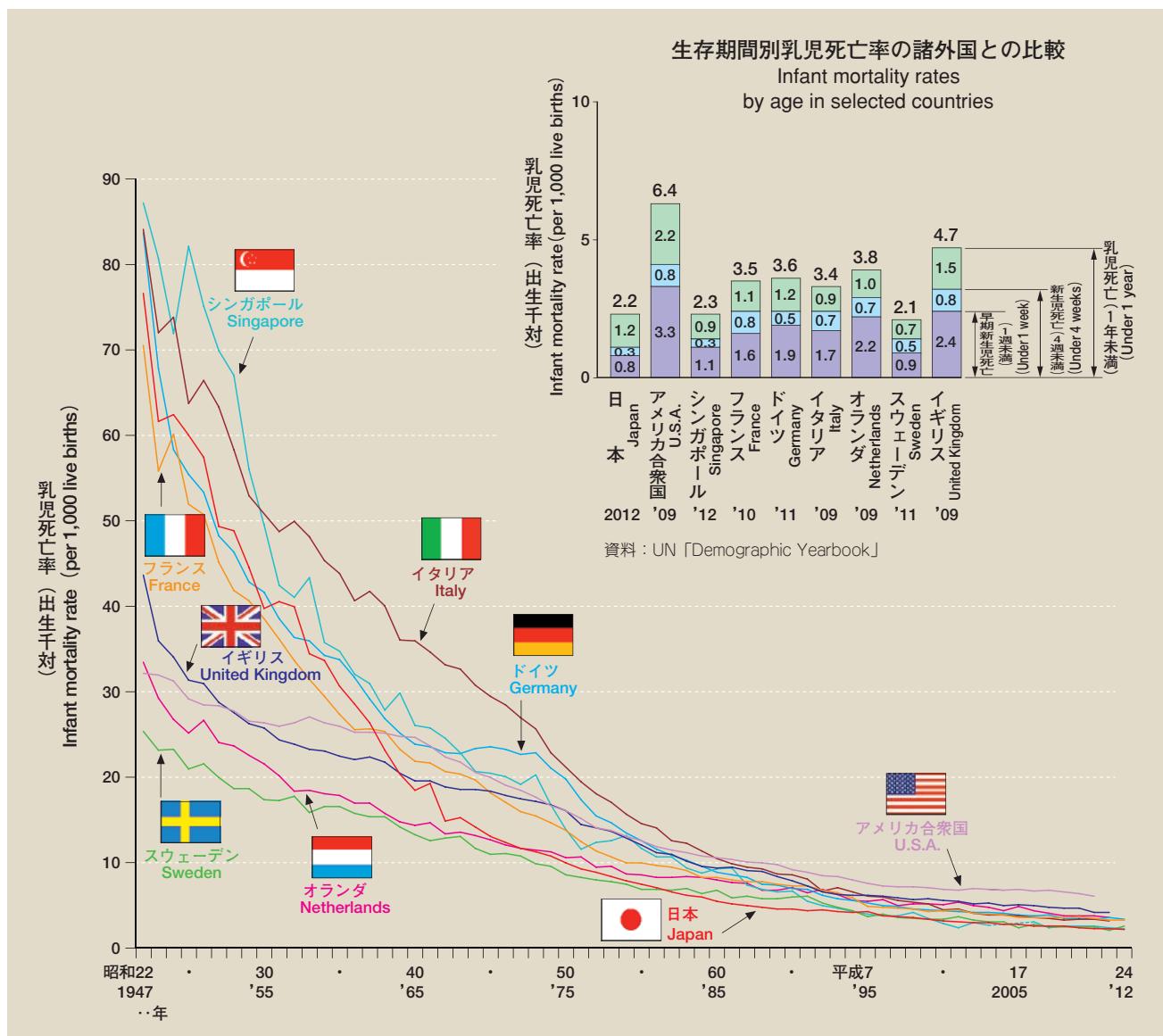
生存期間別に乳児死亡率の年次推移をみると、昭和40年代半ばまでは生後1週以上4週未満及び4週以上1年未満の死亡は急速に低下したが、近年は緩やかな低下傾向となっている。

平成24年の死因別乳児死亡数割合は、「先天奇形、変形及び染色体異常」が最も多く35.5%で、次いで「周産期に発生した病態」が25.4%となっている。

我が国の乳児死亡率は低い

乳児死亡率の年次推移—諸外国との比較 1947~2012年

Infant mortality rates in selected countries, 1947–2012



資料：UN「Demographic Yearbook」

【乳児死亡率 最新年の数値】 Infant mortality rates

日本 Japan	アメリカ U.S.A.	シンガポール Singapore	フランス France	ドイツ Germany	イタリア Italy	オランダ Netherlands	スウェーデン Sweden	イギリス United Kingdom
2012	2010	2012	2012	2012	2011	2011	2012	2011
2.2	6.1	2.3	3.3	3.4	3.2	3.6	2.6	4.2

我が国の乳児死亡率（出生千対）の年次推移を諸外国と比較したものである。

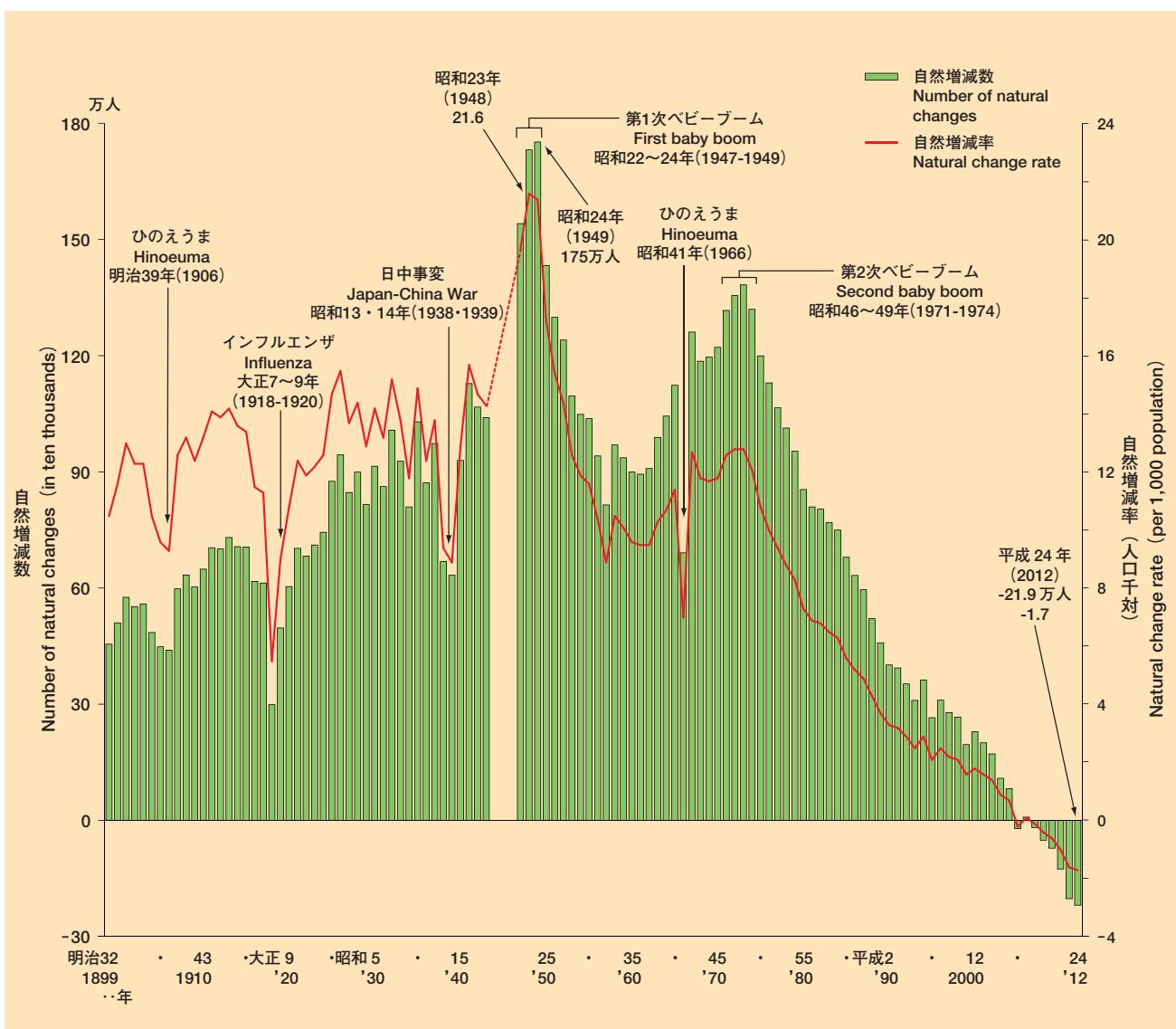
1947年から1960年代初めまでの乳児死亡率は諸外国と比べて高かったが、その後は低下し、現在は世界でも有数の低率国である。

自然増減の動き Natural change

自然増減数・自然増減率は6年連続でマイナス

自然増減数及び自然増減率の年次推移—明治32～平成24年—

Trends in natural changes and natural change rates, 1899–2012



平成24年の自然増減数（出生数から死亡数を減じたもの）は△21万9128人で、前年の△20万2260人より1万6868人減少し、自然増減率（人口千対）は△1.7で前年の△1.6を下回った。

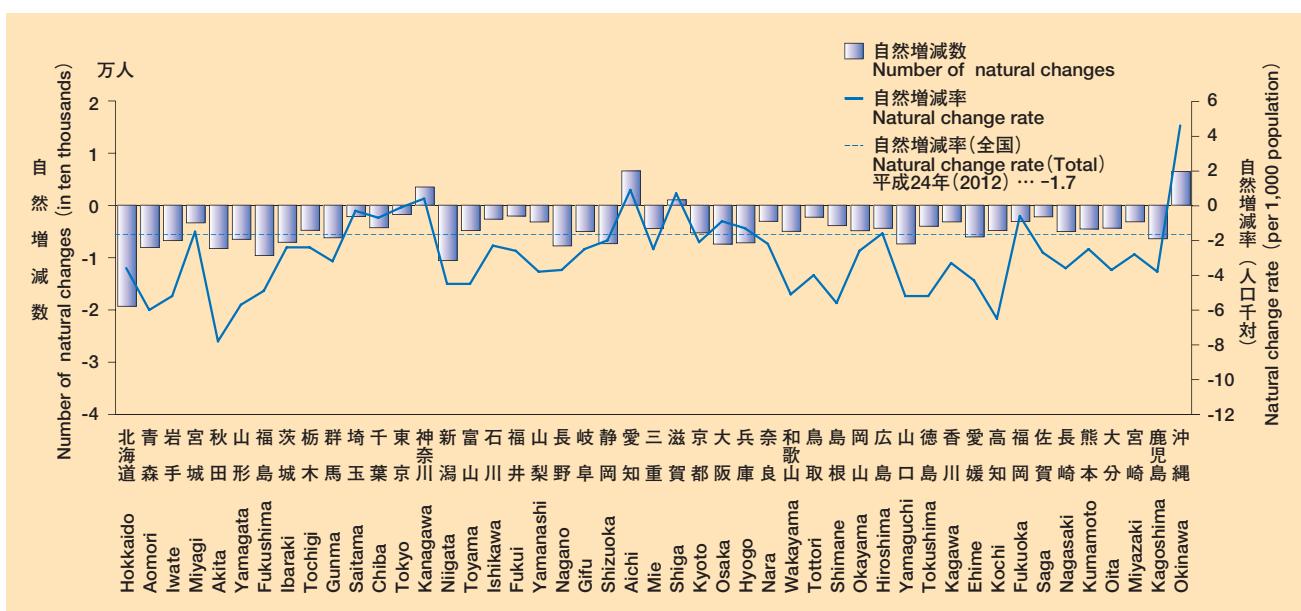
自然増減数の年次推移をみると、第2次世界大戦前は増加傾向であったが、戦後は第1次ベビーブーム期の昭和24年の175万人をピークに減少した。その後、昭和37年に再び増加に転じ、46年から49年の第2次ベビーブーム期には130万人を超えていたが、50年以降は、出生数の減少により自然増減数も減少し、平成元年に50万人を割った。

平成2年からは出生数は横ばいであったが、人口の高齢化による死亡数の増加により減少し、11年には20万人を割った。12年には増加したもの、13年以降は出生数の減少と死亡数の増加の双方により減少し、16年には10万人を割り、17年には統計の得られていない昭和19年から21年を除き、現在の形式で統計をとり始めた明治32年以降初めて出生数が死亡数を下回りマイナスとなった。平成18年はプラスとなったものの、19年からは6年連続でマイナスとなっている。

出生数が死亡数を上回った県は4県

都道府県別にみた自然増減数及び自然増減率一平成24年一

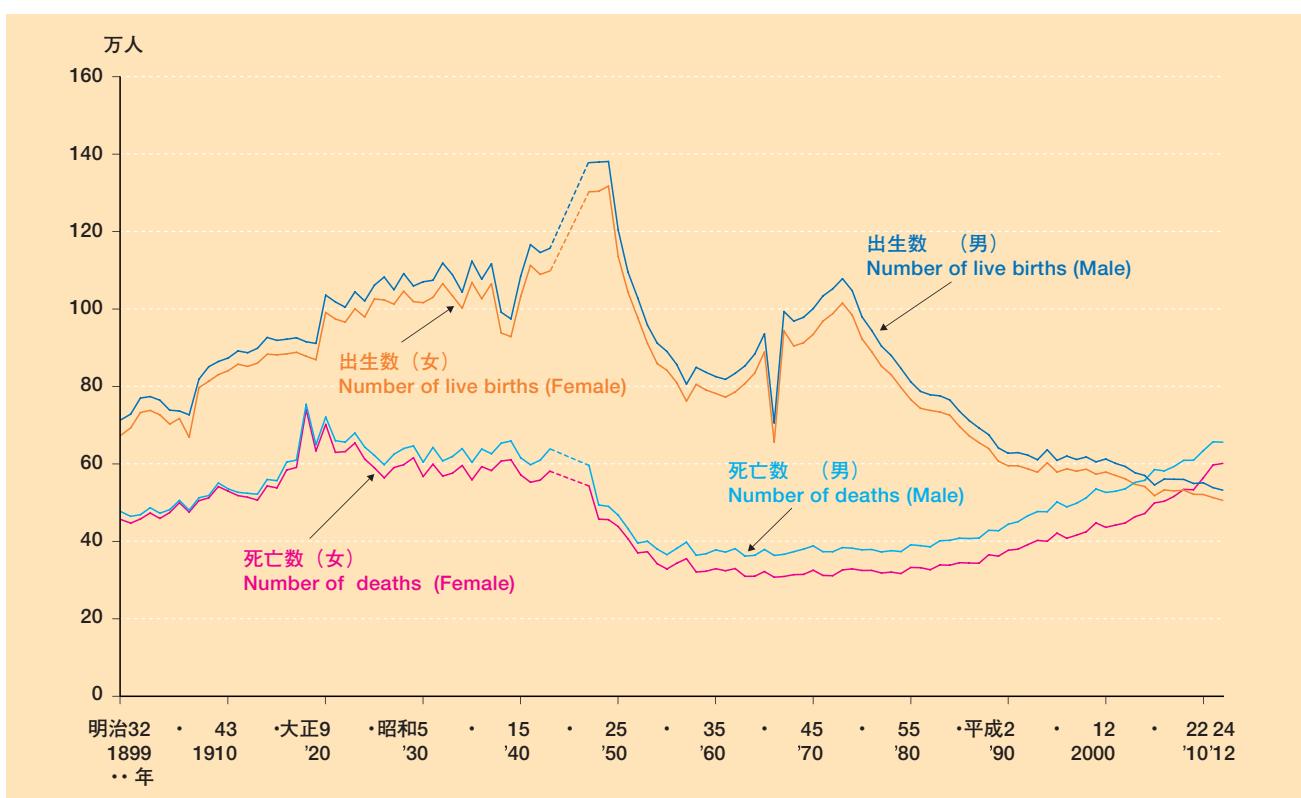
Natural changes and natural change rates by prefecture, 2012



自然増減数は男は平成17年、女は20年以降減少

性別にみた出生数及び死亡数の年次推移一明治32～平成24年一

Trends in live births and deaths by sex , 1899-2012



自然増減数を都道府県別にみると、出生数が死亡数を上回った県は、神奈川県、愛知県、滋賀県、沖縄県の4県となっている。自然増減率（人口千対）をみると、最も高い県は沖縄県で、4.6となっており、最も低い県は秋田県で△7.8となっている。

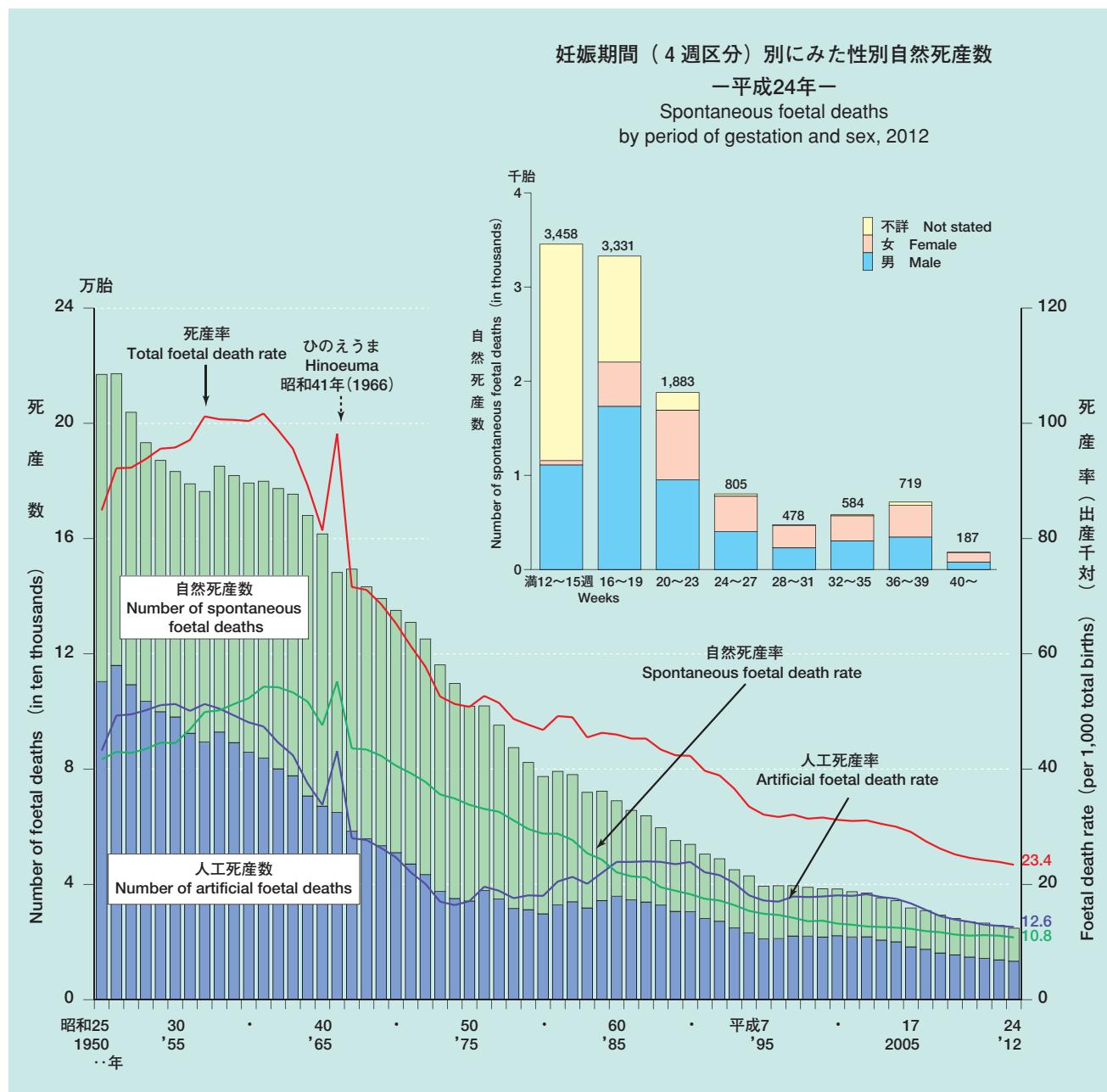
出生数と死亡数の年次推移を性別にみると、統計の得られていない昭和19年から21年を除き、現在の形式で統計をとり始めた明治32年以降、男は平成17年に初めて出生数が死亡数を下回ってから自然増減数の減少が続いている。同様に女は20年以降減少となっている。

死産の動き Foetal mortality

死産率は低下傾向

死産数及び死産率の年次推移—昭和25～平成24年—

Trends in foetal deaths and foetal death rates, 1950–2012



死産とは、妊娠満12週以後の死児の出産をいい、死産率は出産（出生数と死産数の合計）千対の率である。

平成24年の死産数は2万4800胎、死産率は23.4となっている。

死産率の年次推移をみると、全死産は昭和25年から上昇傾向となり、36年にピークの101.7となった。その後は41年の「ひのえうま」の影響を除き低下傾向となり、平成7年からは横ばいで推移していたが、15年以降低下している。

自然死産・人工死産別にみると自然死産率は昭和30年代後半から低下傾向にある。人工死産率は昭和30年代半ばから低下していたが、50年からは上昇傾向に転じ、60年には自然死産率を上回った。63年からは再び低下傾向に転じ、平成6年から14年まではおおむね横ばいとなったが、15年からは自然死産率の低下と比較すると大きく低下している。

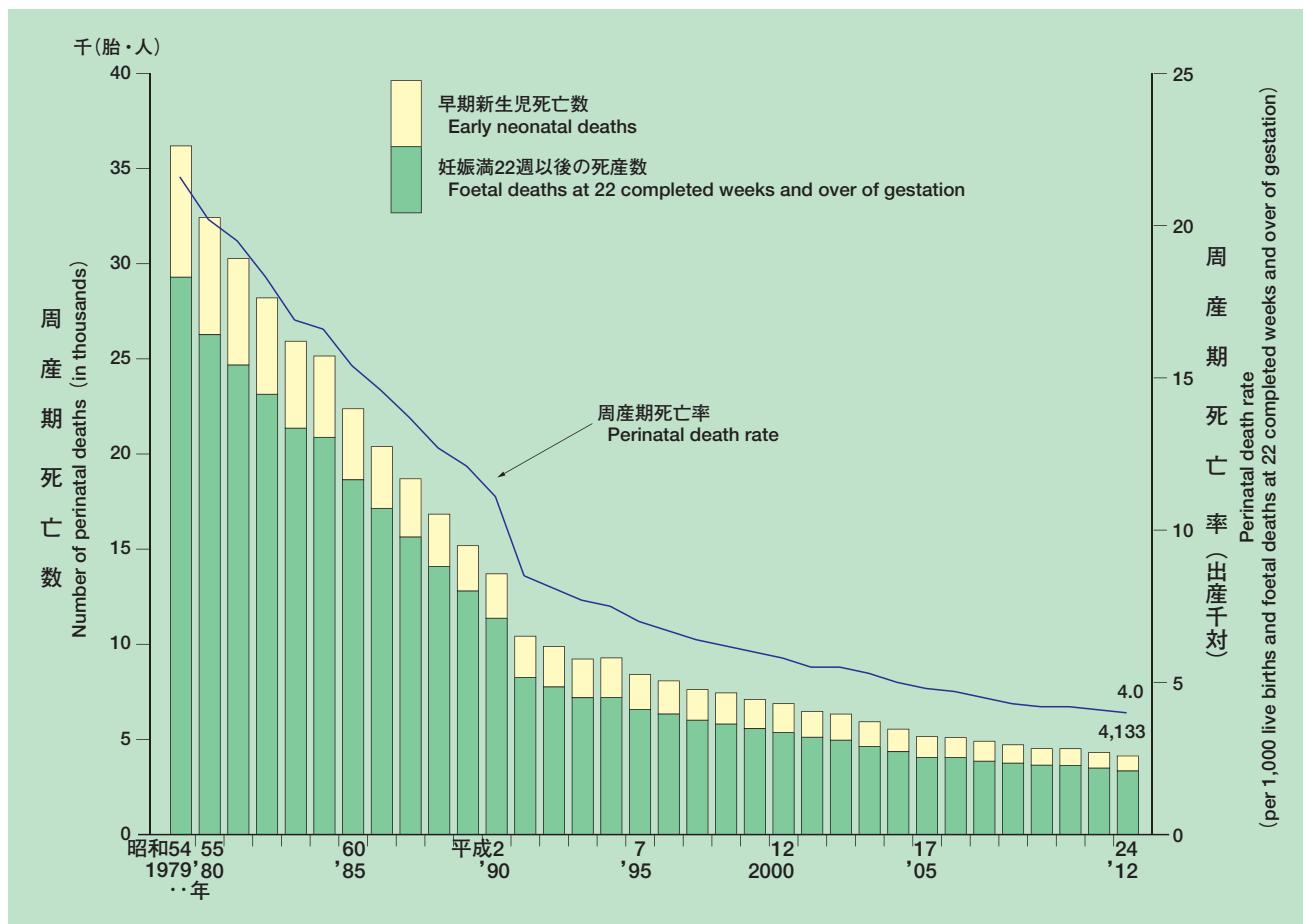
平成24年の自然死産数を妊娠期間（4週区分）別にみると、満23週以前の各期間の死産数が多くなっている。

周産期死亡の動き Perinatal mortality

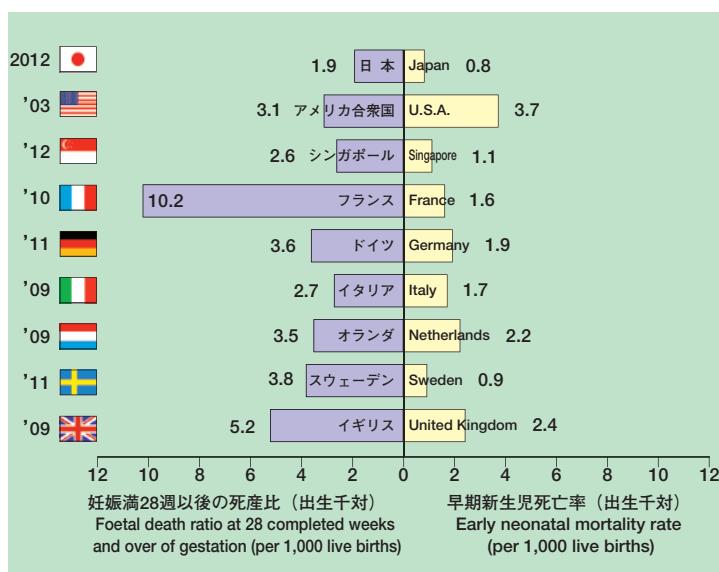
周産期死亡率は低下傾向

周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移—昭和54～平成24年—

Trends in perinatal deaths and perinatal death rates, 1979–2012



周産期死亡率の諸外国との比較
Perinatal death rates in selected countries



周産期死亡とは、妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたものをいい、周産期死亡率は、出産（出生数と妊娠満22週以後の死産数の合計）千対の率である。

平成24年の周産期死亡数は4133で、妊娠満22週以後の死産数が3343胎、早期新生児死亡数が790人となっており、周産期死亡率は4.0で、数、率ともに減少している。

我が国の周産期死亡率を諸外国と比較してみると、妊娠満28週以後の死産比、早期新生児死亡率ともに低くなっている。

なお、諸外国との比較では妊娠満28週以後の死産数の出生千対の比を用いた。

注：諸外国は、妊娠期間不詳の死産を含む。

フランスについては、妊娠期間180日以後の死産である。

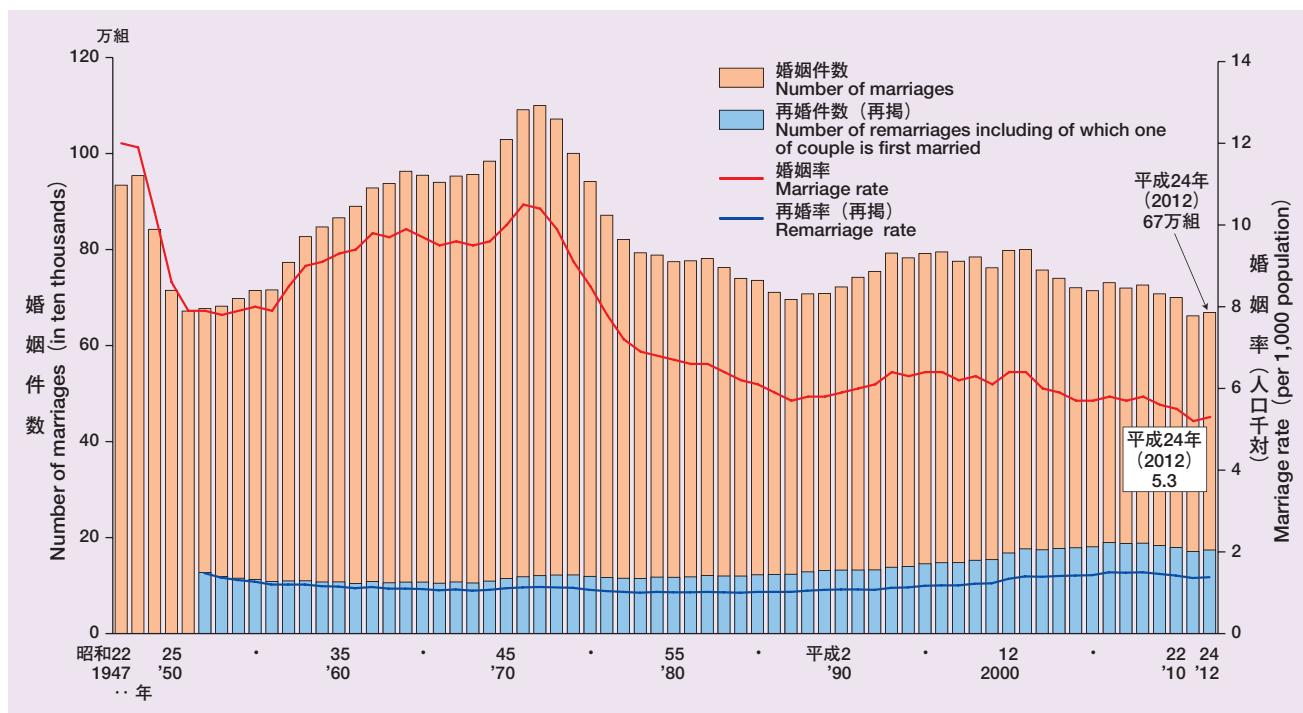
資料：UN「Demographic Yearbook」

婚姻の動き Marriages

婚姻件数は増加

婚姻件数及び婚姻率の年次推移—昭和22～平成24年—

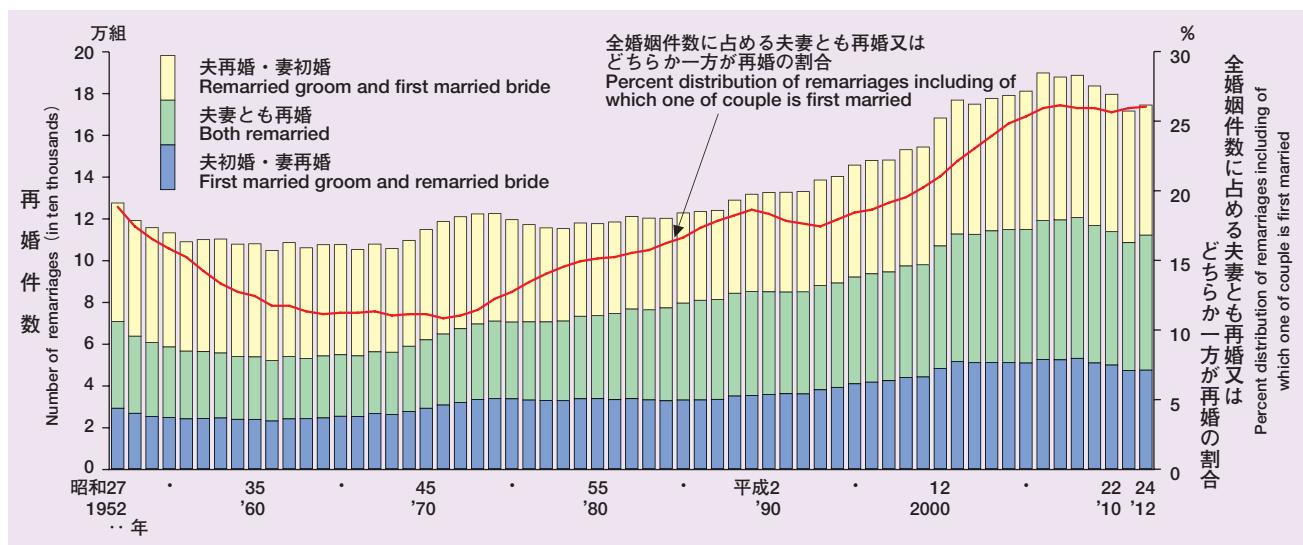
Trends in marriages and marriage rates, 1947–2012



注：再婚件数・再婚率（人口千対）は、夫妻とも再婚又は夫婦のどちらか一方が再婚の件数・率である。

夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚の婚姻件数の年次推移—昭和27～平成24年—

Trends in remarriages including of which one of couple is first married, 1952–2012



平成24年の婚姻件数は66万8869組で、前年より6974組増加した。

婚姻件数の年次推移をみると、終戦直後の昭和22、23年の第1次婚姻ブームの後に急激に減少したが、20年代後半以降は増加傾向となり、45年には第2次婚姻ブームを迎える、47年には110万組となった。48年から減少傾向の後、63年から増加に転じた。平成6年以降は増減を繰り返し、14年からは減少し続けていたが、18年以降は再び増減を繰り返した。21年からは減少が続き、23年は戦後最低となったが、24年は増加した。

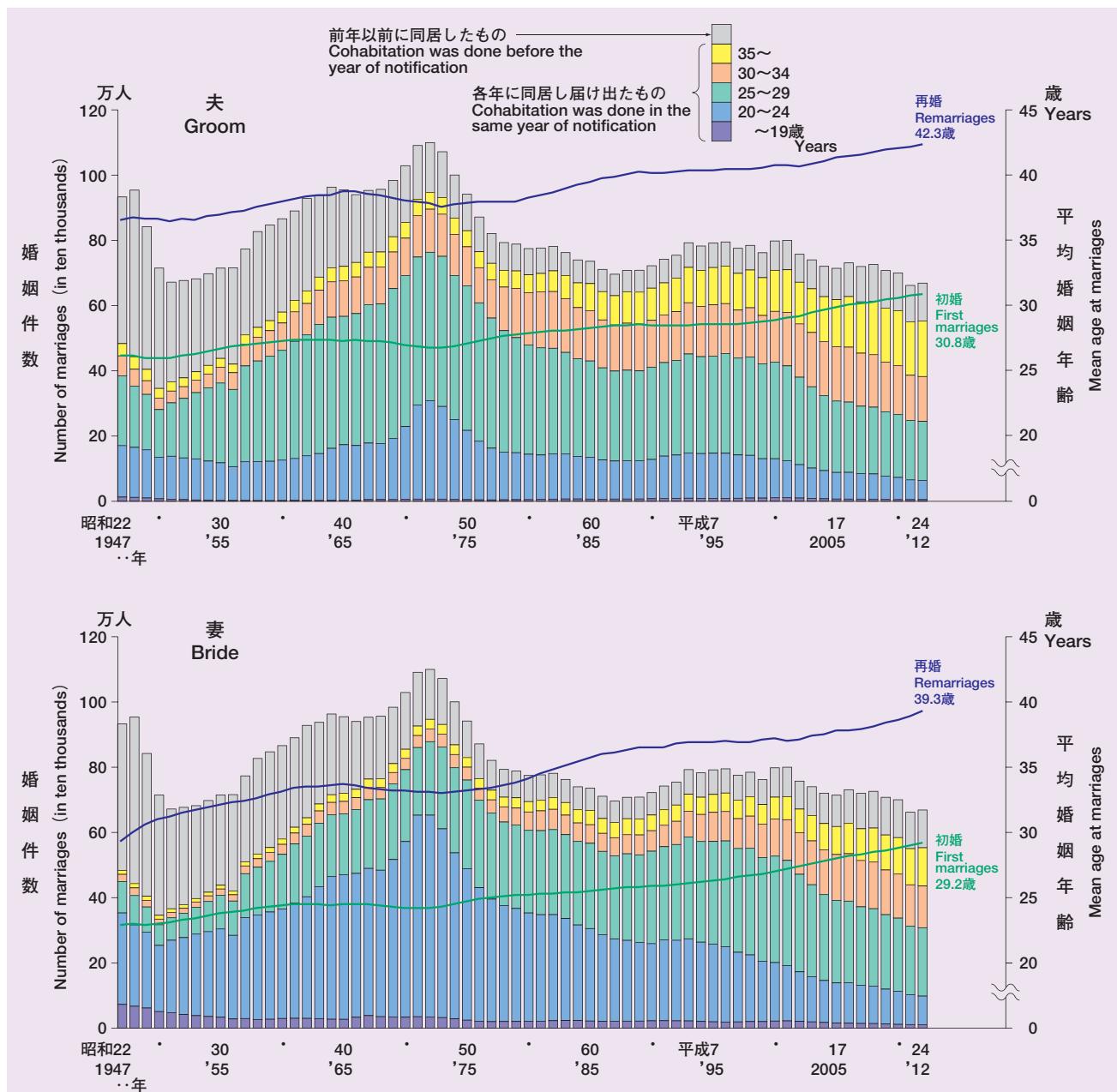
また、初婚一再婚別にみると、平成24年は「夫妻とも初婚」は49万4749組（全婚姻件数の74.0%）で、「夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚」は17万4120組（同26.0%）となっている。

「夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚」を組み合わせ別にみると、「夫再婚一妻初婚」は6万4622組、「夫妻とも再婚」は6万2330組、「夫初婚一妻再婚」は4万7168組となっている。

夫・妻ともに進む晩婚化

夫・妻の年齢階級別にみた婚姻件数及び平均婚姻年齢の年次推移—昭和22～平成24年—

Trends in marriages by age of bride and groom at marriage, and mean age, 1947—2012



注：昭和42年までは結婚式をあげたときの年齢、43年以降は結婚式をあげたときと同居を始めたときのうち早いほうの年齢である。

各年に同居し届け出たものについて、年齢階級別に年次推移をみると、夫・妻とも昭和20年代後半から47年までの約20年間では20歳代の増加が著しい。その後、夫の20歳代、妻の20~24歳は減少傾向に転じた。妻の25~29歳は引き続き増加傾向にあったが、平成13年以降減少を続けている。また、夫・妻とも30~34歳、35歳以上は昭和20年代後半から増加傾向が続いているが、夫の30~34歳は平成19年以降減少を続けている。24年では夫・妻とも、25~29歳が18万1201人、20万9574人と最も多く、次いで夫は35歳以上の17万594人、30~34歳の13万7401人、妻は30~34歳の12万7891人、35歳以上の11万7322人となっている。

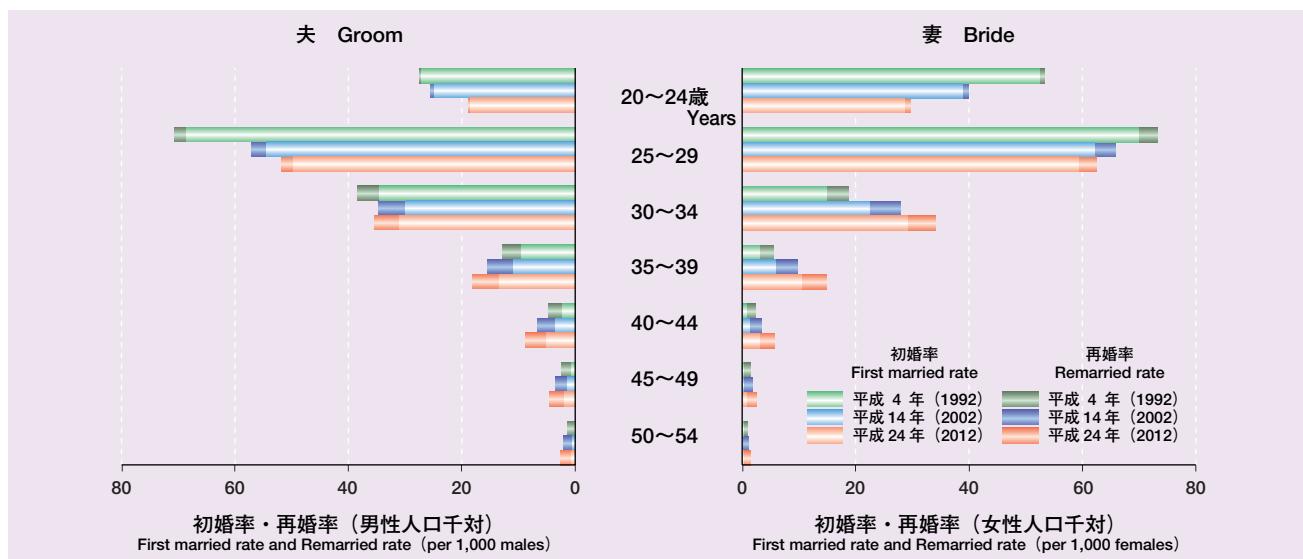
夫・妻の平均初婚年齢の年次推移をみると、昭和22年では夫26.1歳、妻22.9歳であり、その後、20年代半ばから30年代半ばにかけて上昇した。第2次婚姻ブーム期の昭和47年前後に低下したが、その後再び上昇し続け、平成24年には夫30.8歳、妻29.2歳となった。平成24年は昭和22年に比べ夫は4.7歳、妻は6.3歳高くなっている。夫・妻とも晩婚化が進んでいる。また、平均再婚年齢をみると、昭和22年では夫36.5歳、妻29.3歳であったが、平成24年には夫42.3歳、妻39.3歳となり、年々上昇傾向にある。

*平成24年に届け出られた婚姻件数は66万8869組で、そのうち、24年に同居した婚姻は55万3040組、前年以前に同居した婚姻は11万5829組である。

妻の20～24歳の初婚率は大きく低下する一方30歳以上は上昇

結婚生活に入ったときの年齢階級別にみた初婚率・再婚率(人口千対)の年次比較一平成4・14・24年一

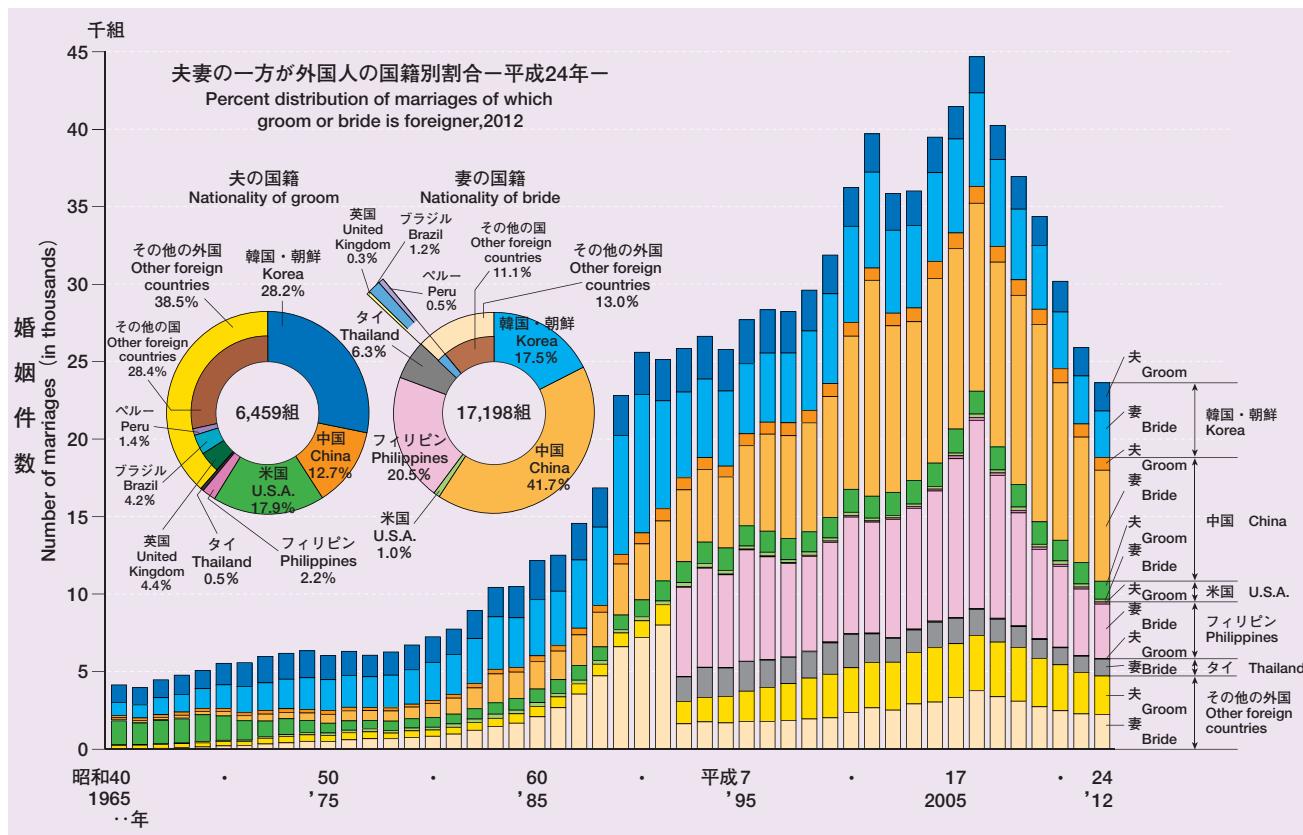
Comparison of first married rates and remarried rates (per 1,000 population) by age, 1992・2002・2012



注：各年に同居し届け出たものについての集計である。

夫妻の一方が外国人の国籍別婚姻件数の年次推移一昭和40～平成24年一

Trends in marriages of which groom or bride is foreigner, 1965—2012



注：フィリピン、タイは、平成4年から調査しており、3年までは「その他の外国」に含まれる。

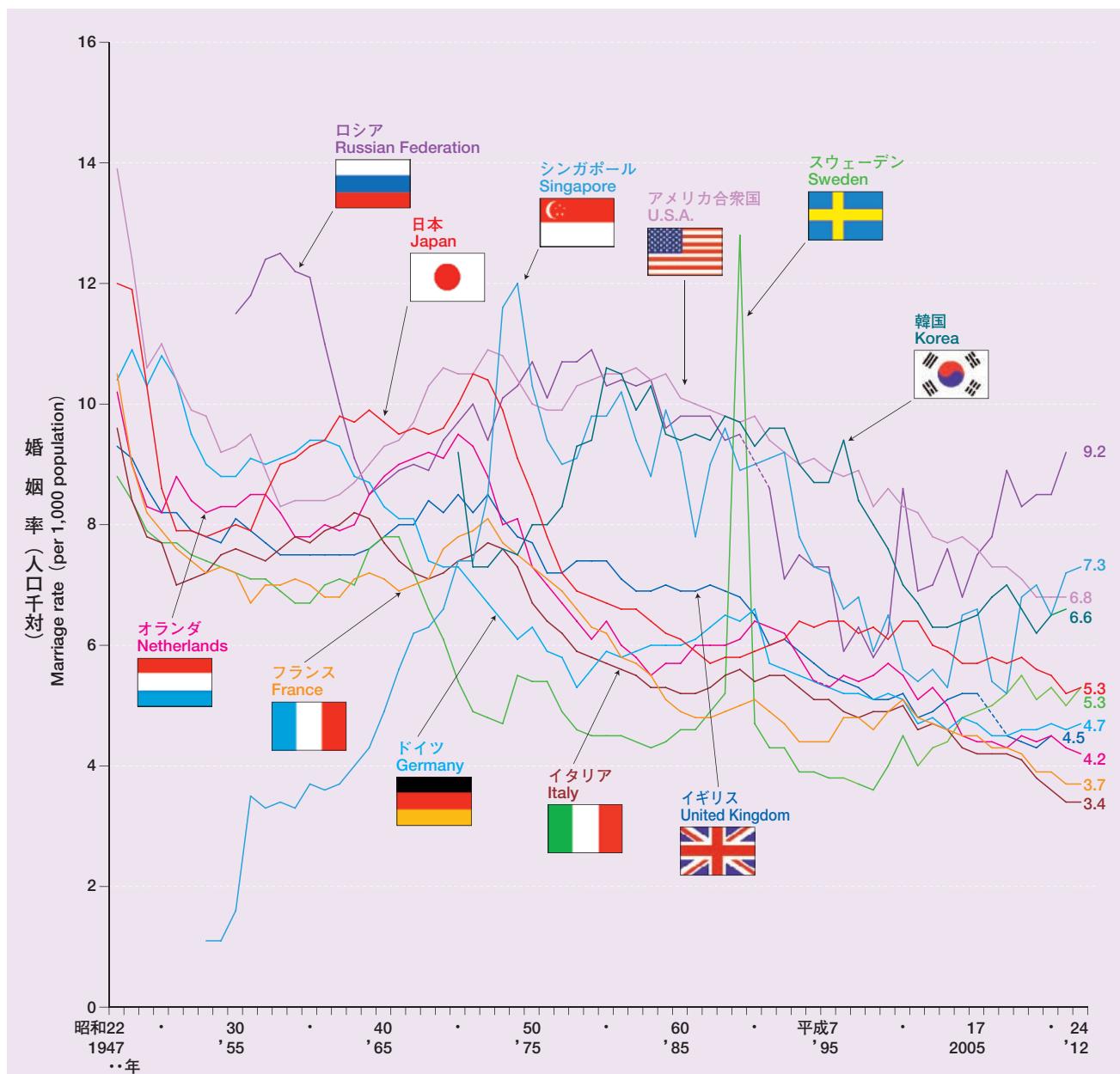
結婚生活に入ったときの年齢階級別にみた初婚率(人口千対)について、平成24年を4年、14年と比較すると、夫は25～29歳での低下が大きく、35～39歳以上の各階級ではいずれも上昇している。妻は20～24歳で大きく低下し、30～49歳までの各階級ではいずれも上昇している。また、再婚率(人口千対)も、夫、妻ともに35～39歳以上の各階級でいずれも上昇している。

夫妻の一方が外国人の婚姻件数の年次推移をみると、平成24年は2万3657組で、前年より2277組減少しているものの、昭和40年の4156組と比較すると約6倍になっている。また、妻が外国人の婚姻件数が約73%を占めており、これを妻の国籍別にみると昭和40年以降は韓国・朝鮮が最も多いが、近年は中国が最も多い。一方、夫が外国人の婚姻について夫の国籍別にみると、昭和46年以降、韓国・朝鮮が最も多くなっている。

我が国の婚姻率は、近年、ヨーロッパ諸国と比べて高い

婚姻率の年次推移—諸外国との比較 1947～2012年

Marriage rates in selected countries, 1947–2012



注：点線は数値なし。

イギリスの1970年まではイングランド・ウェールズの数値である。

ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。

ロシアの1990年までは旧ソビエト連邦の数値である。

以下は暫定値である。

アメリカ合衆国1993～1996年

フランス2011、2012年

ドイツ 2012年

イタリア2012年

オランダ2012年

イギリス2010年

資料：UN 「Demographic Yearbook」

Eurostat 「Population and Social Conditions」

韓国統計庁資料

我が国と諸外国の婚姻率（人口千対）を比較したものである。

我が国は、1957年から上昇傾向にあったが1971年をピークに急激に低下し、近年は横ばい傾向となっている。2012年は前年より増加し、ヨーロッパ諸国に比べ高くなっている。ただし、ヨーロッパ諸国では出生に占める嫡出でない子の割合が多いことから、婚姻率を比較する場合に注意が必要である（＜参考＞参照）。

* スウェーデンの1989年の大きな突出は、年金制度の改正により駆け込みの婚姻が急増したためといわれている。

＜参考＞Reference

出生に占める嫡出でない子の出生割合の国際比較

Proportion of illegitimate births in total live births
in selected countries

国 Country	年次 Year	割合 (%) Percentage
日本 Japan	2012	2.2
韓国 Korea	2012	2.1
フランス France	2011	55.8
ドイツ Germany	2012	34.1
イタリア Italy	2011	23.4
スウェーデン Sweden	2012	54.4
イギリス United Kingdom	2012	47.6
アメリカ U.S.A.	2012	40.7

注：アメリカは暫定値である。

資料：Eurostat 「Population and Social Conditions」

U.S. Department of Health and Human services

「National Vital Statistics Reports」

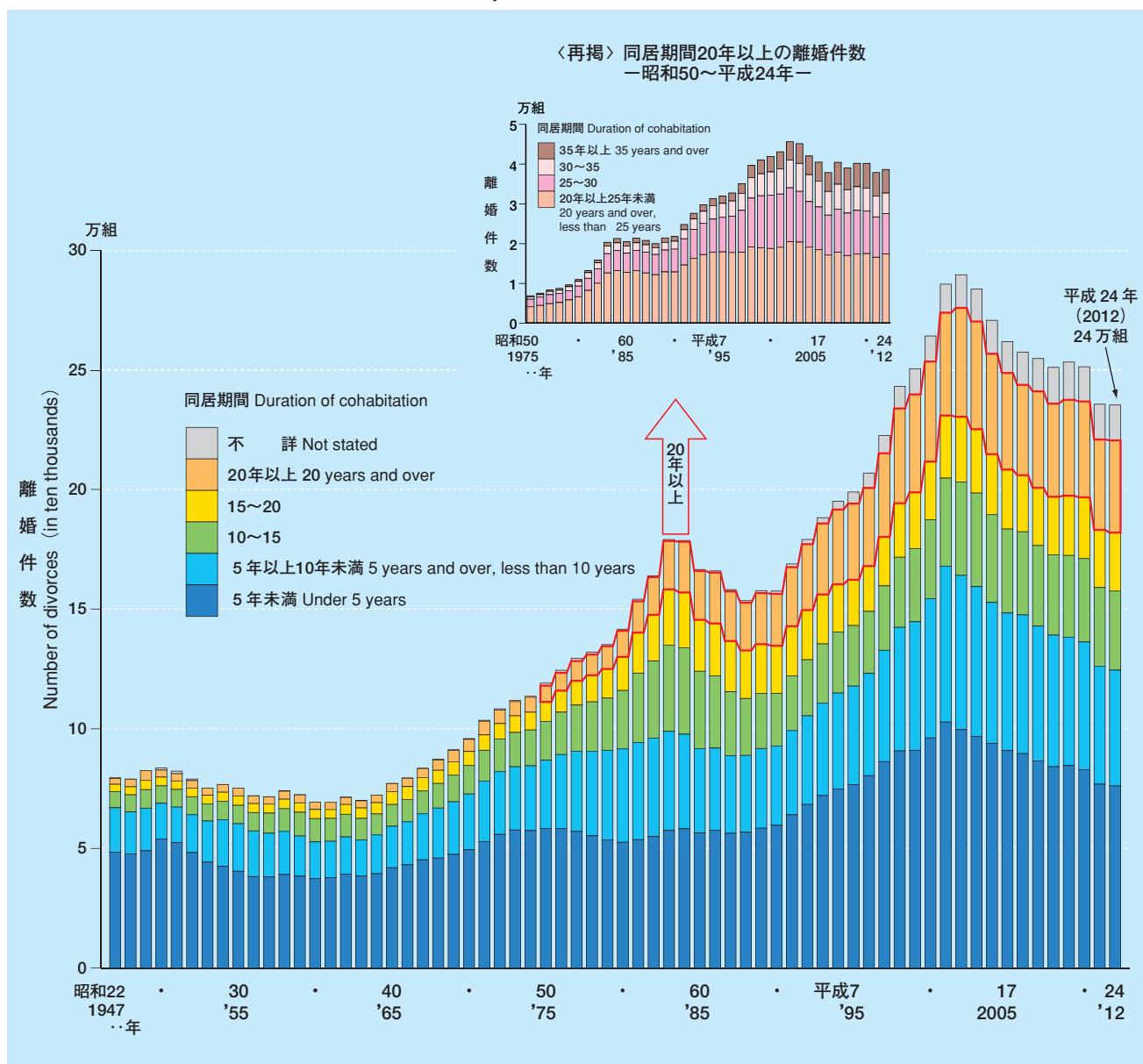
韓国統計庁資料

離婚の動き Divorces

離婚件数は減少

同居期間別にみた離婚件数の年次推移—昭和22～平成24年—

Trends in divorces by duration of cohabitation, 1947–2012



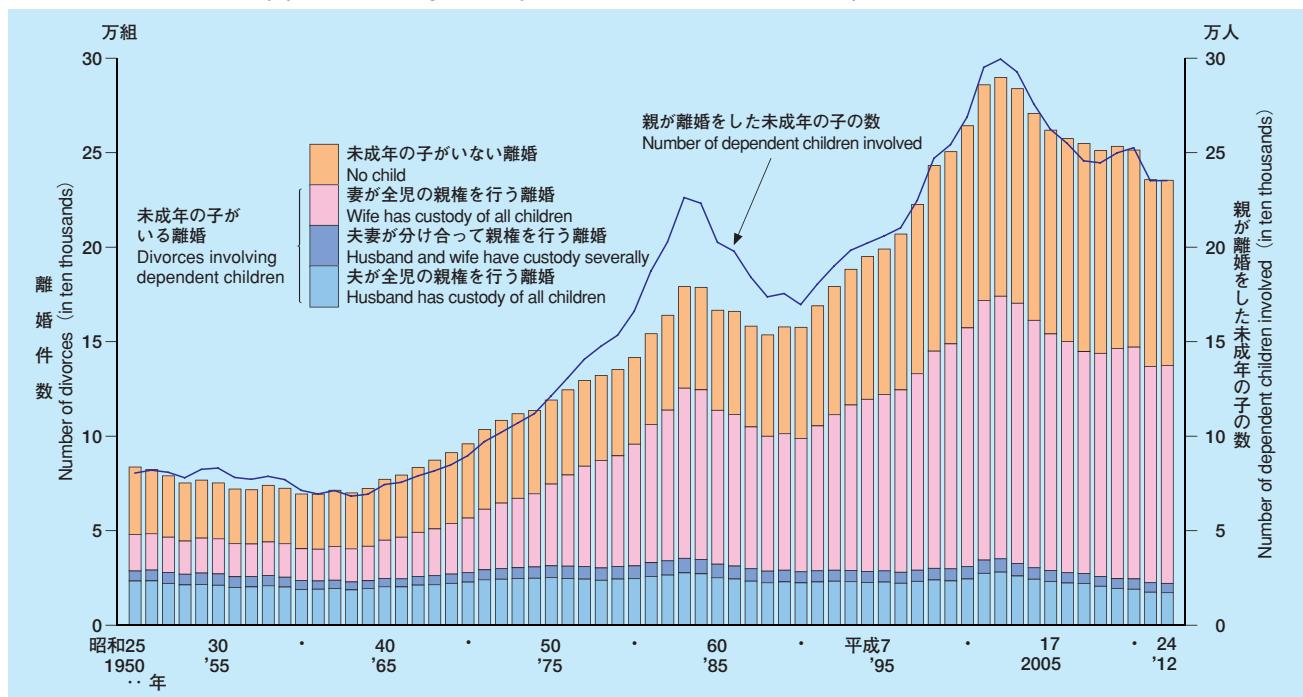
平成24年の離婚件数は23万5406組で前年より313組減少した。

離婚件数の年次推移をみると、戦後最も少なかった昭和36年以降長期にわたって増加が続いたものの、59年に減少傾向に転じた。平成3年以降は再び増加が続き、14年には統計の得られていない昭和19年から21年を除き、現在の形式で統計をとり始めた明治32年以降最高となった。平成15年以降は減少が続き、21年は7年ぶりに増加したが、22年以降は再び減少している。

同居期間別離婚件数の年次推移をみると、平成3年以降すべての期間で増加傾向にあったが、14年に5年未満と5年以上10年未満で減少に転じ、その後はすべての期間で減少傾向から横ばいとなっている。また、同居期間20年以上を5年階級別にみると、35年以上の増加の割合が高くなっている。

未成年の子がいる離婚件数は約14万組で未成年の子の数は約24万人

親権を行う者別にみた離婚件数及び親が離婚をした未成年の子の数の年次推移—昭和25～平成24年—
Trends in divorces by person having custody of children, and number of dependent children involved, 1950–2012

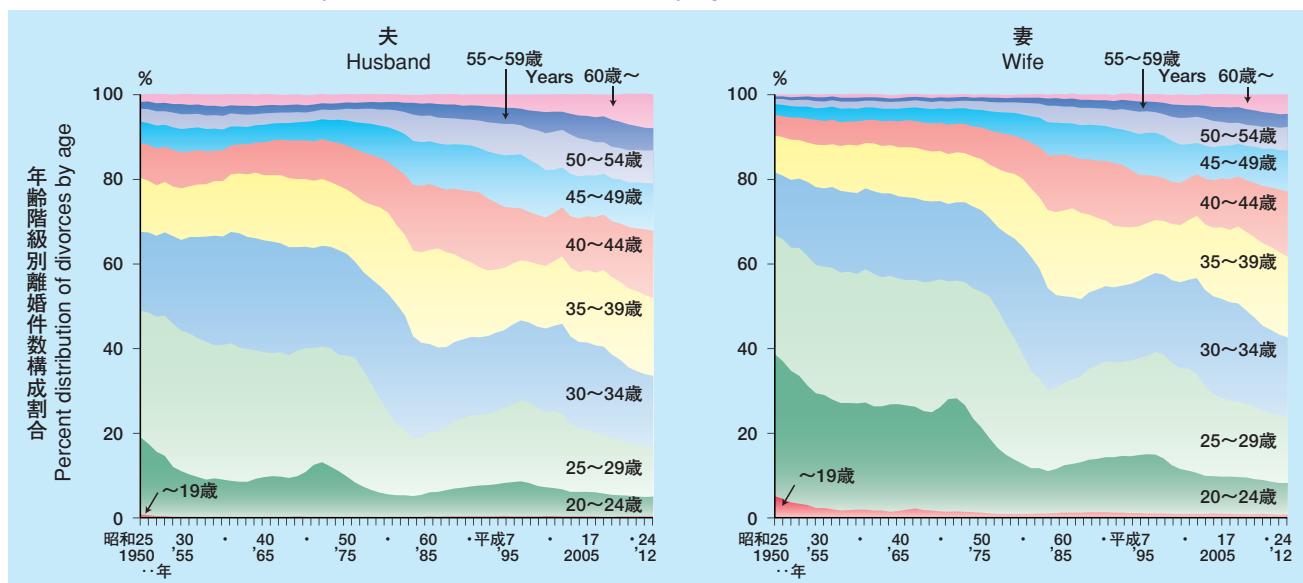


注：未成年の子とは、20歳未満の未婚の子をいう。

親権とは、未成年の子に対して有する身分上、財産上の監督、保護を内容とする権利、義務をいう。

夫・妻の年齢階級別にみた離婚件数構成割合の年次推移—昭和25～平成24年—

Trends in percent distribution of divorces by age of husband and wife, 1950–2012



注：各年に別居し届け出たものについての集計である。

同居をやめたときの年齢である。

平成24年の離婚件数23万5406組のうち、未成年の子がいる離婚は13万7334組（全体の58.3%）で、親が離婚した未成年の子の数は23万5232人、未成年の子がない離婚は9万8072組（同41.7%）となっている。

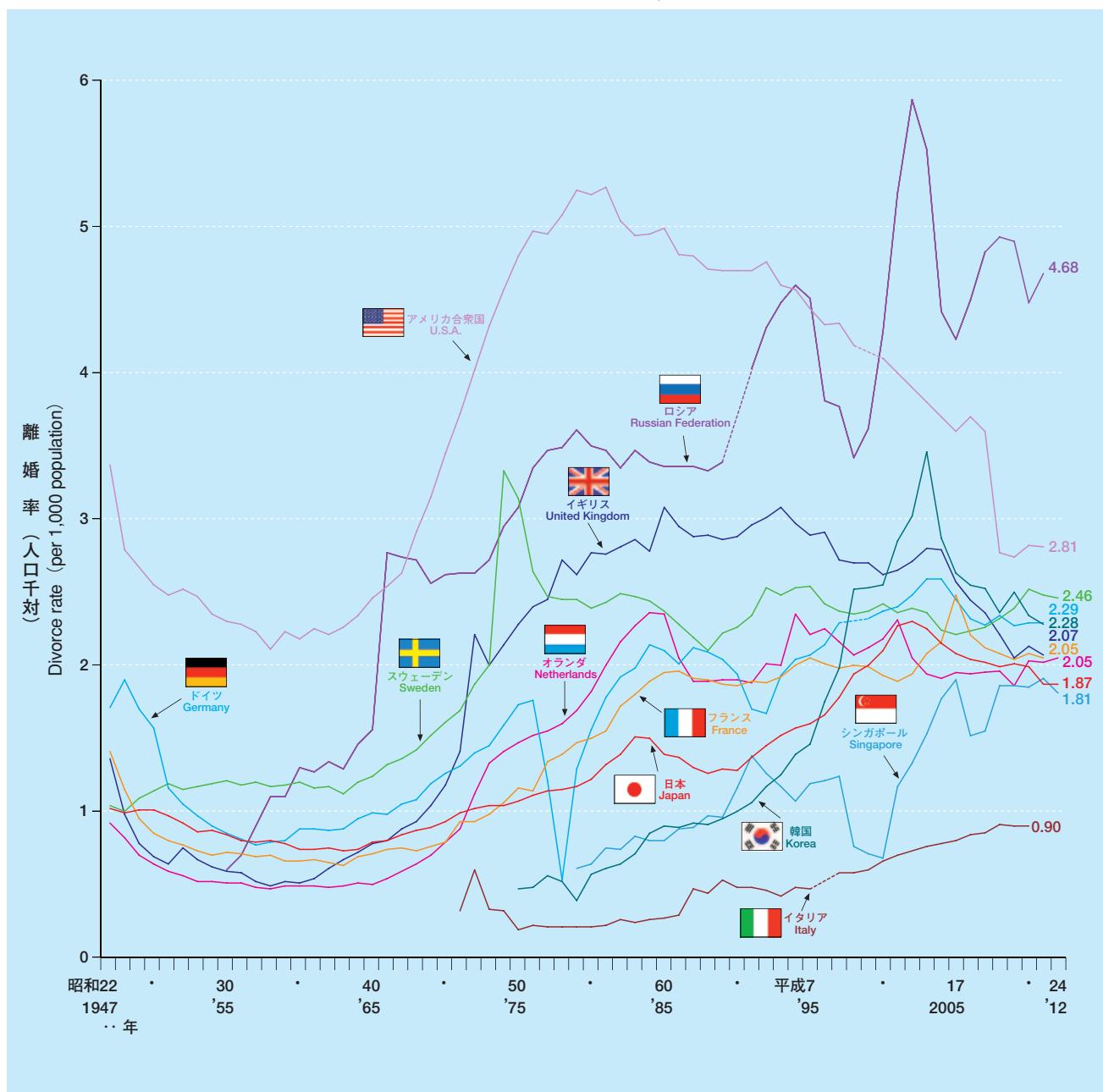
また、親権を行う者別に離婚件数の年次推移をみると、平成24年は「妻が全児の親権を行う」は11万5195組（未成年の子のいる離婚件数に占める割合は83.9%）で、その割合は昭和40年代以降上昇傾向にある。「夫が全児の親権を行う」は1万7201組（同12.5%）、「夫妻が分け合って親権を行う」4938組（同3.6%）となっている。

離婚件数の年齢階級別構成割合の年次推移をみると、29歳以下は戦後まもなく夫は約50%、妻は約65%であったが、昭和50年代に急激に割合が低下し、平成24年は夫・妻ともに戦後の割合の1/3となっている。30歳代は戦後から昭和50年代半ばにかけて上昇し、その後は低下傾向のち再び上昇していたが、平成19年以降は低下しており、夫・妻ともに40%を下回っている。40歳代は昭和40年代以降上昇傾向にあり、夫は平成5年以降、妻は4年以降低下が続いたものの、14年以降は再び上昇傾向となっており、近年は20%台となっている。50歳以上は昭和50年代以降は夫・妻とも上昇傾向にあり、平成24年は夫21.0%、妻13.3%となっている。

我が国の離婚率は欧米諸国並み

離婚率の年次推移—諸外国との比較 1947～2012年

Divorce rates in selected countries, 1947–2012



注：点線は数値なし。

イギリスの1970年まではイングランド・ウェールズの数値である。

ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。

ロシアの1990年までは旧ソビエト連邦の数値である。

オランダの2012年は暫定値である。

資料：UN「Demographic Yearbook」

U.S. Department of Health and Human Services「National Vital Statistics Reports」

我が国と諸外国の離婚率（人口千対）を比較したものである。

我が国は、1980年代までは低率であったが、1991年以降急上昇し、欧米諸国に近づいていたものの、2003年以降は緩やかな低下傾向となっている。

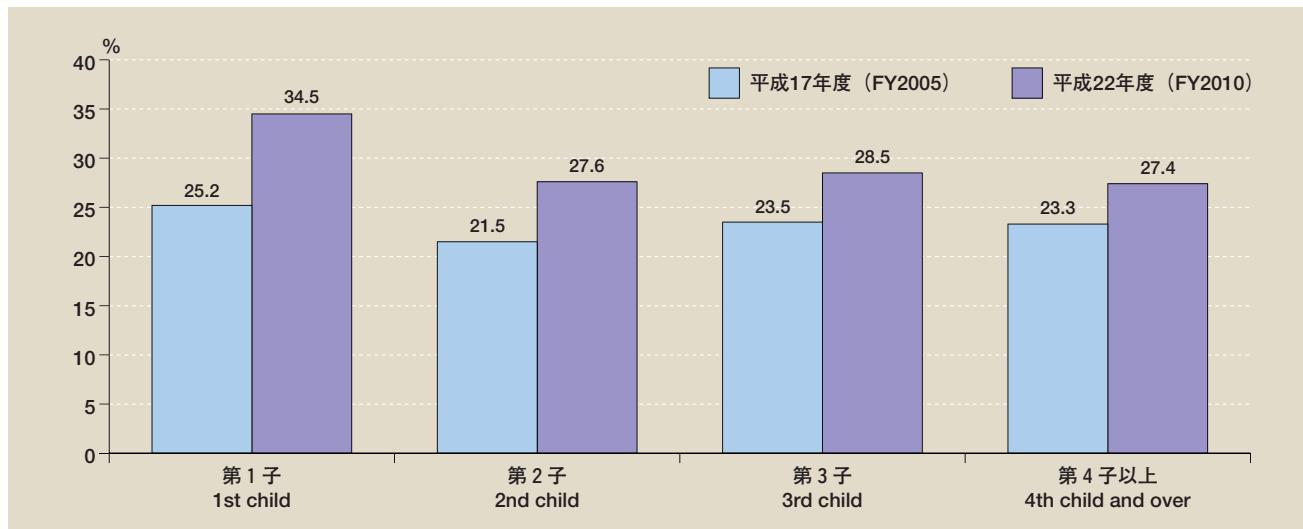
「平成22年度人口動態職業・産業別統計」から

Vital statistics: occupational and industrial aspects, FY2010

第1子出生時に有職の母の割合は上昇

出生順位別にみた有職の母の割合の年次比較—平成17年度・平成22年度—

Comparison of percent distribution of working mother at birth by live birth order, FY2005-FY2010



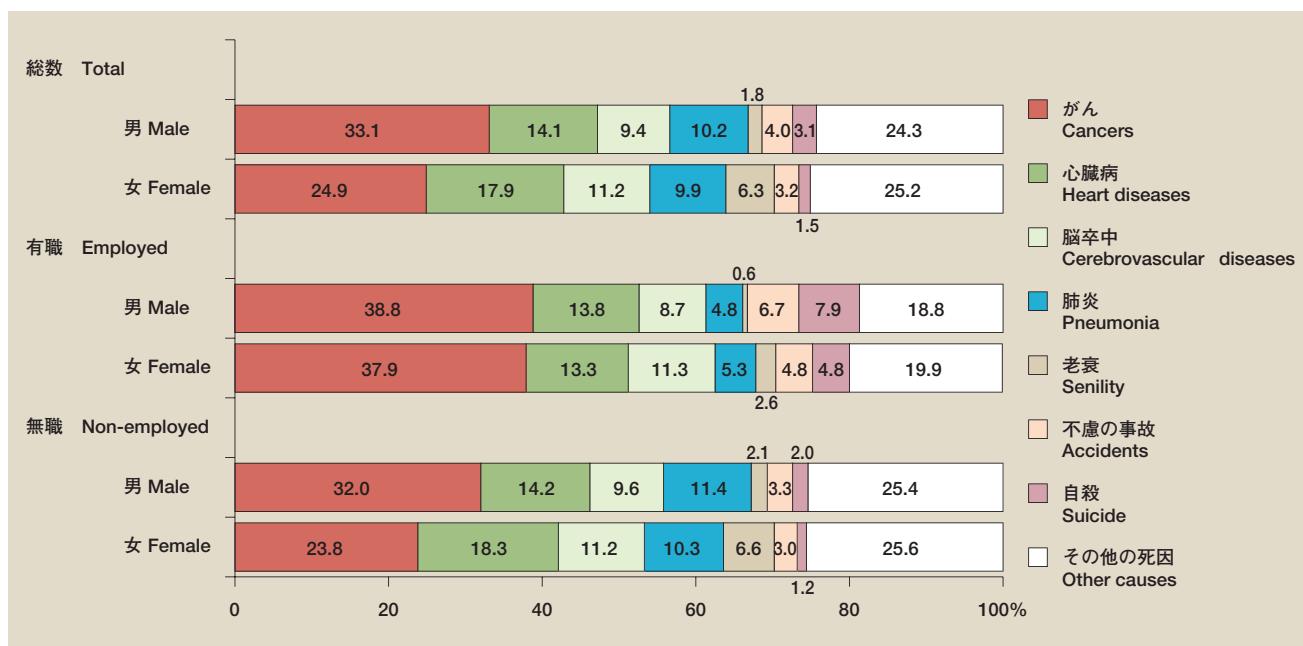
注：「有職」には休業者を含む。

第1子出生時に有職の母の割合は34.5%で、平成17年度の25.2%から9.3ポイント上昇した。

有職で死亡した者の約4割はがん

就業状態別にみた主要死因別死亡数構成割合—平成22年度—

Percent distribution of leading cause of death by employment status, FY2010

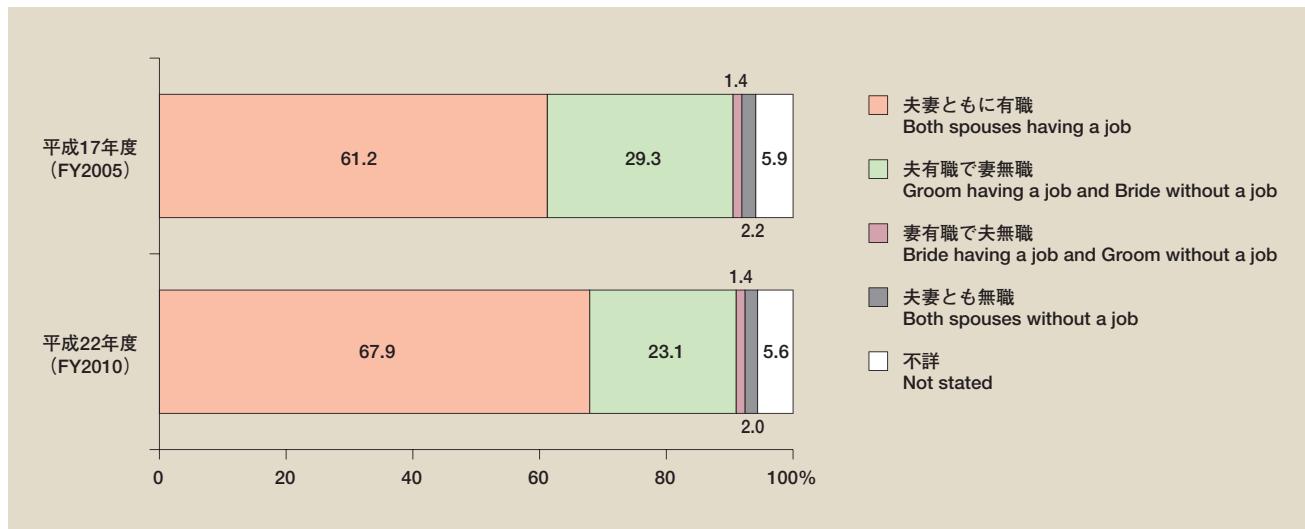


がんによる死亡の占める割合は、男性では33.1%、女性では24.9%で、有職についてみると男性では38.8%、女性では37.9%となっている。

夫妻とともに有職の割合が上昇

夫妻の就業状態別にみた婚姻件数割合の年次比較－平成17年度・平成22年度－

Comparison of percent distribution of marriages by employment status of bride and groom, FY2005-FY2010

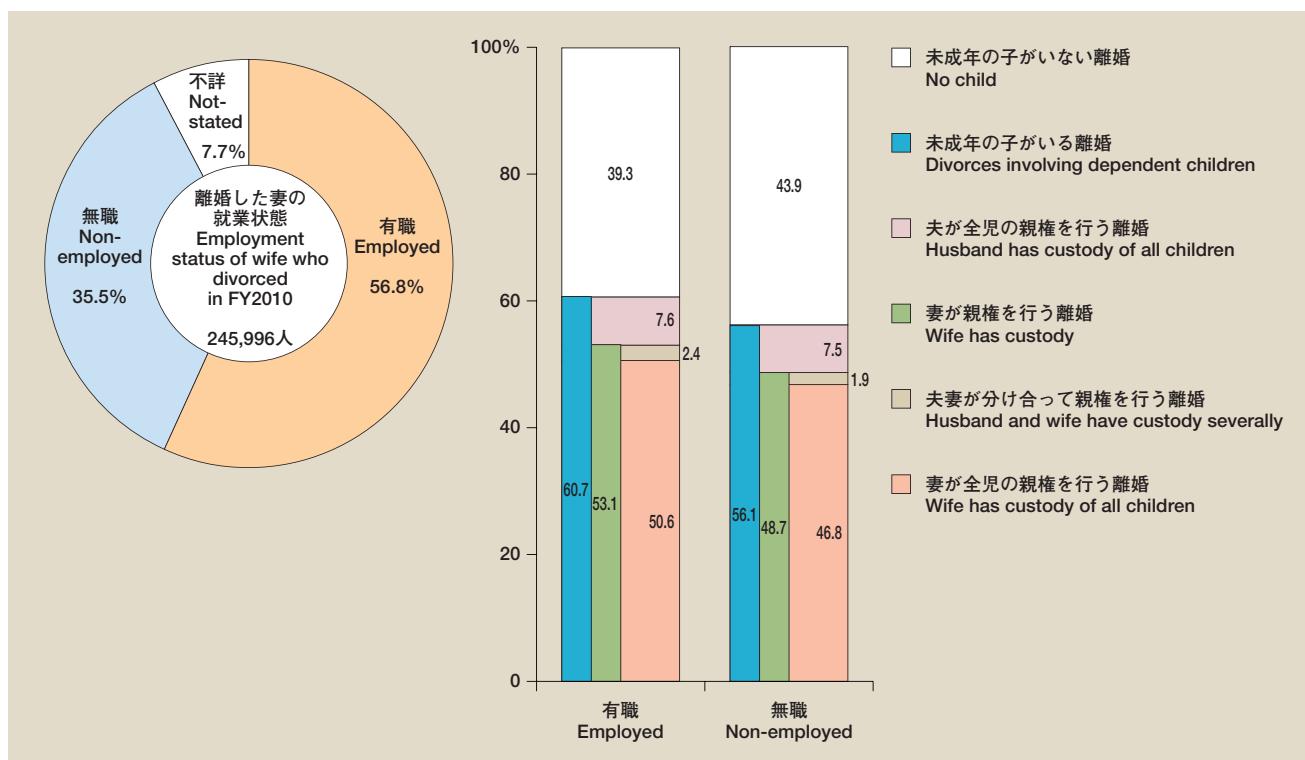


夫妻ともに有職の割合は67.9%で、平成17年度の61.2%から6.7ポイント上昇し、夫有職で妻無職の割合は23.1%で、平成17年度の29.3%から6.2ポイント低下した。

離婚した女性の35.5%は無職で、約半数は親権を行っている

妻の就業状態別にみた親権を行わなければならない子の有無・親権を行う者の割合－平成22年度－

Percent distribution of divorces distributed according to the number of children by employment status of wife, FY2010



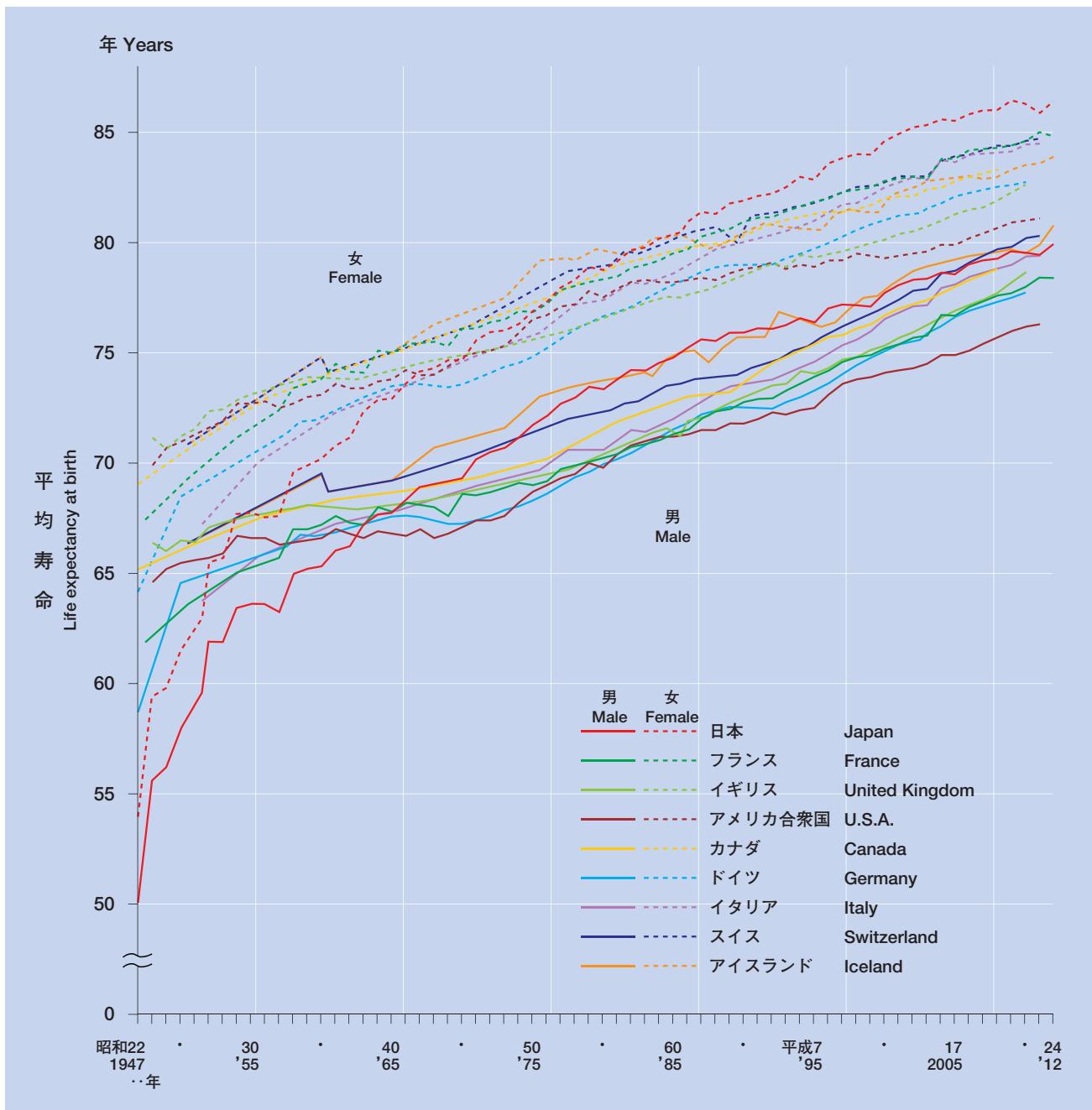
離婚した女性の35.5%は無職で、そのうち20歳未満の未婚の子がいる割合は56.1%、親権を行っている割合は48.7%となっている。

平均寿命 Life expectancy at birth

日本人の平均寿命 平成24年は男79.94年・女86.41年

各国の平均寿命の年次推移 1947～2012年

Trends of life expectancies at birth in selected countries, 1947–2012



注：1990年以前のドイツは、旧西ドイツの数値である。

資料：厚生労働省「完全生命表」、「簡易生命表」

諸外国は、UN「Demographic Yearbook」等

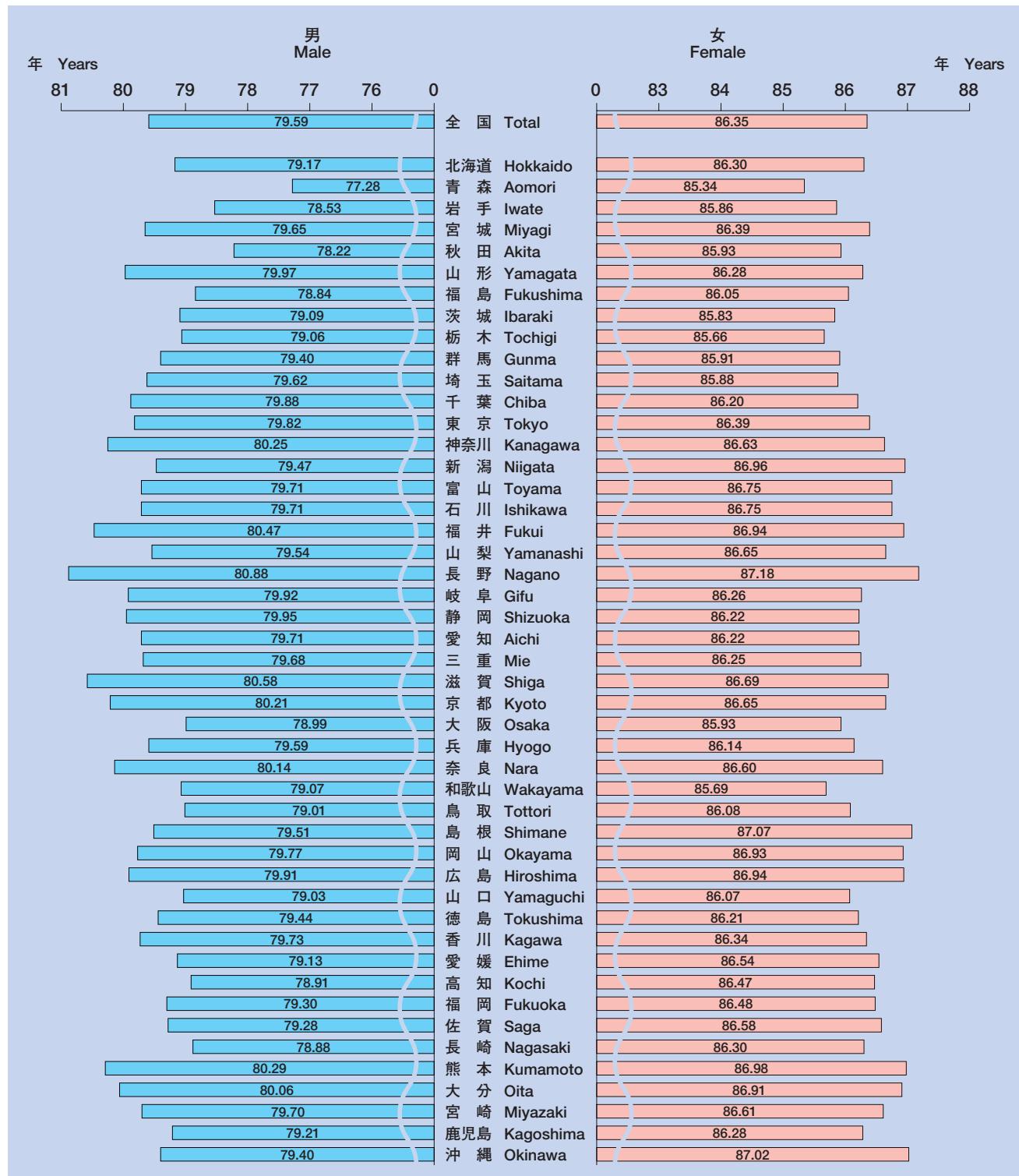
平成24年簡易生命表によると、男の平均寿命*は79.94年、女の平均寿命は86.41年であり、前年と比べて男は0.50年、女は0.51年上回った。

国によって平均寿命の作成基礎となるデータの時点などが異なるため厳密な国際比較は難しいが、現在入手している資料を用いて比較すると、我が国の平均寿命は、男女ともに世界のトップクラスであるといえる。

*平均寿命とは、0歳の平均余命のことである。平均寿命はすべての年齢の死亡状況を集約したものとなっており、保健福祉水準を総合的に示す指標として広く活用されている。

平成22年の都道府県別の平均寿命は、男性、女性とも長野が最も高い

都道府県別平均寿命－平成22年－
Life expectancies at birth by prefecture, 2010

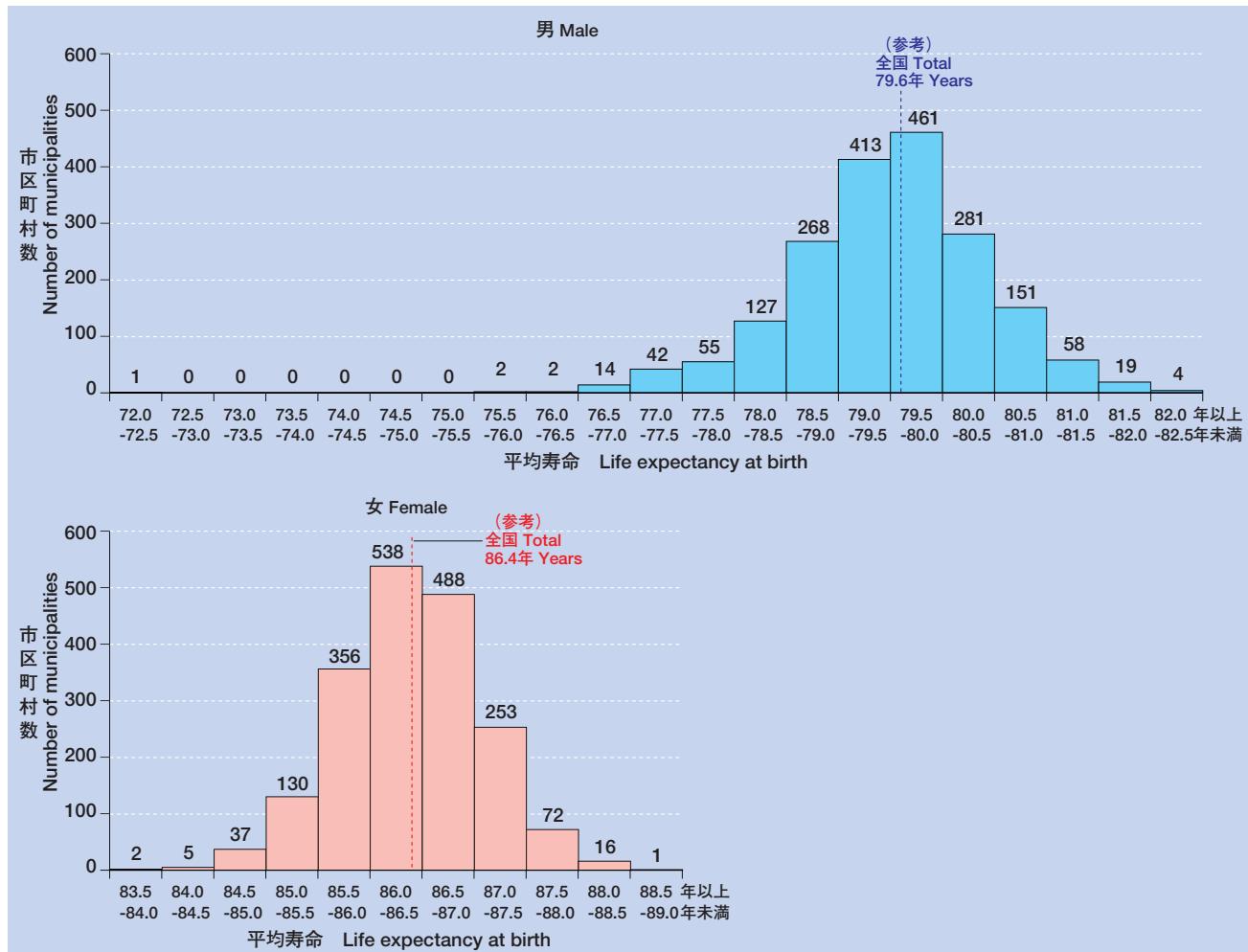


平均寿命を都道府県別にみると、男では、長野が80.88年で最も高く、次いで滋賀（80.58年）、福井（80.47年）の順となっている。女では、長野が87.18年で最も高く、次いで島根（87.07年）、沖縄（87.02年）の順となっている。

平均寿命の最も高い都道府県と最も低い都道府県との差は、男3.60年、女1.84年となっている。

平成22年の市区町村別の平均寿命は、男性は長野県松川村、女性は沖縄県北中城村が最も高い

市区町村別平均寿命の分布－平成22年－
Distribution of life expectancies at birth by municipality, 2010



市区町村別平均寿命（上位5市区町村）－平成22年－
Life expectancies at birth by municipality (Top5), 2010

(単位：年)

順位	男			女		
	都道府県	市区町村	平均寿命	都道府県	市区町村	平均寿命
1	長野県	北安曇郡 松川村	82.2	沖縄県	中頭郡 北中城村	89.0
2	神奈川県	川崎市 宮前区	82.1	島根県	鹿足郡 吉賀町	88.4
3	神奈川県	横浜市 都筑区	82.1	北海道	有珠郡 壮瞥町	88.4
4	長野県	塩尻市	82.0	熊本県	菊池郡 菊陽町	88.3
5	沖縄県	島尻郡 南風原町	81.9	福岡県	太宰府市	88.3

平均寿命を市区町村別にみると、男では79.5年以上80.0年未満、女では86.0年以上86.5年未満に最も多く分布している。男では長野県松川村が82.2年で最も高く、次いで神奈川県川崎市宮前区(82.1年)、神奈川県横浜市都筑区(82.1年)となっている。女では沖縄県北中城村が89.0年で最も高く、次いで島根県吉賀町(88.4年)、北海道壮瞥町(88.4年)となっている。

統 計 表

Statistical tables

統計表の表章記号の規約 Symbols used in tables

—	計数のない場合 Magnitude zero
...	計数不明の場合 Data not available
.	統計項目のありえない場合 Category not applicable
0.0	比率が微小（0.05未満）の場合 Figure less than 0.05
△	減少数（率）の場合 Negative

第1表 人口動態

年次 ¹⁾	人口 ²⁾	出生数	死亡数	(再掲)		自然増減数	死産数 ⁴⁾			周産期死亡数			婚姻件数	離婚件数
				乳児死亡数 (1歳未満)	新生児 ³⁾ 死亡数 (生後4週未満)		総数	自然死産	人工死産	総数	妊娠満22週以後の死産数	早期新生児死亡数 (生後1週未満)		
1899	明治32	43 404 000	1 386 981	932 087	213 359	108 077	454 894	135 727	297 372	66 545
1900	33	43 847 000	1 420 534	910 744	220 211	112 259	509 790	137 987	346 528	63 828
01	34	44 359 000	1 501 591	925 810	225 107	115 794	575 781	155 489	378 457	63 442
02	35	44 964 000	1 510 835	959 126	232 652	116 654	551 709	157 708	394 165	64 139
03	36	45 546 000	1 489 816	931 008	226 982	112 909	558 808	153 920	370 961	65 392
04	37	46 135 000	1 440 371	955 400	218 756	106 477	484 971	147 058	398 930	63 913
05	38	46 620 000	1 452 770	1 004 661	220 450	103 382	448 109	142 092	350 898	60 061
06	39	47 038 000	1 394 295	955 256	214 148	105 307	439 039	149 731	352 857	65 398
07	40	47 416 000	1 614 472	1 016 798	244 300	118 617	597 674	158 814	432 949	61 058
08	41	47 965 000	1 662 815	1 029 447	262 801	123 867	633 368	162 676	461 254	60 226
09	42	48 554 000	1 693 850	1 091 264	283 436	129 629	602 586	161 576	437 882	58 936
1910	43	49 184 000	1 712 857	1 064 234	276 136	126 910	648 623	157 392	441 222	59 432
11	44	49 852 000	1 747 803	1 043 906	276 798	127 302	703 897	155 319	433 117	58 067
12	大正元	50 577 000	1 737 674	1 037 016	268 025	123 902	700 658	147 545	430 422	59 143
13	2	51 305 000	1 757 441	1 027 257	267 281	124 213	730 184	147 769	431 287	59 536
14	3	52 039 000	1 808 402	1 101 815	286 678	125 745	706 587	145 692	452 932	59 992
15	4	52 752 000	1 799 326	1 093 793	288 634	125 337	705 533	141 301	445 210	59 943
16	5	53 496 000	1 804 822	1 187 832	307 283	132 000	616 990	139 998	433 680	60 254
17	6	54 134 000	1 812 413	1 199 669	313 872	139 717	612 744	140 328	447 970	55 812
18	7	54 739 000	1 791 992	1 493 162	337 919	145 710	298 830	142 507	500 580	56 474
19	8	55 033 000	1 778 685	1 281 965	303 202	129 072	496 720	132 939	480 136	56 812
1920	9	* 55 963 053	2 025 564	1 422 096	335 613	139 681	603 468	144 038	546 207	55 511
21	10	56 665 900	1 990 876	1 288 570	335 143	136 342	702 306	138 301	519 217	53 402
22	11	57 390 100	1 969 314	1 286 941	327 604	132 856	682 373	132 244	515 916	53 053
23	12	58 119 200	2 043 297	1 332 485	333 930	135 504	710 812	133 863	512 689	51 212
24	13	58 875 600	1 998 520	1 254 946	312 267	126 385	743 574	125 839	513 130	51 770
25	14	* 59 736 822	2 086 091	1 210 706	297 008	121 238	875 385	124 403	521 438	51 687
26	昭和元	60 740 900	2 104 405	1 160 734	289 275	119 642	943 671	124 038	502 847	50 119
27	2	61 659 300	2 060 737	1 214 323	292 084	116 240	846 414	116 922	487 850	50 626
28	3	62 595 300	2 135 852	1 236 711	293 881	115 682	899 141	120 191	499 555	49 119
29	4	63 460 600	2 077 026	1 261 228	295 178	115 009	815 798	116 971	497 410	51 222
1930	5	* 64 450 005	2 085 101	1 170 867	258 703	104 101	914 234	117 730	506 674	51 259
31	6	65 457 500	2 102 784	1 240 891	276 584	108 812	861 893	116 509	496 574	50 609
32	7	66 433 800	2 182 742	1 175 344	256 505	104 573	1 007 398	119 579	515 270	51 437
33	8	67 431 600	2 121 253	1 193 987	257 251	102 887	927 266	114 138	486 058	49 282
34	9	68 308 900	2 043 783	1 234 684	255 063	103 408	809 099	113 043	512 654	48 610
35	10	* 69 254 148	2 190 704	1 161 936	233 706	97 994	1 028 768	115 593	556 730	48 528
36	11	70 113 600	2 101 969	1 230 278	245 357	101 043	871 691	111 056	549 116	46 167
37	12	70 630 400	2 180 734	1 207 899	230 701	95 465	972 835	111 485	674 500	46 500
38	13	71 012 600	1 928 321	1 259 805	220 695	89 159	668 516	99 528	538 831	44 656
39	14	71 379 700	1 901 573	1 268 760	202 018	84 204	632 813	98 349	554 321	45 970
1940	15	71 933 000	2 115 867	1 186 595	190 509	81 869	929 272	102 034	666 575	48 556
41	16	71 680 200	2 277 283	1 149 559	191 420	77 829	1 127 724	103 400	791 625	49 424
42	17	72 384 500	2 233 660	1 166 630	190 897	76 177	1 067 030	95 448	679 044	46 268
43	18	72 883 100	2 253 535	1 213 811	195 219	76 588	1 039 724	92 889	743 842	49 705
47	22	* 78 101 473	2 678 792	1 138 238	205 360	84 204	1 540 554	123 837	934 170	79 551
48	23	80 002 500	2 681 624	950 610	165 406	73 855	1 731 014	143 963	104 325	31 055	953 999	79 032
49	24	81 772 600	2 696 638	945 444	168 467	72 432	1 751 194	192 677	114 161	75 585	842 170	82 575
1950	25	* 83 199 637	2 337 507	904 876	140 515	64 142	1 432 631	216 974	106 594	110 380	35 184	715 081
51	26	84 573 000	2 137 689	838 998	122 869	58 686	1 298 691	217 231	101 237	115 994	32 644	671 905
52	27	85 852 000	2 005 162	765 068	99 114	51 015	1 240 094	203 824	94 508	109 316	28 741	676 995
53	28	87 033 000	1 868 040	772 547	91 424	47 580	1 095 493	193 274	89 751	103 523	26 737	682 077
54	29	88 293 000	1 769 580	721 491	78 944	42 726	1 048 089	187 119	87 201	99 918	24 274	697 809
55	30	* 89 275 529	1 730 692	693 523	68 801	38 646	1 037 169	183 265	85 159	98 106	22 621	714 861
56	31	90 259 000	1 665 278	724 460	67 691	38 232	940 818	179 007	86 558	92 449	22 505	715 934
57	32	91 088 000	1 566 713	752 445	62 678	33 847	814 268	176 353	86 895	89 458	19 608	773 362
58	33	92 010 000	1 653 469	684 189	57 052	32 237	969 280	185 148	92 282	92 866	19 240	826 902
59	34	92 971 000	1 626 088	689 959	54 768	30 235	936 129	181 893	92 688	89 205	18 418	847 135

注：1) 昭和19～21年は資料不備のため省略した。昭和22～47年は沖縄県を含まない。

2) *印は国勢調査人口。明治32～大正8年は内地人、大正9～昭和41年までは総人口、42年以降は日本人人口。

大正10～昭和24年は百の位未満は四捨五入、昭和26年以降は千の位未満四捨五入。

3) 昭和18年以前は1か月未満の死亡である。また、昭和18年は権太を含む。

4) 昭和23・24年の死産総数には自然死産・人工死産の不詳を含む。また、自然死産・人工死産の数、率は概数である。

5) 出生数に死産数を加えたものである。

6) 出生数に妊娠満22週以後の死産数を加えたものである。

総 覧、年次別

出生率 (人口 千対)	合計 特 殊 出生率 (人口 千対)	死亡率 (人口 千対)	乳児 死亡率 (出生) (千対)	新生児 死亡率 (出生) (千対)	自 然 増 減 率 (人口 千対)	死産率 ⁴⁾ (出産 ⁵⁾ 千対)			周 産 期 死 亡 率 (出産 ⁶⁾ 千対)	妊娠 満 22週以 後 の死産率 (出産 ⁶⁾ 千対)	早 期 新 生 死 亡 (出生) (千対)	婚姻 率 (人口 千対)	離 婚 率 (人口 千対)	年 齢 調 整 死 亡 率 (人口 千対)	年 次		
						総 数	自然 死 産	人工 死 産									
						男	女										
32.0	..	21.5	153.8	77.9	10.5	89.1	6.9	1.53	明治32	
32.4	..	20.8	155.0	79.0	11.6	88.5	7.9	1.46	33	
33.9	..	20.9	149.9	77.1	13.0	93.8	8.5	1.43	34	
33.6	..	21.3	154.0	77.2	12.3	94.5	8.8	1.43	35	
32.7	..	20.4	152.4	75.8	12.3	93.6	8.1	1.44	36	
31.2	..	20.7	151.9	73.9	10.5	92.6	8.6	1.39	37	
31.2	..	21.6	151.7	71.2	9.6	89.1	7.5	1.29	38	
29.6	..	20.3	153.6	75.5	9.3	97.0	7.5	1.39	39	
34.0	..	21.4	151.3	73.5	12.6	89.6	9.1	1.29	40	
34.7	..	21.5	158.0	74.5	13.2	89.1	9.6	1.26	41	
34.9	..	22.5	167.3	76.5	12.4	87.1	9.0	1.21	42	
34.8	..	21.6	161.2	74.1	13.2	84.2	9.0	1.21	43	
35.1	..	20.9	158.4	72.8	14.1	81.6	8.7	1.16	44	
34.4	..	20.5	154.2	71.3	13.9	78.3	8.5	1.17	大正元	
34.3	..	20.0	152.1	70.7	14.2	77.6	8.4	1.16	2	
34.8	..	21.2	158.5	69.5	13.6	74.6	8.7	1.15	3	
34.1	..	20.7	160.4	69.7	13.4	72.8	8.4	1.14	4	
33.7	..	22.2	170.3	73.1	11.5	72.0	8.1	1.13	5	
33.5	..	22.2	173.2	77.1	11.3	71.9	8.3	1.03	6	
32.7	..	27.3	188.6	81.3	5.5	73.7	9.1	1.03	7	
32.3	..	23.3	170.5	72.6	9.0	69.5	8.7	1.03	8	
36.2	..	25.4	165.7	69.0	10.8	66.4	9.8	0.99	9	
35.1	..	22.7	168.3	68.5	12.4	65.0	9.2	0.94	10	
34.3	..	22.4	166.4	67.5	11.9	62.9	9.0	0.92	11	
35.2	..	22.9	163.4	66.3	12.2	61.5	8.8	0.88	12	
33.9	..	21.3	156.2	63.2	12.6	59.2	8.7	0.88	13	
34.9	..	20.3	142.4	58.1	14.7	56.3	8.7	0.87	14	
34.6	..	19.1	137.5	56.9	15.5	55.7	8.3	0.83	昭和元	
33.4	..	19.7	141.7	56.4	13.7	53.7	7.9	0.82	2	
34.1	..	19.8	137.6	54.2	14.4	53.3	8.0	0.78	3	
32.7	..	19.9	142.1	55.4	12.9	53.3	7.8	0.81	4	
32.4	..	18.2	124.1	49.9	14.2	53.4	7.9	0.80	5	
32.1	..	19.0	131.5	51.7	13.2	52.5	7.6	0.77	6	
32.9	..	17.7	117.5	47.9	15.2	51.9	7.8	0.77	7	
31.5	..	17.7	121.3	48.5	13.8	51.1	7.2	0.73	8	
29.9	..	18.1	124.8	50.6	11.8	52.4	7.5	0.71	9	
31.6	..	16.8	106.7	44.7	14.9	50.1	8.0	0.70	10	
30.0	..	17.5	116.7	48.1	12.4	50.2	7.8	0.66	11	
30.9	..	17.1	105.8	43.8	13.8	48.6	9.5	0.66	12	
27.2	..	17.7	114.4	46.2	9.4	49.1	7.6	0.63	13	
26.6	..	17.8	106.2	44.3	8.9	49.2	7.8	0.64	14	
29.4	..	16.5	90.0	38.7	12.9	46.0	9.3	0.68	15	
31.8	..	16.0	84.1	34.2	15.7	43.4	11.0	0.69	16	
30.9	..	16.1	85.5	34.1	14.7	41.0	9.4	0.64	17	
30.9	..	16.7	86.6	33.8	14.3	39.6	10.2	0.68	18	
34.3	4.54	14.6	76.7	31.4	19.7	44.2	12.0	1.02	23.6	18.3	22	
33.5	4.40	11.9	61.7	27.5	21.6	50.9	36.9	10.9	11.9	0.99	19.3	15.4	23	
33.0	4.32	11.6	62.5	26.9	21.4	66.7	39.1	25.9	10.3	1.01	18.9	15.0	24	
28.1	3.65	10.9	60.1	27.4	17.2	84.9	41.7	43.2	15.1	8.6	1.01	18.6	14.6	25
25.3	3.26	9.9	57.5	27.5	15.4	92.2	43.0	49.3	15.3	7.9	0.97	16.9	13.4	26
23.4	2.98	8.9	49.4	25.4	14.4	92.3	42.8	49.5	14.3	7.9	0.92	15.7	12.4	27
21.5	2.69	8.9	48.9	25.5	12.6	93.8	43.5	50.2	14.3	7.8	0.86	16.4	12.6	28
20.0	2.48	8.2	44.6	24.1	11.9	95.6	44.6	51.1	13.7	7.9	0.87	15.2	11.3	29
19.4	2.37	7.8	39.8	22.3	11.6	95.8	44.5	51.3	13.1	8.0	0.84	14.8	11.0	30
18.4	2.22	8.0	40.6	23.0	10.4	97.1	46.9	50.1	13.5	7.9	0.80	15.6	11.5	31
17.2	2.04	8.3	40.0	21.6	8.9	101.2	49.9	51.3	12.5	8.5	0.79	16.3	11.8	32
18.0	2.11	7.4	34.5	19.5	10.5	100.7	50.2	50.5	11.6	9.0	0.80	14.4	10.4	33
17.5	2.04	7.4	33.7	18.6	10.1	100.6	51.3	49.3	11.3	9.1	0.78	14.4	10.2	34

第1表 人口動態

年次 ¹⁾	人口 ²⁾	出生数	死亡数	(再掲)		自然増減数	死産数 ⁴⁾			周産期死亡数			婚姻件数	離婚件数	
				乳児死亡数 (1歳未満)	新生児 ³⁾ (生後4週未満)		総数	自然死産	人工死産	総数	妊娠満22週以後の死産数	早期新生児死亡数 (生後1週未満)			
1960	昭和35	* 93 418 501	1 606 041	706 599	49 293	27 362	899 442	179 281	93 424	85 857	17 040	866 115	69 410
61	36	94 285 000	1 589 372	695 644	45 465	26 255	893 728	179 895	96 032	83 863	16 879	890 158	69 323
62	37	95 178 000	1 618 616	710 265	42 797	24 777	908 351	177 363	97 256	80 107	16 242	928 341	71 394
63	38	96 156 000	1 659 521	670 770	38 442	22 965	988 751	175 424	97 711	77 713	15 285	937 516	69 996
64	39	97 186 000	1 716 761	673 067	34 967	21 344	1 043 694	168 046	97 357	70 689	14 676	963 130	72 306
65	40	* 98 274 961	1 823 697	700 438	33 742	21 260	1 123 259	161 617	94 476	67 141	14 949	954 852	77 195
66	41	99 056 000	1 360 974	670 342	26 217	16 296	690 632	148 248	83 253	64 995	11 765	940 120	79 432
67	42	99 637 000	1 935 647	675 006	28 928	19 248	1 260 641	149 389	90 938	58 451	14 108	953 096	83 478
68	43	100 794 000	1 871 839	686 555	28 600	18 326	1 185 284	143 259	87 381	55 878	13 693	956 312	87 327
69	44	102 022 000	1 889 815	693 787	26 874	17 116	1 196 028	139 211	85 788	53 423	12 810	984 142	91 280
1970	45	* 103 119 447	1 934 239	712 962	25 412	16 742	1 221 277	135 095	84 073	51 022	12 810	1 029 405	95 937
71	46	104 345 000	2 000 973	684 521	24 805	16 450	1 316 452	130 920	83 827	47 093	12 665	1 091 229	103 595
72	47	105 742 000	2 038 682	683 751	23 773	15 817	1 354 931	125 154	81 741	43 413	12 425	1 099 984	108 382
73	48	108 079 000	2 091 983	709 416	23 683	15 473	1 382 567	116 171	78 613	37 558	12 156	1 071 923	111 877
74	49	109 410 000	2 029 989	710 510	21 888	14 472	1 319 479	109 738	74 618	35 120	11 394	1 000 455	113 622
75	50	* 111 251 507	1 901 440	702 275	19 103	12 912	1 199 165	101 862	67 643	34 219	10 245	941 628	119 135
76	51	112 420 000	1 832 617	703 270	17 105	11 638	1 129 347	101 930	64 046	37 884	9 392	871 543	124 512
77	52	113 499 000	1 755 100	690 074	15 666	10 773	1 065 026	95 247	60 330	34 917	8 686	821 029	129 485
78	53	114 511 000	1 708 643	695 821	14 327	9 628	1 012 822	87 463	55 818	31 645	7 701	793 257	132 146
79	54	115 465 000	1 642 580	689 664	12 923	8 590	952 916	82 311	51 083	31 228	36 190	29 289	6 901	788 505	135 250
1980	55	* 116 320 358	1 576 889	722 801	11 841	7 796	854 088	77 446	47 651	29 795	32 422	26 268	6 154	774 702	141 689
81	56	117 204 000	1 529 455	720 262	10 891	7 188	809 193	79 222	46 296	32 926	30 274	24 672	5 602	776 531	154 221
82	57	118 008 000	1 515 392	711 883	9 969	6 425	803 509	78 107	44 135	33 972	28 204	23 137	5 067	781 252	163 980
83	58	118 786 000	1 508 687	740 038	9 406	5 894	768 649	71 941	40 108	31 833	25 925	21 354	4 571	762 552	179 150
84	59	119 523 000	1 489 780	740 247	8 920	5 527	749 533	72 361	37 976	34 385	25 149	20 875	4 274	739 991	178 746
85	60	* 120 265 700	1 431 577	752 283	7 899	4 910	679 294	69 009	33 114	35 895	22 379	18 642	3 737	735 850	166 640
86	61	120 946 000	1 382 946	750 620	7 251	4 296	632 326	65 678	31 050	34 628	20 389	17 143	3 246	710 962	166 054
87	62	121 535 000	1 346 658	751 172	6 711	3 933	595 486	63 834	29 956	33 878	18 699	15 634	3 065	696 173	158 227
88	63	122 026 000	1 314 006	793 014	6 265	3 592	520 992	59 636	26 804	32 832	16 839	14 090	2 749	707 716	153 600
89	平成元	122 460 000	1 246 802	788 594	5 724	3 214	458 208	55 204	24 558	30 646	15 183	12 797	2 386	708 316	157 811
1990	2	* 122 721 397	1 221 585	820 305	5 616	3 179	401 280	53 892	23 383	30 509	13 704	11 367	2 337	722 138	157 608
91	3	123 102 000	1 223 245	829 797	5 418	2 978	393 448	50 510	22 317	28 193	10 426	8 258	2 168	742 264	168 969
92	4	123 476 000	1 208 989	856 643	5 477	2 905	352 346	48 896	21 689	27 207	9 888	7 758	2 130	754 441	179 191
93	5	123 788 000	1 188 282	878 532	5 169	2 765	309 750	45 090	20 205	24 885	9 226	7 191	2 035	792 658	188 297
94	6	124 069 000	1 238 328	875 933	5 261	2 889	362 395	42 962	19 754	23 208	9 286	7 200	2 086	782 738	195 106
95	7	* 124 298 947	1 187 064	922 139	5 054	2 615	264 925	39 403	18 262	21 141	8 412	6 580	1 832	791 888	199 016
96	8	124 709 000	1 206 555	896 211	4 546	2 438	310 344	39 536	18 329	21 207	8 080	6 333	1 747	795 080	206 955
97	9	124 963 000	1 191 665	913 402	4 403	2 307	278 263	39 546	17 453	22 093	7 624	6 009	1 615	775 651	222 635
98	10	125 252 000	1 203 147	936 484	4 380	2 353	266 663	38 988	16 936	22 052	7 447	5 804	1 643	784 595	243 183
99	11	125 432 000	1 177 669	982 031	4 010	2 137	195 638	38 452	16 711	21 741	7 102	5 567	1 535	762 028	250 529
2000	12	* 125 612 633	1 190 547	961 653	3 830	2 106	228 894	38 393	16 200	22 193	6 881	5 362	1 519	798 138	264 246
01	13	125 908 000	1 170 662	970 331	3 599	1 909	200 331	37 467	15 704	21 763	6 476	5 114	1 362	799 999	285 911
02	14	126 008 000	1 153 855	982 379	3 497	1 937	171 476	36 978	15 161	21 817	6 333	4 959	1 374	757 331	289 836
03	15	126 139 000	1 123 610	1 014 951	3 364	1 879	108 659	35 330	14 644	20 686	5 929	4 626	1 303	740 191	283 854
04	16	126 176 000	1 110 721	1 028 602	3 122	1 622	82 119	34 365	14 288	20 077	5 541	4 357	1 184	720 417	270 804
05	17	* 126 204 902	1 062 530	1 083 796	2 958	1 510	△ 21 266	31 818	13 502	18 316	5 149	4 058	1 091	714 265	261 917
06	18	126 154 000	1 092 674	1 084 450	2 864	1 444	8 224	30 911	13 424	17 487	5 100	4 047	1 053	730 971	257 475
07	19	126 085 000	1 089 818	1 108 334	2 828	1 434	△ 18 516	29 313	13 107	16 206	4 906	3 854	1 052	719 822	254 832
08	20	125 947 000	1 091 156	1 142 407	2 798	1 331	△ 51 251	28 177	12 625	15 552	4 720	3 751	969	726 106	251 136
09	21	125 820 000	1 070 035	1 141 865	2 556	1 254	△ 71 830	27 005	12 214	14 791	4 519	3 645	874	707 734	253 353
2010	22	* 126 381 728	1 071 304	1 197 012	2 450	1 167	△ 125 708	26 560	12 245	14 315	4 515	3 637	878	700 214	251 378
11	23	126 180 000	1 050 806	1 253 066	2 463	1 147	△ 202 260	25 751	11 940	13 811	4 315	3 491	824	661 895	235 719
12	24	125 957 000	1 037 231	1 256 359	2 299	1 065	△ 219 128	24 800	11 448	13 352	4 133	3 343	790	668 869	235 406

総 覧、年次別 (つづき)

出生率 (人口 千対)	合計 特 殊 出生率 (人口 千対)	死亡率 (人口 千対)	乳児 死亡率 (出生) (千対)	新生児 死亡率 (出生) (千対)	自然 増減率 (人口 千対)	死産率 ⁴⁾ (出産 ⁵⁾ 千対)			周産期 死亡率 (出産 ⁶⁾ 千対)	妊娠満 22週以後 の死産率 (出産 ⁶⁾ 千対)	早期 新生児 死亡率 (出生) (千対)	婚姻率 (人口 千対)	離婚率 (人口 千対)	年齢調整 死亡率 (人口千対)	年 次	
						総 数	自然死産	人工死産								
						男	女									
17.2	2.00	7.6	30.7	17.0	9.6	100.4	52.3	48.1	10.6	9.3	0.74	14.8	10.4	昭和35
16.9	1.96	7.4	28.6	16.5	9.5	101.7	54.3	47.4	10.6	9.4	0.74	14.3	10.0	36
17.0	1.98	7.5	26.4	15.3	9.5	98.8	54.2	44.6	10.0	9.8	0.75	14.6	10.0	37
17.3	2.00	7.0	23.2	13.8	10.3	95.6	53.3	42.4	9.2	9.7	0.73	13.4	9.3	38
17.7	2.05	6.9	20.4	12.4	10.7	89.2	51.7	37.5	8.5	9.9	0.74	13.2	9.1	39
18.6	2.14	7.1	18.5	11.7	11.4	81.4	47.6	33.8	8.2	9.7	0.79	13.7	9.3	40
13.7	1.58	6.8	19.3	12.0	7.0	98.2	55.2	43.1	8.6	9.5	0.80	12.7	8.7	41
19.4	2.23	6.8	14.9	9.9	12.7	71.6	43.6	28.0	7.3	9.6	0.84	12.6	8.5	42
18.6	2.13	6.8	15.3	9.8	11.8	71.1	43.4	27.7	7.3	9.5	0.87	12.5	8.4	43
18.5	2.13	6.8	14.2	9.1	11.7	68.6	42.3	26.3	6.8	9.6	0.89	12.4	8.2	44
18.8	2.13	6.9	13.1	8.7	11.8	65.3	40.6	24.7	6.6	10.0	0.93	12.3	8.2	45
19.2	2.16	6.6	12.4	8.2	12.6	61.4	39.3	22.1	6.3	10.5	0.99	11.5	7.6	46
19.3	2.14	6.5	11.7	7.8	12.8	57.8	37.8	20.1	6.1	10.4	1.02	11.2	7.4	47
19.4	2.14	6.6	11.3	7.4	12.8	52.6	35.6	17.0	5.8	9.9	1.04	11.2	7.4	48
18.6	2.05	6.5	10.8	7.1	12.1	51.3	34.9	16.4	5.6	9.1	1.04	10.9	7.2	49
17.1	1.91	6.3	10.0	6.8	10.8	50.8	33.8	17.1	5.4	8.5	1.07	10.4	6.9	50
16.3	1.85	6.3	9.3	6.4	10.0	52.7	33.1	19.6	5.1	7.8	1.11	10.1	6.6	51
15.5	1.80	6.1	8.9	6.1	9.4	51.5	32.6	18.9	4.9	7.2	1.14	9.6	6.2	52
14.9	1.79	6.1	8.4	5.6	8.8	48.7	31.1	17.6	4.5	6.9	1.15	9.4	6.0	53
14.2	1.77	6.0	7.9	5.2	8.3	47.7	29.6	18.1	21.6	17.5	4.2	6.8	1.17	9.0	5.7	54
13.6	1.75	6.2	7.5	4.9	7.3	46.8	28.8	18.0	20.2	16.4	3.9	6.7	1.22	9.2	5.8	55
13.0	1.74	6.1	7.1	4.7	6.9	49.2	28.8	20.5	19.5	15.9	3.7	6.6	1.32	8.9	5.6	56
12.8	1.77	6.0	6.6	4.2	6.8	49.0	27.7	21.3	18.3	15.0	3.3	6.6	1.39	8.5	5.2	57
12.7	1.80	6.2	6.2	3.9	6.5	45.5	25.4	20.1	16.9	14.0	3.0	6.4	1.51	8.6	5.2	58
12.5	1.81	6.2	6.0	3.7	6.3	46.3	24.3	22.0	16.6	13.8	2.9	6.2	1.50	8.3	5.0	59
11.9	1.76	6.3	5.5	3.4	5.6	46.0	22.1	23.9	15.4	12.9	2.6	6.1	1.39	8.1	4.8	60
11.4	1.72	6.2	5.2	3.1	5.2	45.3	21.4	23.9	14.6	12.2	2.3	5.9	1.37	7.8	4.6	61
11.1	1.69	6.2	5.0	2.9	4.9	45.3	21.2	24.0	13.7	11.5	2.3	5.7	1.30	7.6	4.4	62
10.8	1.66	6.5	4.8	2.7	4.3	43.4	19.5	23.9	12.7	10.6	2.1	5.8	1.26	7.7	4.5	63
10.2	1.57	6.4	4.6	2.6	3.7	42.4	18.9	23.5	12.1	10.2	1.9	5.8	1.29	7.4	4.2	平成元
10.0	1.54	6.7	4.6	2.6	3.3	42.3	18.3	23.9	11.1	9.2	1.9	5.9	1.28	7.5	4.2	2
9.9	1.53	6.7	4.4	2.4	3.2	39.7	17.5	22.1	8.5	6.7	1.8	6.0	1.37	7.4	4.1	3
9.8	1.50	6.9	4.5	2.4	2.9	38.9	17.2	21.6	8.1	6.4	1.8	6.1	1.45	7.4	4.0	4
9.6	1.46	7.1	4.3	2.3	2.5	36.6	16.4	20.2	7.7	6.0	1.7	6.4	1.52	7.3	4.0	5
10.0	1.50	7.1	4.2	2.3	2.9	33.5	15.4	18.1	7.5	5.8	1.7	6.3	1.57	7.1	3.8	6
9.6	1.42	7.4	4.3	2.2	2.1	32.1	14.9	17.2	7.0	5.5	1.5	6.4	1.60	7.2	3.8	7
9.7	1.43	7.2	3.8	2.0	2.5	31.7	14.7	17.0	6.7	5.2	1.4	6.4	1.66	6.8	3.6	8
9.5	1.39	7.3	3.7	1.9	2.2	32.1	14.2	17.9	6.4	5.0	1.4	6.2	1.78	6.7	3.5	9
9.6	1.38	7.5	3.6	2.0	2.1	31.4	13.6	17.8	6.2	4.8	1.4	6.3	1.94	6.6	3.4	10
9.4	1.34	7.8	3.4	1.8	1.6	31.6	13.7	17.9	6.0	4.7	1.3	6.1	2.00	6.7	3.4	11
9.5	1.36	7.7	3.2	1.8	1.8	31.2	13.2	18.1	5.8	4.5	1.3	6.4	2.10	6.3	3.2	12
9.3	1.33	7.7	3.1	1.6	1.6	31.0	13.0	18.0	5.5	4.3	1.2	6.4	2.27	6.2	3.1	13
9.2	1.32	7.8	3.0	1.7	1.4	31.1	12.7	18.3	5.5	4.3	1.2	6.0	2.30	6.0	3.0	14
8.9	1.29	8.0	3.0	1.7	0.9	30.5	12.6	17.8	5.3	4.1	1.2	5.9	2.25	6.0	3.0	15
8.8	1.29	8.2	2.8	1.5	0.7	30.0	12.5	17.5	5.0	3.9	1.1	5.7	2.15	5.9	3.0	16
8.4	1.26	8.6	2.8	1.4	△ 0.2	29.1	12.3	16.7	4.8	3.8	1.0	5.7	2.08	5.9	3.0	17
8.7	1.32	8.6	2.6	1.3	0.1	27.5	11.9	15.6	4.7	3.7	1.0	5.8	2.04	5.7	2.9	18
8.6	1.34	8.8	2.6	1.3	△ 0.1	26.2	11.7	14.5	4.5	3.5	1.0	5.7	2.02	5.6	2.8	19
8.7	1.37	9.1	2.6	1.2	△ 0.4	25.2	11.3	13.9	4.3	3.4	0.9	5.8	1.99	5.6	2.8	20
8.5	1.37	9.1	2.4	1.2	△ 0.6	24.6	11.1	13.5	4.2	3.4	0.8	5.6	2.01	5.4	2.7	21
8.5	1.39	9.5	2.3	1.1	△ 1.0	24.2	11.2	13.0	4.2	3.4	0.8	5.5	1.99	5.4	2.7	22
8.3	1.39	9.9	2.3	1.1	△ 1.6	23.9	11.1	12.8	4.1	3.3	0.8	5.2	1.87	5.5	2.9	23
8.2	1.41	10.0	2.2	1.0	△ 1.7	23.4	10.8	12.6	4.0	3.2	0.8	5.3	1.87	5.2	2.7	24

第2表 人口動態総覧

都道府県 ¹⁾	人口	出生数	死亡数	(再掲)		自然増減数	死産数			周産期死亡数			婚姻件数	離婚件数
				乳児死亡数 (1歳未満)	新生児死亡数 (生後4週未満)		総数	自然死産	人工死産	総数	妊娠満22週以後の死産数	早期新生児死亡数 (生後1週未満)		
全 国	125 957 000	1 037 231	1 256 359	2 299	1 065	△219 128	24 800	11 448	13 352	4 133	3 343	790	668 869	235 406
01北海道	5 442 000	38 686	58 066	88	43	△19 380	1 177	473	704	160	130	30	26 538	11 593
02青森県	1 347 000	9 168	17 294	24	15	△8 126	260	119	141	38	24	14	5 846	2 408
03岩手県	1 299 000	9 276	16 072	27	14	△6 796	263	144	119	56	46	10	5 629	1 975
04宮城县	2 315 000	18 707	22 101	42	19	△3 394	487	222	265	71	58	13	12 315	3 957
05秋田県	1 060 000	6 543	14 856	11	6	△8 313	171	82	89	27	21	6	4 020	1 495
06山形県	1 146 000	8 212	14 752	23	16	△6 540	216	90	126	40	29	11	4 881	1 687
07福島県	1 955 000	13 770	23 418	30	13	△9 648	388	212	176	63	56	7	9 285	3 210
08茨城県	2 907 000	22 896	30 009	61	25	△7 113	577	274	303	110	91	19	14 477	5 261
09栃木県	1 968 000	15 973	20 784	38	16	△4 811	383	170	213	66	56	10	10 225	3 688
10群馬県	1 959 000	14 914	21 169	45	23	△6 255	387	172	215	72	51	21	9 246	3 520
11埼玉県	7 126 000	56 943	59 137	114	50	△2 194	1 390	693	697	249	207	42	36 776	13 434
12千葉県	6 119 000	48 881	53 206	135	64	△4 325	1 153	555	598	216	165	51	32 150	11 521
13東京都	12 916 000	107 401	109 194	236	117	△1 793	2 325	1 103	1 222	400	314	86	89 301	25 329
14神奈川県	8 947 000	75 477	71 996	174	91	3 481	1 588	776	812	304	234	70	51 530	16 812
15新潟県	2 336 000	17 476	28 083	20	11	△10 607	406	194	212	67	58	9	10 219	3 222
16富山县	1 072 000	7 880	12 754	17	8	△4 874	199	114	85	39	32	7	4 871	1 548
17石川県	1 154 000	9 544	12 223	19	13	△2 679	189	111	78	36	28	8	5 708	1 765
18福井県	789 000	6 712	8 795	14	9	△2 083	169	81	88	31	24	7	3 634	1 240
19山梨県	841 000	6 336	9 555	13	4	△3 219	148	61	87	23	20	3	3 923	1 591
20長野県	2 106 000	16 661	24 474	31	14	△7 813	381	181	200	61	49	12	9 948	3 541
21岐阜県	2 029 000	16 496	21 531	27	13	△5 035	355	177	178	69	59	10	9 521	3 306
22静岡県	3 683 000	30 810	38 194	58	28	△7 384	647	316	331	104	86	18	19 323	6 878
23愛知県	7 277 000	67 913	61 354	142	55	6 559	1 434	678	756	261	223	38	42 704	13 494
24三重県	1 811 000	14 729	19 210	48	15	△4 481	319	152	167	62	50	12	9 006	3 237
25滋賀県	1 396 000	13 236	12 221	29	15	1 015	236	118	118	51	41	10	7 389	2 346
26京都府	2 584 000	20 111	25 416	40	24	△5 305	464	207	257	77	60	17	13 189	4 646
27大阪府	8 697 000	73 012	80 472	154	62	△7 460	1 723	772	951	290	242	48	48 114	18 761
28兵庫県	5 496 000	46 436	53 657	79	20	△7 221	1 066	518	548	156	142	14	28 236	10 264
29奈良県	1 381 000	10 565	13 656	25	7	△3 091	269	124	145	35	31	4	6 223	2 390
30和歌山县	983 000	7 424	12 435	15	9	△5 011	159	64	95	30	22	8	4 664	1 959
31鳥取県	578 000	4 771	7 074	9	7	△2 303	115	49	66	25	19	6	2 759	1 065
32鳥根県	702 000	5 585	9 513	11	6	△3 928	138	57	81	19	14	5	3 114	1 014
33岡山県	1 919 000	16 279	21 181	38	16	△4 902	357	140	217	55	43	12	9 570	3 518
34広島県	2 817 000	24 846	29 273	57	26	△4 427	526	260	266	100	81	19	14 668	5 074
35山口県	1 420 000	10 797	18 231	26	10	△7 434	264	123	141	36	27	9	6 547	2 390
36徳島県	772 000	5 744	9 781	25	11	△4 037	143	65	78	25	18	7	3 370	1 254
37香川県	982 000	8 161	11 369	15	8	△3 208	165	91	74	41	33	8	4 789	1 887
38愛媛県	1 408 000	11 130	17 216	28	18	△6 086	292	108	184	41	31	10	6 386	2 529
39高知県	749 000	5 266	10 142	13	8	△4 876	153	58	95	24	19	5	3 257	1 403
40福岡県	5 044 000	45 815	48 957	94	47	△3 142	1 251	542	709	194	158	36	27 974	10 541
41佐賀県	840 000	7 440	9 676	12	4	△2 236	176	81	95	18	14	4	4 003	1 471
42長崎県	1 402 000	11 723	16 784	27	18	△5 061	325	146	179	46	37	9	6 335	2 450
43熊本県	1 799 000	15 996	20 565	39	16	△4 569	436	150	286	49	39	10	8 965	3 377
44大分県	1 178 000	9 650	14 050	24	9	△4 400	269	96	173	36	31	5	5 652	2 187
45宮崎県	1 122 000	9 858	13 051	27	12	△3 193	321	121	200	31	23	8	5 667	2 421
46鹿児島県	1 684 000	14 841	21 281	28	13	△6 440	419	159	260	51	41	10	8 080	3 113
47沖縄県	1 401 000	17 074	10 626	46	16	6 448	507	243	264	73	62	11	8 842	3 634
外 国 不 詳	· ·	67	170	-	-	△ 103	10	4	6	2	2	-	· ·	· ·
		· ·	1 335	1	1	· ·	4	2	2	3	2	1	· ·	· ·

注：1) 都道府県の表章は、出生は子の住所、死亡は死者の住所、死産は母の住所、婚姻は夫の住所、離婚は別居する前の住所による。

2) 出生数に死産数を加えたものである。

3) 出生数に妊娠満22週以後の死産数を加えたものである。

資料：「人口推計（平成24年10月1日現在）」（総務省統計局）

都道府県別

平成24年

出生率 (人口) (千対)	合計特殊 出生率 (人口) (千対)	死亡率 (人口) (千対)	乳児 死亡率 (出生) (千対)	新生児 死亡率 (出生) (千対)	自然 増減率 (人口) (千対)	死産率(出産 ²)千対)			周産期 死亡率 (出産 ³) (千対)	妊娠満 22週以後 の死産率 (出産 ³) (千対)	早期 新生児 死亡率 (出生) (千対)	婚姻率 (人口) (千対)	離婚率 (人口) (千対)	都道府県
						総数	自然死産	人工死産						
8.2	1.41	10.0	2.2	1.0	△ 1.7	23.4	10.8	12.6	4.0	3.2	0.8	5.3	1.87	全国
7.1	1.26	10.7	2.3	1.1	△ 3.6	29.5	11.9	17.7	4.1	3.3	0.8	4.9	2.13	北海道
6.8	1.36	12.8	2.6	1.6	△ 6.0	27.6	12.6	15.0	4.1	2.6	1.5	4.3	1.79	青森
7.1	1.44	12.4	2.9	1.5	△ 5.2	27.6	15.1	12.5	6.0	4.9	1.1	4.3	1.52	岩手
8.1	1.30	9.5	2.2	1.0	△ 1.5	25.4	11.6	13.8	3.8	3.1	0.7	5.3	1.71	宮城
6.2	1.37	14.0	1.7	0.9	△ 7.8	25.5	12.2	13.3	4.1	3.2	0.9	3.8	1.41	秋田
7.2	1.44	12.9	2.8	1.9	△ 5.7	25.6	10.7	15.0	4.9	3.5	1.3	4.3	1.47	山形
7.0	1.41	12.0	2.2	0.9	△ 4.9	27.4	15.0	12.4	4.6	4.1	0.5	4.7	1.64	福島
7.9	1.41	10.3	2.7	1.1	△ 2.4	24.6	11.7	12.9	4.8	4.0	0.8	5.0	1.81	茨城
8.1	1.43	10.6	2.4	1.0	△ 2.4	23.4	10.4	13.0	4.1	3.5	0.6	5.2	1.87	栃木
7.6	1.39	10.8	3.0	1.5	△ 3.2	25.3	11.2	14.1	4.8	3.4	1.4	4.7	1.80	群馬
8.0	1.29	8.3	2.0	0.9	△ 0.3	23.8	11.9	11.9	4.4	3.6	0.7	5.2	1.89	埼玉
8.0	1.31	8.7	2.8	1.3	△ 0.7	23.0	11.1	12.0	4.4	3.4	1.0	5.3	1.88	千葉
8.3	1.09	8.5	2.2	1.1	△ 0.1	21.2	10.1	11.1	3.7	2.9	0.8	6.9	1.96	東京
8.4	1.30	8.0	2.3	1.2	0.4	20.6	10.1	10.5	4.0	3.1	0.9	5.8	1.88	神奈川
7.5	1.43	12.0	1.1	0.6	△ 4.5	22.7	10.8	11.9	3.8	3.3	0.5	4.4	1.38	新潟
7.4	1.42	11.9	2.2	1.0	△ 4.5	24.6	14.1	10.5	4.9	4.0	0.9	4.5	1.44	富山
8.3	1.47	10.6	2.0	1.4	△ 2.3	19.4	11.4	8.0	3.8	2.9	0.8	4.9	1.53	石川
8.5	1.60	11.1	2.1	1.3	△ 2.6	24.6	11.8	12.8	4.6	3.6	1.0	4.6	1.57	福井
7.5	1.43	11.4	2.1	0.6	△ 3.8	22.8	9.4	13.4	3.6	3.1	0.5	4.7	1.89	山梨
7.9	1.51	11.6	1.9	0.8	△ 3.7	22.4	10.6	11.7	3.7	2.9	0.7	4.7	1.68	長野
8.1	1.45	10.6	1.6	0.8	△ 2.5	21.1	10.5	10.6	4.2	3.6	0.6	4.7	1.63	岐阜
8.4	1.52	10.4	1.9	0.9	△ 2.0	20.6	10.0	10.5	3.4	2.8	0.6	5.2	1.87	静岡
9.3	1.46	8.4	2.1	0.8	0.9	20.7	9.8	10.9	3.8	3.3	0.6	5.9	1.85	愛知
8.1	1.47	10.6	3.3	1.0	△ 2.5	21.2	10.1	11.1	4.2	3.4	0.8	5.0	1.79	三重
9.5	1.53	8.8	2.2	1.1	0.7	17.5	8.8	8.8	3.8	3.1	0.8	5.3	1.68	滋賀
7.8	1.23	9.8	2.0	1.2	△ 2.1	22.6	10.1	12.5	3.8	3.0	0.8	5.1	1.80	京都
8.4	1.31	9.3	2.1	0.8	△ 0.9	23.1	10.3	12.7	4.0	3.3	0.7	5.5	2.16	大阪
8.4	1.40	9.8	1.7	0.4	△ 1.3	22.4	10.9	11.5	3.3	3.0	0.3	5.1	1.87	兵庫
7.7	1.32	9.9	2.4	0.7	△ 2.2	24.8	11.4	13.4	3.3	2.9	0.4	4.5	1.73	奈良
7.6	1.53	12.7	2.0	1.2	△ 5.1	21.0	8.4	12.5	4.0	3.0	1.1	4.7	1.99	和歌山
8.3	1.57	12.2	1.9	1.5	△ 4.0	23.5	10.0	13.5	5.2	4.0	1.3	4.8	1.84	鳥取
8.0	1.68	13.6	2.0	1.1	△ 5.6	24.1	10.0	14.2	3.4	2.5	0.9	4.4	1.44	島根
8.5	1.47	11.0	2.3	1.0	△ 2.6	21.5	8.4	13.0	3.4	2.6	0.7	5.0	1.83	岡山
8.8	1.54	10.4	2.3	1.0	△ 1.6	20.7	10.2	10.5	4.0	3.2	0.8	5.2	1.80	広島
7.6	1.52	12.8	2.4	0.9	△ 5.2	23.9	11.1	12.7	3.3	2.5	0.8	4.6	1.68	山口
7.4	1.44	12.7	4.4	1.9	△ 5.2	24.3	11.0	13.2	4.3	3.1	1.2	4.4	1.62	徳島
8.3	1.56	11.6	1.8	1.0	△ 3.3	19.8	10.9	8.9	5.0	4.0	1.0	4.9	1.92	香川
7.9	1.52	12.2	2.5	1.6	△ 4.3	25.6	9.5	16.1	3.7	2.8	0.9	4.5	1.80	愛媛
7.0	1.43	13.5	2.5	1.5	△ 6.5	28.2	10.7	17.5	4.5	3.6	0.9	4.3	1.87	高知
9.1	1.43	9.7	2.1	1.0	△ 0.6	26.6	11.5	15.1	4.2	3.4	0.8	5.5	2.09	福岡
8.9	1.61	11.5	1.6	0.5	△ 2.7	23.1	10.6	12.5	2.4	1.9	0.5	4.8	1.75	佐賀
8.4	1.63	12.0	2.3	1.5	△ 3.6	27.0	12.1	14.9	3.9	3.1	0.8	4.5	1.75	崎玉
8.9	1.62	11.4	2.4	1.0	△ 2.5	26.5	9.1	17.4	3.1	2.4	0.6	5.0	1.88	熊本
8.2	1.53	11.9	2.5	0.9	△ 3.7	27.1	9.7	17.4	3.7	3.2	0.5	4.8	1.86	大分
8.8	1.67	11.6	2.7	1.2	△ 2.8	31.5	11.9	19.6	3.1	2.3	0.8	5.1	2.16	宮崎
8.8	1.64	12.6	1.9	0.9	△ 3.8	27.5	10.4	17.0	3.4	2.8	0.7	4.8	1.85	鹿児島
12.2	1.90	7.6	2.7	0.9	4.6	28.8	13.8	15.0	4.3	3.6	0.6	6.3	2.59	沖縄

第3表 主な死因¹⁾の死亡数・死亡率

都道府県	全死因		01200 結核		02100 悪性新生物		04100 糖尿病		09200 心疾患 (高血圧性を除く)		09300 脳血管疾患	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全 国 ²⁾	1 256 359	997.5	2 110	1.7	360 963	286.6	14 486	11.5	198 836	157.9	121 602	96.5
北 海 道	58 066	1 067.0	58	1.1	18 138	333.3	694	12.8	9 464	173.9	5 082	93.4
青 森 岩 手	17 294	1 283.9	30	2.2	4 805	356.7	229	17.0	2 839	210.8	1 965	145.9
宮 城	16 072	1 237.3	11	0.8	4 241	326.5	176	13.5	2 848	219.2	2 144	165.1
秋 田	22 101	954.7	30	1.3	6 451	278.7	257	11.1	3 341	144.3	2 549	110.1
山 形 福 茨 桢 群	14 856	1 401.5	10	0.9	4 099	386.7	159	15.0	2 298	216.8	1 765	166.5
福 岐 島 城 木 馬	14 752	1 287.3	16	1.4	4 099	357.7	140	12.2	2 236	195.1	1 790	156.2
茨 城 木 馬	23 418	1 197.9	11	0.6	6 235	318.9	305	15.6	4 235	216.6	2 553	130.6
栃 木 馬	30 009	1 032.3	45	1.5	8 300	285.5	412	14.2	4 963	170.7	3 228	111.0
群 馬	20 784	1 056.1	30	1.5	5 613	285.2	247	12.6	3 547	180.2	2 463	125.2
埼 玉 葉 京	14 169	1 080.6	23	1.2	5 671	289.5	314	16.0	3 250	165.9	2 181	111.3
千 京	59 137	829.9	107	1.5	17 818	250.0	749	10.5	10 325	144.9	5 517	77.4
東 京	53 206	869.5	91	1.5	15 475	252.9	649	10.6	9 550	156.1	5 083	83.1
神 奈 川	109 194	845.4	236	1.8	32 921	254.9	1 316	10.2	16 807	130.1	9 903	76.7
新 潟	71 996	804.7	126	1.4	22 302	249.3	693	7.7	10 470	117.0	6 720	75.1
富 山 川	28 083	1 202.2	24	1.0	7 846	335.9	288	12.3	4 165	178.3	3 422	146.5
石 井	12 754	1 189.7	17	1.6	3 493	325.8	146	13.6	1 773	165.4	1 376	128.4
福 山	12 223	1 059.2	9	0.8	3 485	302.0	130	11.3	1 948	168.8	1 278	110.7
長 野	8 795	1 114.7	12	1.5	2 373	300.8	108	13.7	1 416	179.5	866	109.8
岐 阜 静 知	9 555	1 136.1	14	1.7	2 549	303.1	107	12.7	1 417	168.5	962	114.4
滋 重 三	24 474	1 162.1	34	1.6	6 270	297.7	289	13.7	3 717	176.5	3 191	151.5
岡 知 重 三	21 531	1 061.2	42	2.1	5 802	286.0	225	11.1	3 656	180.2	2 022	99.7
愛 重 三	38 194	1 037.0	65	1.8	10 269	278.8	508	13.8	5 697	154.7	4 258	115.6
三 重 賀	61 354	843.1	144	2.0	18 102	248.8	607	8.3	8 651	118.9	5 585	76.7
滋 賀	19 210	1 060.7	28	1.5	5 123	282.9	247	13.6	2 764	152.6	1 921	106.1
京 都 大 阪	12 221	875.4	16	1.1	3 354	240.3	108	7.7	2 228	159.6	1 130	80.9
奈 良 和 歌 山	25 416	983.6	45	1.7	7 570	293.0	283	11.0	4 317	167.1	2 187	84.6
兵 庫	80 472	925.3	219	2.5	25 307	291.0	984	11.3	13 097	150.6	6 194	71.2
奈 良 和 歌 山	53 657	976.3	91	1.7	16 035	291.8	625	11.4	8 219	149.5	4 724	86.0
京 都 大 阪	13 656	988.8	28	2.0	4 019	291.0	138	10.0	2 495	180.7	1 160	84.0
奈 良 和 歌 山	12 435	1 265.0	32	3.3	3 394	345.3	115	11.7	2 206	224.4	1 025	104.3
鳥 取 岸	7 074	1 223.9	5	0.9	1 914	331.1	86	14.9	1 134	196.2	812	140.5
島 岡 山	9 513	1 355.1	10	1.4	2 538	361.5	85	12.1	1 461	208.1	972	138.5
山 岬 広 島	21 181	1 103.8	20	1.0	5 616	292.7	229	11.9	3 322	173.1	2 057	107.2
山 口	29 273	1 039.2	48	1.7	8 166	289.9	341	12.1	4 925	174.8	2 624	93.1
鳥 取 岸 岡 山	18 231	1 283.9	32	2.3	4 918	346.3	179	12.6	3 007	211.8	1 780	125.4
徳 香 愛 高 福	9 781	1 267.0	13	1.7	2 504	324.4	143	18.5	1 439	186.4	872	113.0
川 媛 知 岡	11 369	1 157.7	15	1.5	2 983	303.8	141	14.4	2 048	208.6	932	94.9
媛 知 岡	17 216	1 222.7	18	1.3	4 593	326.2	190	13.5	3 208	227.8	1 611	114.4
媛 知 岡	10 142	1 354.1	12	1.6	2 581	344.6	108	14.4	1 866	249.1	1 051	140.3
媛 知 岡	48 957	970.6	75	1.5	15 153	300.4	586	11.6	5 773	114.5	4 180	82.9
佐 賀 崎	9 676	1 151.9	17	2.0	2 781	331.1	93	11.1	1 483	176.5	871	103.7
長 崎	16 784	1 197.1	29	2.1	4 725	337.0	152	10.8	2 570	183.3	1 525	108.8
熊 本 分	20 565	1 143.1	40	2.2	5 471	304.1	209	11.6	3 268	181.7	1 904	105.8
大 宮 崎	14 050	1 192.7	16	1.4	3 753	318.6	151	12.8	2 176	184.7	1 407	119.4
鹿 児 島 繩	13 051	1 163.2	25	2.2	3 483	310.4	136	12.1	2 200	196.1	1 420	126.6
鹿 児 島 繩	21 281	1 263.7	35	2.1	5 520	327.8	245	14.5	3 262	193.7	2 398	142.4
沖 繩	10 626	758.5	42	3.0	2 913	207.9	154	11.0	1 566	111.8	834	59.5

注：1) 主な死因名等は死因簡単分類による。

2) 全国には住所地外国、不詳を含む。

(人口10万対), 都道府県別

平成24年

10200 肺 炎		10400 慢性閉塞性肺疾患		11300 肝 疾 患		14200 腎 不 全		18100 老 衰		20100 不慮の事故		20200 自 殺	
死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
123 925	98.4	16 402	13.0	15 980	12.7	25 107	19.9	60 719	48.2	41 031	32.6	26 433	21.0
5 676	104.3	688	12.6	687	12.6	1 498	27.5	1 911	35.1	1 633	30.0	1 206	22.2
1 941	144.1	187	13.9	213	15.8	457	33.9	795	59.0	511	37.9	327	24.3
1 484	114.2	201	15.5	162	12.5	341	26.3	809	62.3	592	45.6	329	25.3
1 932	83.5	238	10.3	232	10.0	413	17.8	1 295	55.9	648	28.0	437	18.9
1 487	140.3	119	11.2	158	14.9	303	28.6	737	69.5	542	51.1	293	27.6
1 462	127.6	201	17.5	137	12.0	304	26.5	866	75.6	499	43.5	290	25.3
2 180	111.5	308	15.8	265	13.6	492	25.2	1 219	62.4	829	42.4	428	21.9
3 089	106.3	400	13.8	364	12.5	590	20.3	1 588	54.6	957	32.9	614	21.1
1 996	101.4	278	14.1	288	14.6	396	20.1	1 172	59.6	560	28.5	449	22.8
2 438	124.5	344	17.6	259	13.2	373	19.0	936	47.8	688	35.1	459	23.4
5 972	83.8	678	9.5	745	10.5	1 142	16.0	2 201	30.9	1 514	21.2	1 528	21.4
5 314	86.8	630	10.3	653	10.7	917	15.0	2 498	40.8	1 633	26.7	1 215	19.9
10 149	78.6	1 436	11.1	1 822	14.1	1 821	14.1	5 019	38.9	2 810	21.8	2 575	19.9
6 517	72.8	930	10.4	1 200	13.4	1 103	12.3	3 805	42.5	2 674	29.9	1 659	18.5
2 616	112.0	335	14.3	274	11.7	479	20.5	1 680	71.9	1 083	46.4	617	26.4
1 354	126.3	145	13.5	148	13.8	249	23.2	680	63.4	559	52.1	238	22.2
1 246	108.0	167	14.5	124	10.7	221	19.2	638	55.3	431	37.3	241	20.9
971	123.1	96	12.2	100	12.7	196	24.8	409	51.8	384	48.7	159	20.2
883	105.0	145	17.2	120	14.3	156	18.5	689	81.9	382	45.4	185	22.0
2 076	98.6	360	17.1	216	10.3	390	18.5	1 611	76.5	856	40.6	447	21.2
1 938	95.5	260	12.8	203	10.0	446	22.0	1 358	66.9	881	43.4	425	20.9
3 189	86.6	472	12.8	403	10.9	801	21.7	2 828	76.8	1 321	35.9	751	20.4
5 515	75.8	644	8.8	686	9.4	1 124	15.4	3 244	44.6	2 019	27.7	1 332	18.3
1 824	100.7	252	13.9	188	10.4	398	22.0	1 404	77.5	752	41.5	370	20.4
1 149	82.3	183	13.1	124	8.9	237	17.0	533	38.2	474	34.0	282	20.2
2 481	96.0	369	14.3	274	10.6	572	22.1	1 155	44.7	603	23.3	447	17.3
8 582	98.7	1 047	12.0	1 387	15.9	1 854	21.3	2 509	28.8	2 311	26.6	1 877	21.6
5 083	92.5	783	14.2	736	13.4	1 067	19.4	2 608	47.5	1 932	35.2	1 135	20.7
1 353	98.0	182	13.2	172	12.5	265	19.2	563	40.8	412	29.8	245	17.7
1 319	134.2	211	21.5	142	14.4	284	28.9	740	75.3	398	40.5	180	18.3
575	99.5	89	15.4	94	16.3	148	25.6	481	83.2	223	38.6	121	20.9
887	126.4	137	19.5	96	13.7	173	24.6	670	95.4	325	46.3	160	22.8
2 489	129.7	249	13.0	230	12.0	466	24.3	1 107	57.7	747	38.9	360	18.8
2 950	104.7	378	13.4	370	13.1	647	23.0	1 554	55.2	1 041	37.0	579	20.6
2 215	156.0	232	16.3	225	15.8	399	28.1	898	63.2	491	34.6	331	23.3
1 119	144.9	161	20.9	111	14.4	210	27.2	498	64.5	377	48.8	147	19.0
935	95.2	163	16.6	127	12.9	237	24.1	602	61.3	439	44.7	172	17.5
1 743	123.8	206	14.6	193	13.7	381	27.1	930	66.1	644	45.7	290	20.6
1 179	157.4	133	17.8	126	16.8	256	34.2	340	45.4	426	56.9	194	25.9
5 120	101.5	650	12.9	579	11.5	973	19.3	1 563	31.0	1 805	35.8	1 119	22.2
1 123	133.7	139	16.5	97	11.5	172	20.5	400	47.6	336	40.0	176	21.0
1 857	132.5	259	18.5	166	11.8	387	27.6	734	52.4	606	43.2	248	17.7
2 119	117.8	290	16.1	236	13.1	458	25.5	963	53.5	680	37.8	428	23.8
1 448	122.9	249	21.1	162	13.8	313	26.6	705	59.8	443	37.6	261	22.2
1 464	130.5	199	17.7	160	14.3	272	24.2	498	44.4	462	41.2	277	24.7
2 471	146.7	345	20.5	233	13.8	509	30.2	882	52.4	731	43.4	364	21.6
917	65.5	223	15.9	262	18.7	201	14.3	388	27.7	269	19.2	285	20.3

第4表 主な死因¹⁾の死亡数・死亡率

年齢階級	全死因		01200 結核		02100 悪性新生物		04100 糖尿病		09200 心疾患 (高血圧性を除く)		09300 脳血管疾患	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
総 数 ²⁾	1 256 359	997.5	2 110	1.7	360 963	286.6	14 486	11.5	198 836	157.9	121 602	96.5
0~4歳	3 176	60.8	-	-	116	2.2	-	-	118	2.3	12	0.2
5~9	497	9.3	-	-	84	1.6	-	-	24	0.4	5	0.1
10~14	509	8.7	-	-	111	1.9	2	0.0	26	0.4	18	0.3
15~19	1 369	22.9	-	-	165	2.8	2	0.0	60	1.0	22	0.4
20~24	2 476	40.7	-	-	172	2.8	6	0.1	111	1.8	32	0.5
25~29	3 203	46.8	-	-	333	4.9	12	0.2	184	2.7	62	0.9
30~34	4 065	53.2	3	0.0	685	9.0	20	0.3	346	4.5	154	2.0
35~39	6 805	73.4	3	0.0	1 537	16.6	69	0.7	684	7.4	422	4.6
40~44	10 346	111.0	4	0.0	2 994	32.1	107	1.1	1 236	13.3	808	8.7
45~49	13 840	171.2	12	0.1	4 572	56.6	164	2.0	1 763	21.8	1 170	14.5
50~54	20 770	273.8	10	0.1	8 192	108.0	258	3.4	2 566	33.8	1 715	22.6
55~59	33 216	421.4	29	0.4	15 149	192.2	464	5.9	4 103	52.1	2 631	33.4
60~64	67 491	662.5	74	0.7	32 875	322.7	949	9.3	8 363	82.1	4 986	48.9
65~69	80 161	982.2	77	0.9	38 556	472.4	1 141	14.0	10 081	123.5	6 118	75.0
70~74	111 507	1 514.2	163	2.2	48 776	662.4	1 578	21.4	14 442	196.1	9 213	125.1
75~79	164 344	2 637.5	272	4.4	60 631	973.1	2 302	36.9	23 389	375.4	15 465	248.2
80~84	221 545	4 797.4	443	9.6	64 288	1 392.1	2 740	59.3	35 043	758.8	22 938	496.7
85~89	234 928	8 472.0	553	19.9	49 338	1 779.2	2 484	89.6	41 921	1 511.8	26 016	938.2
90~94	170 900	14 951.9	350	30.6	23 961	2 096.3	1 549	135.5	33 738	2 951.7	19 198	1 679.6
95~99	83 679	25 357.3	97	29.4	7 367	2 232.4	554	167.9	16 824	5 098.2	8 788	2 663.0
100~	20 985	41 147.1	20	39.2	1 037	2 033.3	81	158.8	3 771	7 394.1	1 815	3 558.8
男	655 526	1 068.9	1 279	2.1	215 110	350.8	7 639	12.5	92 976	151.6	58 625	95.6
0~4歳	1 680	62.8	-	-	58	2.2	-	-	60	2.2	9	0.3
5~9	292	10.6	-	-	51	1.9	-	-	12	0.4	4	0.1
10~14	303	10.2	-	-	60	2.0	2	0.1	13	0.4	6	0.2
15~19	920	30.0	-	-	98	3.2	1	0.0	38	1.2	9	0.3
20~24	1 779	57.1	-	-	103	3.3	3	0.1	83	2.7	19	0.6
25~29	2 180	62.4	-	-	168	4.8	7	0.2	138	3.9	35	1.0
30~34	2 647	68.1	2	0.1	305	7.8	16	0.4	268	6.9	100	2.6
35~39	4 408	93.5	3	0.1	636	13.5	54	1.1	543	11.5	287	6.1
40~44	6 666	141.0	4	0.1	1 268	26.8	74	1.6	979	20.7	577	12.2
45~49	9 019	221.2	11	0.3	2 123	52.1	140	3.4	1 371	33.6	821	20.1
50~54	13 629	358.5	9	0.2	4 283	112.7	197	5.2	2 053	54.0	1 171	30.8
55~59	22 618	577.4	26	0.7	8 974	229.1	362	9.2	3 310	84.5	1 868	47.7
60~64	47 266	945.9	64	1.3	21 629	432.8	732	14.6	6 509	130.3	3 558	71.2
65~69	55 541	1 419.0	63	1.6	26 227	670.1	827	21.1	7 368	188.2	4 158	106.2
70~74	74 490	2 174.3	110	3.2	32 886	959.9	1 073	31.3	9 536	278.3	6 122	178.7
75~79	103 528	3 792.2	170	6.2	39 847	1 459.6	1 346	49.3	13 658	500.3	9 606	351.9
80~84	125 465	6 886.1	268	14.7	39 268	2 155.2	1 365	74.9	17 645	968.4	12 327	676.6
85~89	106 537	11 850.6	329	36.6	25 247	2 808.3	915	101.8	16 463	1 831.3	10 757	1 196.6
90~94	53 525	20 198.1	169	63.8	9 316	3 515.5	405	152.8	8 999	3 395.8	5 220	1 969.8
95~99	19 407	32 345.0	45	75.0	2 302	3 836.7	102	170.0	3 393	5 655.0	1 741	2 901.7
100~	3 194	45 628.6	6	85.7	245	3 500.0	15	214.3	499	7 128.6	219	3 128.6
女	600 833	929.7	831	1.3	145 853	225.7	6 847	10.6	105 860	163.8	62 977	97.4
0~4歳	1 496	58.7	-	-	58	2.3	-	-	58	2.3	3	0.1
5~9	205	7.8	-	-	33	1.3	-	-	12	0.5	1	0.0
10~14	206	7.3	-	-	51	1.8	-	-	13	0.5	12	0.4
15~19	449	15.4	-	-	67	2.3	1	0.0	22	0.8	13	0.4
20~24	697	23.5	-	-	69	2.3	3	0.1	28	0.9	13	0.4
25~29	1 023	30.5	-	-	165	4.9	5	0.1	46	1.4	27	0.8
30~34	1 418	37.8	1	0.0	380	10.1	4	0.1	78	2.1	54	1.4
35~39	2 397	52.6	-	-	901	19.8	15	0.3	141	3.1	135	3.0
40~44	3 680	80.2	-	-	1 726	37.6	33	0.7	257	5.6	231	5.0
45~49	4 821	120.4	1	0.0	2 449	61.1	24	0.6	392	9.8	349	8.7
50~54	7 141	188.7	1	0.0	3 909	103.3	61	1.6	513	13.6	544	14.4
55~59	10 598	267.2	3	0.1	6 175	155.7	102	2.6	793	20.0	763	19.2
60~64	20 225	389.6	10	0.2	11 246	216.6	217	4.2	1 854	35.7	1 428	27.5
65~69	24 620	579.7	14	0.3	12 329	290.3	314	7.4	2 713	63.9	1 960	46.2
70~74	37 017	940.0	53	1.3	15 890	403.5	505	12.8	4 906	124.6	3 091	78.5
75~79	60 816	1 737.1	102	2.9	20 784	593.7	956	27.3	9 731	277.9	5 859	167.4
80~84	96 080	3 436.3	175	6.3	25 020	894.8	1 375	49.2	17 398	622.2	10 611	379.5
85~89	128 391	6 854.8	224	12.0	24 091	1 286.2	1 569	83.8	25 458	1 359.2	15 259	814.7
90~94	117 375	13 368.5	181	20.6	14 645	1 668.0	1 144	130.3	24 739	2 817.7	13 978	1 592.0
95~99	64 272	23 804.4	52	19.3	5 065	1 875.9	452	167.4	13 431	4 974.4	7 047	2 610.0
100~	17 791	40 434.1	14	31.8	792	1 800.0	66	150.0	3 272	7 436.4	1 596	3 627.3

注：1) 主な死因名等は死因簡単分類による。

2) 総数には年齢不詳を含む。

(人口10万対), 性・年齢階級別

平成24年

10200 肺 炎		10400 慢性閉塞性肺疾患		11300 肝 疾 患		14200 腎 不 全		18100 老 衰		20100 不慮の事故		20200 自 殺	
死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
123 925	98.4	16 402	13.0	15 980	12.7	25 107	19.9	60 719	48.2	41 031	32.6	26 433	21.0
91	1.7	3	0.1	8	0.2	4	0.1	-	-	216	4.1	-	-
28	0.5	2	0.0	1	0.0	2	0.0	-	-	103	1.9	-	-
18	0.3	-	-	2	0.0	1	0.0	-	-	95	1.6	75	1.3
19	0.3	1	0.0	-	-	2	0.0	-	-	341	5.7	510	8.5
31	0.5	1	0.0	5	0.1	7	0.1	-	-	429	7.1	1 279	21.0
42	0.6	-	-	11	0.2	1	0.0	-	-	416	6.1	1 587	23.2
55	0.7	2	0.0	57	0.7	7	0.1	-	-	472	6.2	1 587	20.8
91	1.0	5	0.1	193	2.1	24	0.3	-	-	606	6.5	1 997	21.5
127	1.4	10	0.1	407	4.4	40	0.4	-	-	730	7.8	2 165	23.2
224	2.8	15	0.2	691	8.5	70	0.9	-	-	791	9.8	2 216	27.4
387	5.1	25	0.3	956	12.6	127	1.7	-	-	1 019	13.4	2 274	30.0
769	9.8	89	1.1	1 219	15.5	283	3.6	-	-	1 359	17.2	2 153	27.3
2 095	20.6	280	2.7	1 955	19.2	695	6.8	16	0.2	2 327	22.8	2 607	25.6
3 264	40.0	589	7.2	1 828	22.4	936	11.5	92	1.1	2 700	33.1	2 119	26.0
6 639	90.2	1 184	16.1	2 017	27.4	1 640	22.3	336	4.6	3 782	51.4	1 889	25.7
13 583	218.0	2 548	40.9	2 181	35.0	3 030	48.6	1 420	22.8	5 610	90.0	1 583	25.4
24 360	527.5	4 337	93.9	2 109	45.7	4 938	106.9	5 278	114.3	7 186	155.6	1 160	25.1
31 731	1 144.3	4 246	153.1	1 466	52.9	6 213	224.1	12 461	449.4	6 715	242.2	724	26.1
24 884	2 177.1	2 213	193.6	632	55.3	4 642	406.1	18 806	1 645.3	4 085	357.4	317	27.7
12 533	3 797.9	723	219.1	201	60.9	2 070	627.3	15 681	4 751.8	1 636	495.8	79	23.9
2 942	5 768.6	127	249.0	34	66.7	374	733.3	6 625	12 990.2	351	688.2	7	13.7
66 386	108.2	12 866	21.0	10 441	17.0	11 835	19.3	14 737	24.0	23 714	38.7	18 485	30.1
39	1.5	1	0.0	4	0.1	2	0.1	-	-	140	5.2	-	-
17	0.6	2	0.1	1	0.0	1	0.0	-	-	73	2.7	-	-
14	0.5	-	-	1	0.0	-	-	-	-	66	2.2	55	1.8
9	0.3	1	0.0	-	-	1	0.0	-	-	261	8.5	346	11.3
20	0.6	1	0.0	3	0.1	4	0.1	-	-	349	11.2	948	30.4
25	0.7	-	-	5	0.1	-	-	-	-	311	8.9	1 136	32.5
36	0.9	1	0.0	40	1.0	5	0.1	-	-	353	9.1	1 108	28.5
56	1.2	3	0.1	135	2.9	15	0.3	-	-	489	10.4	1 455	30.9
81	1.7	4	0.1	326	6.9	22	0.5	-	-	553	11.7	1 609	34.0
167	4.1	9	0.2	572	14.0	53	1.3	-	-	598	14.7	1 678	41.2
291	7.7	21	0.6	782	20.6	91	2.4	-	-	772	20.3	1 669	43.9
575	14.7	76	1.9	1 005	25.7	202	5.2	-	-	1 029	26.3	1 619	41.3
1 647	33.0	234	4.7	1 603	32.1	491	9.8	10	0.2	1 724	34.5	1 872	37.5
2 509	64.1	513	13.1	1 423	36.4	657	16.8	55	1.4	1 831	46.8	1 445	36.9
4 945	144.3	1 007	29.4	1 401	40.9	1 054	30.8	188	5.5	2 454	71.6	1 196	34.9
9 528	349.0	2 176	79.7	1 289	47.2	1 829	67.0	725	26.6	3 388	124.1	975	35.7
15 525	852.1	3 635	199.5	1 063	58.3	2 620	143.8	2 253	123.7	4 055	222.6	697	38.3
16 833	1 872.4	3 322	369.5	549	61.1	2 661	296.0	3 838	426.9	3 184	354.2	398	44.3
9 620	3 630.2	1 456	549.4	178	67.2	1 490	562.3	4 119	1 554.3	1 506	568.3	156	58.9
3 816	6 360.0	362	603.3	49	81.7	566	943.3	2 701	4 501.7	465	775.0	32	53.3
621	8 871.4	40	571.4	5	71.4	70	1 000.0	847	12 100.0	66	942.9	3	42.9
57 539	89.0	3 536	5.5	5 539	8.6	13 272	20.5	45 982	71.1	17 317	26.8	7 948	12.3
52	2.0	2	0.1	4	0.2	2	0.1	-	-	76	3.0	-	-
11	0.4	-	-	-	-	1	0.0	-	-	30	1.1	-	-
4	0.1	-	-	1	0.0	1	0.0	-	-	29	1.0	20	0.7
10	0.3	-	-	-	-	1	0.0	-	-	80	2.7	164	5.6
11	0.4	-	-	2	0.1	3	0.1	-	-	80	2.7	331	11.2
17	0.5	-	-	6	0.2	1	0.0	-	-	105	3.1	451	13.4
19	0.5	1	0.0	17	0.5	2	0.1	-	-	119	3.2	479	12.8
35	0.8	2	0.0	58	1.3	9	0.2	-	-	117	2.6	542	11.9
46	1.0	6	0.1	81	1.8	18	0.4	-	-	177	3.9	556	12.1
57	1.4	6	0.1	119	3.0	17	0.4	-	-	193	4.8	538	13.4
96	2.5	4	0.1	174	4.6	36	1.0	-	-	247	6.5	605	16.0
194	4.9	13	0.3	214	5.4	81	2.0	-	-	330	8.3	534	13.5
448	8.6	46	0.9	352	6.8	204	3.9	6	0.1	603	11.6	735	14.2
755	17.8	76	1.8	405	9.5	279	6.6	37	0.9	869	20.5	674	15.9
1 694	43.0	177	4.5	616	15.6	586	14.9	148	3.8	1 328	33.7	693	17.6
4 055	115.8	372	10.6	892	25.5	1 201	34.3	695	19.9	2 222	63.5	608	17.4
8 835	316.0	702	25.1	1 046	37.4	2 318	82.9	3 025	108.2	3 131	112.0	463	16.6
14 898	7954	924	49.3	917	49.0	3 552	189.6	8 623	460.4	3 531	188.5	326	17.4
15 264	1 738.5	757	86.2	454	51.7	3 152	359.0	14 687	1 672.8	2 579	293.7	161	18.3
8 717	3 228.5	361	133.7	152	56.3	1 504	557.0	12 980	4 807.4	1 171	433.7	47	17.4
2 321	5 275.0	87	197.7	29	65.9	304	690.9	5 778	13 131.8	285	647.7	4	9.1

第5表 性・年齢階級別に

年齢 階級	総数										平成24年	
	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位			
	死因	割合 ²⁾	死因	割合	死因	割合	死因	割合	死因	割合		
総数	悪性新生物	28.7	心疾患	15.8	肺炎	9.9	脳血管疾患	9.7	老衰	4.8		
0歳	先天奇形、変形及び染色体異常	35.5	周産期に特異的な呼吸障害等	13.7	乳幼児突然死症候群	6.3	不慮の事故	4.0	胎児及び新生児の出血性障害等	3.5		
1~4	先天奇形、変形及び染色体異常	20.5	不慮の事故	14.0	悪性新生物	11.5	心疾患	6.6	肺炎	5.6		
5~9	不慮の事故	20.7	悪性新生物	16.9	先天奇形、変形及び染色体異常	7.0	その他の新生物	6.4	肺炎	5.6		
10~14	悪性新生物	21.8	不慮の事故	18.7	自殺	14.7	心疾患	5.1	脳血管疾患	3.5		
15~19	自殺	37.3	不慮の事故	24.9	悪性新生物	12.1	心疾患	4.4	先天奇形、変形及び染色体異常	2.0		
20~24	自殺	51.7	不慮の事故	17.3	悪性新生物	6.9	心疾患	4.5	脳血管疾患	1.3		
25~29	自殺	49.5	不慮の事故	13.0	悪性新生物	10.4	心疾患	5.7	脳血管疾患	1.9		
30~34	自殺	39.0	悪性新生物	16.9	不慮の事故	11.6	心疾患	8.5	脳血管疾患	3.8		
35~39	自殺	29.3	悪性新生物	22.6	心疾患	10.1	不慮の事故	8.9	脳血管疾患	6.2		
40~44	悪性新生物	28.9	自殺	20.9	心疾患	11.9	脳血管疾患	7.8	不慮の事故	7.1		
45~49	悪性新生物	33.0	自殺	16.0	心疾患	12.7	脳血管疾患	8.5	不慮の事故	5.7		
50~54	悪性新生物	39.4	心疾患	12.4	自殺	10.9	脳血管疾患	8.3	不慮の事故	4.9		
55~59	悪性新生物	45.6	心疾患	12.4	脳血管疾患	7.9	自殺	6.5	不慮の事故	4.1		
60~64	悪性新生物	48.7	心疾患	12.4	脳血管疾患	7.4	自殺	3.9	不慮の事故	3.4		
65~69	悪性新生物	48.1	心疾患	12.6	脳血管疾患	7.6	肺炎	4.1	不慮の事故	3.4		
70~74	悪性新生物	43.7	心疾患	13.0	脳血管疾患	8.3	肺炎	6.0	不慮の事故	3.4		
75~79	悪性新生物	36.9	心疾患	14.2	脳血管疾患	9.4	肺炎	8.3	不慮の事故	3.4		
80~84	悪性新生物	29.0	心疾患	15.8	肺炎	11.0	脳血管疾患	10.4	不慮の事故	3.2		
85~89	悪性新生物	21.0	心疾患	17.8	肺炎	13.5	脳血管疾患	11.1	老衰	5.3		
90~94	心疾患	19.7	肺炎	14.6	悪性新生物	14.0	脳血管疾患	11.2	老衰	11.0		
95~99	心疾患	20.1	老衰	18.7	肺炎	15.0	脳血管疾患	10.5	悪性新生物	8.8		
100~	老衰	31.6	心疾患	18.0	肺炎	14.0	脳血管疾患	8.6	悪性新生物	4.9		
(再掲)												
65~	悪性新生物	27.0	心疾患	16.5	肺炎	11.0	脳血管疾患	10.1	老衰	5.6		
80~	悪性新生物	19.9	心疾患	17.9	肺炎	13.2	脳血管疾患	10.8	老衰	8.0		

注：1) [1] 乳児（0歳）の死因については乳児死因順位に用いる分類項目による。

[2] 死因名は次のように省略した。

心疾患←心疾患（高血圧性を除く）

周産期に特異的な呼吸障害等←周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害

胎児及び新生児の出血性障害等←胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害

妊娠期間等に関連する障害←妊娠期間及び胎児発育に関連する障害

2) 割合(%)はそれぞれの年齢階級別死亡数を100としたものである。

3) 死因順位は死亡数の多いものから定めた。死亡数が同数の場合は、同一順位に死因名を列記し、次位を空欄とした。

みた死因順位¹⁾

年齢 階級	男										平成24年	
	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位			
	死因	割合 ²⁾	死因	割合	死因	割合	死因	割合	死因	割合		
総数	悪性新生物	32.8	心疾患	14.2	肺炎	10.1	脳血管疾患	8.9	不慮の事故	3.6		
0歳	先天奇形、変形及び染色体異常	32.3	周産期に特異的な呼吸障害等	13.6	乳幼児突然死症候群	7.4	不慮の事故	4.9	胎児及び新生児の出血性障害等	4.3		
1~4	先天奇形、変形及び染色体異常	19.0	不慮の事故	17.5	悪性新生物	11.1	心疾患	5.5	肺炎	4.6		
5~9	不慮の事故	25.0	悪性新生物	17.5	肺炎	5.8	先天奇形、変形及び染色体異常	5.1	その他の新生物	4.5		
10~14	不慮の事故	21.8	悪性新生物	19.8	自殺	18.2	肺炎	4.6	心疾患	4.3		
15~19	自殺	37.6	不慮の事故	28.4	悪性新生物	10.7	心疾患	4.1	先天奇形、変形及び染色体異常	2.2		
20~24	自殺	53.3	不慮の事故	19.6	悪性新生物	5.8	心疾患	4.7	肺炎	1.1		
25~29	自殺	52.1	不慮の事故	14.3	悪性新生物	7.7	心疾患	6.3	脳血管疾患	1.6		
30~34	自殺	41.9	不慮の事故	13.3	悪性新生物	11.5	心疾患	10.1	脳血管疾患	3.8		
35~39	自殺	33.0	悪性新生物	14.4	心疾患	12.3	不慮の事故	11.1	脳血管疾患	6.5		
40~44	自殺	24.1	悪性新生物	19.0	心疾患	14.7	脳血管疾患	8.7	不慮の事故	8.3		
45~49	悪性新生物	23.5	自殺	18.6	心疾患	15.2	脳血管疾患	9.1	不慮の事故	6.6		
50~54	悪性新生物	31.4	心疾患	15.1	自殺	12.2	脳血管疾患	8.6	肝疾患	5.7		
55~59	悪性新生物	39.7	心疾患	14.6	脳血管疾患	8.3	自殺	7.2	不慮の事故	4.5		
60~64	悪性新生物	45.8	心疾患	13.8	脳血管疾患	7.5	自殺	4.0	不慮の事故	3.6		
65~69	悪性新生物	47.2	心疾患	13.3	脳血管疾患	7.5	肺炎	4.5	不慮の事故	3.3		
70~74	悪性新生物	44.1	心疾患	12.8	脳血管疾患	8.2	肺炎	6.6	不慮の事故	3.3		
75~79	悪性新生物	38.5	心疾患	13.2	脳血管疾患	9.3	肺炎	9.2	不慮の事故	3.3		
80~84	悪性新生物	31.3	心疾患	14.1	肺炎	12.4	脳血管疾患	9.8	不慮の事故	3.2		
85~89	悪性新生物	23.7	肺炎	15.8	心疾患	15.5	脳血管疾患	10.1	老衰	3.6		
90~94	肺炎	18.0	悪性新生物	17.4	心疾患	16.8	脳血管疾患	9.8	老衰	7.7		
95~99	肺炎	19.7	心疾患	17.5	老衰	13.9	悪性新生物	11.9	脳血管疾患	9.0		
100~	老衰	26.5	肺炎	19.4	心疾患	15.6	悪性新生物	7.7	脳血管疾患	6.9		
(再掲) 65~	悪性新生物	32.4	心疾患	14.3	肺炎	11.7	脳血管疾患	9.3	不慮の事故	3.1		
80~	悪性新生物	24.8	心疾患	15.3	肺炎	15.1	脳血管疾患	9.8	老衰	4.5		

第5表 性・年齢階級別にみた死因順位¹⁾(つづき)

年齢 階級	女										平成24年	
	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位			
	死因	割合 ²⁾	死因	割合	死因	割合	死因	割合	死因	割合		
総数	悪性新生物	24.3	心疾患	17.6	脳血管疾患	10.5	肺炎	9.6	老衰	7.7		
0歳	先天奇形、変形及び染色体異常	39.0	周産期に特異的な呼吸障害等	13.7	乳幼児突然死症候群	5.0	妊娠期間等に関連する障害	3.2	不慮の事故	3.1		
1~4	先天奇形、変形及び染色体異常	22.2	悪性新生物	11.9	不慮の事故	10.3	心疾患	7.9	肺炎	6.7		
5~9	悪性新生物	16.1	不慮の事故	14.6	先天奇形、変形及び染色体異常	9.8	その他の新生物	9.3	心疾患	5.9		
10~14	悪性新生物	24.8	不慮の事故	14.1	自殺	9.7	心疾患	6.3	脳血管疾患	5.8		
15~19	自殺	36.5	不慮の事故	17.8	悪性新生物	14.9	心疾患	4.9	脳血管疾患	2.9		
20~24	自殺	47.5	不慮の事故	11.5	悪性新生物	9.9	心疾患	4.0	その他新生物 脳血管疾患	1.9		
25~29	自殺	44.1	悪性新生物	16.1	不慮の事故	10.3	心疾患	4.5	脳血管疾患	2.6		
30~34	自殺	33.8	悪性新生物	26.8	不慮の事故	8.4	心疾患	5.5	脳血管疾患	3.8		
35~39	悪性新生物	37.6	自殺	22.6	心疾患	5.9	脳血管疾患	5.6	不慮の事故	4.9		
40~44	悪性新生物	46.9	自殺	15.1	心疾患	7.0	脳血管疾患	6.3	不慮の事故	4.8		
45~49	悪性新生物	50.8	自殺	11.2	心疾患	8.1	脳血管疾患	7.2	不慮の事故	4.0		
50~54	悪性新生物	54.7	自殺	8.5	脳血管疾患	7.6	心疾患	7.2	不慮の事故	3.5		
55~59	悪性新生物	58.3	心疾患	7.5	脳血管疾患	7.2	自殺	5.0	不慮の事故	3.1		
60~64	悪性新生物	55.6	心疾患	9.2	脳血管疾患	7.1	自殺	3.6	不慮の事故	3.0		
65~69	悪性新生物	50.1	心疾患	11.0	脳血管疾患	8.0	不慮の事故	3.5	肺炎	3.1		
70~74	悪性新生物	42.9	心疾患	13.3	脳血管疾患	8.4	肺炎	4.6	不慮の事故	3.6		
75~79	悪性新生物	34.2	心疾患	16.0	脳血管疾患	9.6	肺炎	6.7	不慮の事故	3.7		
80~84	悪性新生物	26.0	心疾患	18.1	脳血管疾患	11.0	肺炎	9.2	不慮の事故	3.3		
85~89	心疾患	19.8	悪性新生物	18.8	脳血管疾患	11.9	肺炎	11.6	老衰	6.7		
90~94	心疾患	21.1	肺炎	13.0	老衰	12.5	悪性新生物	12.5	脳血管疾患	11.9		
95~99	心疾患	20.9	老衰	20.2	肺炎	13.6	脳血管疾患	11.0	悪性新生物	7.9		
100~	老衰	32.5	心疾患	18.4	肺炎	13.0	脳血管疾患	9.0	悪性新生物	4.5		
(再掲) 65~	悪性新生物	21.7	心疾患	18.6	脳血管疾患	10.9	肺炎	10.3	老衰	8.4		
80~	心疾患	19.9	悪性新生物	16.4	肺炎	11.8	脳血管疾患	11.4	老衰	10.6		

第 6 表 都道府県別にみた死因順位

割合(%)

平成24年

都道府県	第 1 位		第 2 位		第 3 位		第 4 位		第 5 位	
	死因	割合 ²⁾	死因	割合	死因	割合	死因	割合	死因	割合
全国 ¹⁾	悪性新生物	28.7	心疾患	15.8	肺炎	9.9	脳血管疾患	9.7	老衰	4.8
北海道	悪性新生物	31.2	心疾患	16.3	肺炎	9.8	脳血管疾患	8.8	老衰	3.3
青森	悪性新生物	27.8	心疾患	16.4	脳血管疾患	11.4	肺炎	11.2	老衰	4.6
岩手	悪性新生物	26.4	心疾患	17.7	脳血管疾患	13.3	肺炎	9.2	老衰	5.0
宮城	悪性新生物	29.2	心疾患	15.1	脳血管疾患	11.5	肺炎	8.7	老衰	5.9
秋田	悪性新生物	27.6	心疾患	15.5	脳血管疾患	11.9	肺炎	10.0	老衰	5.0
山形	悪性新生物	27.8	心疾患	15.2	脳血管疾患	12.1	肺炎	9.9	老衰	5.9
福島	悪性新生物	26.6	心疾患	18.1	脳血管疾患	10.9	肺炎	9.3	老衰	5.2
茨城	悪性新生物	27.7	心疾患	16.5	脳血管疾患	10.8	肺炎	10.3	老衰	5.3
栃木	悪性新生物	27.0	心疾患	17.1	脳血管疾患	11.9	肺炎	9.6	老衰	5.6
群馬	悪性新生物	26.8	心疾患	15.4	脳肺	11.5	脳血管疾患	10.3	老衰	4.4
埼玉	悪性新生物	30.1	心疾患	17.5	肺炎	10.1	脳血管疾患	9.3	老衰	3.7
千葉	悪性新生物	29.1	心疾患	17.9	肺炎	10.0	脳血管疾患	9.6	老衰	4.7
東京	悪性新生物	30.1	心疾患	15.4	脳血管疾患	9.3	肺炎	9.1	老衰	4.6
神奈川	悪性新生物	31.0	心疾患	14.5	脳血管疾患	9.3	肺炎	9.1	老衰	5.3
新潟	悪性新生物	27.9	心疾患	14.8	脳血管疾患	12.2	肺炎	9.3	老衰	6.0
富山	悪性新生物	27.4	心疾患	13.9	脳血管疾患	10.8	肺炎	10.6	老衰	5.3
石川	悪性新生物	28.5	心疾患	15.9	脳血管疾患	10.5	肺炎	10.2	老衰	5.2
福井	悪性新生物	27.0	心疾患	16.1	脳血管疾患	11.0	肺炎	9.8	老衰	4.7
長野	悪性新生物	26.7	心疾患	14.8	脳血管疾患	10.1	肺炎	9.2	老衰	7.2
岐阜	悪性新生物	25.6	心疾患	15.2	脳血管疾患	13.0	肺炎	8.5	老衰	6.6
静岡	悪性新生物	26.9	心疾患	17.0	脳血管疾患	9.4	肺炎	9.0	老衰	6.3
愛知	悪性新生物	26.9	心疾患	14.9	脳血管疾患	11.1	肺炎	8.3	老衰	7.4
三重	悪性新生物	29.5	心疾患	14.1	脳血管疾患	9.1	肺炎	9.0	老衰	5.3
滋賀	悪性新生物	26.7	心疾患	14.4	脳血管疾患	10.0	肺炎	9.5	老衰	7.3
京都	悪性新生物	27.4	心疾患	18.2	肺	9.4	脳血管疾患	9.2	老衰	4.4
大阪	悪性新生物	29.8	心疾患	17.0	肺	9.8	脳血管疾患	8.6	老衰	4.5
兵庫	悪性新生物	31.4	心疾患	16.3	肺	10.7	脳血管疾患	7.7	老衰	3.1
奈良	悪性新生物	29.9	心疾患	15.3	肺	9.5	脳血管疾患	8.8	老衰	4.9
和歌山	悪性新生物	29.4	心疾患	18.3	肺	9.9	脳血管疾患	8.5	老衰	4.1
鳥取	悪性新生物	27.3	心疾患	17.7	肺	10.6	脳血管疾患	8.2	老衰	6.0
島根	悪性新生物	27.1	心疾患	16.0	脳血管疾患	11.5	肺炎	8.1	老衰	6.8
岡山	悪性新生物	26.7	心疾患	15.4	脳血管疾患	10.2	肺炎	9.3	老衰	7.0
広島	悪性新生物	26.5	心疾患	15.7	脳血管疾患	11.8	肺炎	9.7	老衰	5.2
山口	悪性新生物	27.9	心疾患	16.8	脳血管疾患	10.1	肺炎	9.0	老衰	5.3
徳島	悪性新生物	27.0	心疾患	16.5	脳血管疾患	12.1	肺炎	9.8	老衰	4.9
香川	悪性新生物	25.6	心疾患	14.7	肺	11.4	脳血管疾患	8.9	老衰	5.1
媛知	悪性新生物	26.2	心疾患	18.0	肺	8.2	脳血管疾患	8.2	老衰	5.3
高知	悪性新生物	26.7	心疾患	18.6	肺	10.1	脳血管疾患	9.4	老衰	5.4
福岡	悪性新生物	25.4	心疾患	18.4	肺	11.6	脳血管疾患	10.4	不慮の事故	4.2
佐賀	悪性新生物	31.0	心疾患	11.8	肺	10.5	脳血管疾患	8.5	不慮の事故	3.7
長崎	悪性新生物	28.7	心疾患	15.3	肺	11.6	脳血管疾患	9.0	老衰	4.1
熊本	悪性新生物	28.2	心疾患	15.3	肺	11.1	脳血管疾患	9.1	老衰	4.4
大分	悪性新生物	26.6	心疾患	15.9	肺	10.3	脳血管疾患	9.3	老衰	4.7
宮崎	悪性新生物	26.7	心疾患	15.5	肺	10.3	脳血管疾患	10.0	老衰	5.0
鹿児島	悪性新生物	26.7	心疾患	16.9	肺	11.2	脳血管疾患	10.9	老衰	3.8
沖縄	悪性新生物	25.9	心疾患	15.3	肺	11.6	脳血管疾患	11.3	老衰	4.1
	悪性新生物	27.4	心疾患	14.7	肺	8.6	脳血管疾患	7.8	老衰	3.7

注：1) 全国には住所地外国、不詳を含む。

2) 割合(%)はそれぞれの都道府県別死亡数を100としたものである。

付 錄 諸率の算出に用いた人口

都道府県・男女別人口（日本人口）

都道府県	総 数	男	女
全 国	125 957 000	61 328 000	64 630 000
北 海 道	5 442 000	2 569 000	2 873 000
青 森 県	1 347 000	633 000	714 000
岩 手 県	1 299 000	622 000	678 000
宮 城 県	2 315 000	1 127 000	1 188 000
秋 田 県	1 060 000	498 000	562 000
山 福 島 群	1 146 000	551 000	595 000
福 岡 城 木 馬	1 955 000	952 000	1 003 000
茨 城 木 馬	2 907 000	1 450 000	1 457 000
栃 木 馬	1 968 000	979 000	989 000
群	1 959 000	965 000	994 000
埼 千 東 神 新	7 126 000	3 574 000	3 552 000
玉 葉 京 川 湯	6 119 000	3 052 000	3 067 000
	12 916 000	6 391 000	6 525 000
奈	8 947 000	4 488 000	4 458 000
新	2 336 000	1 131 000	1 205 000
富 石 福 山 長	1 072 000	518 000	554 000
山 川 井 梨 野	1 154 000	558 000	596 000
	789 000	382 000	407 000
	841 000	412 000	429 000
	2 106 000	1 026 000	1 081 000
岐 静 愛 三 滋	2 029 000	984 000	1 045 000
阜 岡 知 重 賀	3 683 000	1 814 000	1 869 000
	7 277 000	3 641 000	3 636 000
	1 811 000	882 000	929 000
	1 396 000	689 000	707 000
京 大 兵 奈 和 歌	2 584 000	1 240 000	1 344 000
都 阪 庫 良 山	8 697 000	4 200 000	4 496 000
	5 496 000	2 628 000	2 868 000
	1 381 000	653 000	728 000
	983 000	463 000	521 000
鳥 島 岡 広 山	578 000	276 000	302 000
	702 000	337 000	366 000
	1 919 000	921 000	998 000
	2 817 000	1 360 000	1 457 000
	1 420 000	670 000	750 000
徳 香 愛 高 福	772 000	367 000	405 000
島 川 嬢 知 岡	982 000	474 000	509 000
	1 408 000	662 000	745 000
	749 000	351 000	397 000
	5 044 000	2 380 000	2 664 000
佐 長 熊 大 宮	840 000	396 000	444 000
賀 崎 本 分 崎	1 402 000	655 000	747 000
	1 799 000	846 000	953 000
	1 178 000	557 000	621 000
	1 122 000	527 000	595 000
鹿 児 島 沖	1 684 000	788 000	896 000
	1 401 000	687 000	714 000

資料：「人口推計（平成24年10月1日現在）」（総務省統計局）

年齢階級・男女別人口（日本人口）

年 齢	総 数	男	女
総 数	125 957 000	61 328 000	64 630 000
0 歳	1 032 000	529 000	504 000
1	1 058 000	543 000	515 000
2	1 034 000	529 000	505 000
3	1 035 000	529 000	505 000
4	1 064 000	544 000	520 000
0 ~ 4	5 224 000	2 675 000	2 549 000
5 ~ 9	5 364 000	2 746 000	2 618 000
10 ~ 14	5 823 000	2 983 000	2 840 000
15 ~ 19	5 981 000	3 068 000	2 913 000
20 ~ 24	6 077 000	3 117 000	2 960 000
25 ~ 29	6 849 000	3 495 000	3 354 000
30 ~ 34	7 644 000	3 889 000	3 756 000
35 ~ 39	9 268 000	4 712 000	4 556 000
40 ~ 44	9 318 000	4 727 000	4 591 000
45 ~ 49	8 082 000	4 077 000	4 005 000
50 ~ 54	7 587 000	3 802 000	3 785 000
55 ~ 59	7 882 000	3 917 000	3 966 000
60 ~ 64	10 188 000	4 997 000	5 191 000
65 ~ 69	8 161 000	3 914 000	4 247 000
70 ~ 74	7 364 000	3 426 000	3 938 000
75 ~ 79	6 231 000	2 730 000	3 501 000
80 ~ 84	4 618 000	1 822 000	2 796 000
85 ~ 89	2 773 000	899 000	1 873 000
90 ~ 94	1 143 000	265 000	878 000
95 ~ 99	330 000	60 000	270 000
100歳以上	51 000	7 000	44 000

資料：「人口推計（平成24年10月1日現在）」（総務省統計局）

死因分類の変更とその影響

我が国の死因統計は、死亡診断書等に記載された情報をもとに、世界保健機関（WHO）が勧告する国際疾病、傷害及び死因統計分類（ICD）に沿って作成されている。

このICDは、医学・医療の進歩や疾病構造の変化等に対応するため、おおむね10年毎に修正されており、平成2年（1990年）に第10回改訂国際疾病、傷害及び死因統計分類（ICD-10）が勧告された。我が国では、ICD-10を平成7年（1995年）から適用し、併せて死亡診断書の様式の改正も行った。

その結果、平成7年以降の死因統計上に以下のような影響がみられる。

1 ICD-10の適用による影響

死亡診断書に、複数の病名や原因が記載されている場合には、その中の一つを原死因として選び、統計を作成する必要がある。ICDでは、その方法が選択ルールとして標準化されているが、その解釈・適用に当たっては、各国事情により、ある程度の弾力的運用が可能となるようになっていた。しかしながら、ICD-10では、国際比較を同一基準でより厳密に行うため、国際基準としての選択ルールの統一的な解釈がより明確化された。

このため、日本における死因統計も従来のものに比べ、以下の変化がみられた。

- 肺炎の減少と脳血管疾患の増加
- 糖尿病の増加
- 肝硬変の減少と肝がんの増加
- がんの転移部位リストの新設によるがんの部位別死亡数の変化

2 死亡診断書の様式の改正による影響

死亡診断書に「疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きを加えたことにより、心不全の記入が減少し、心疾患全体としても減少した。

その後、平成18年からICD-10の一部改正の累積であるICD-10（2003年版）準拠の適用に伴い、分類の追加、削除、変更及び原死因選択ルールの変更が行われている。

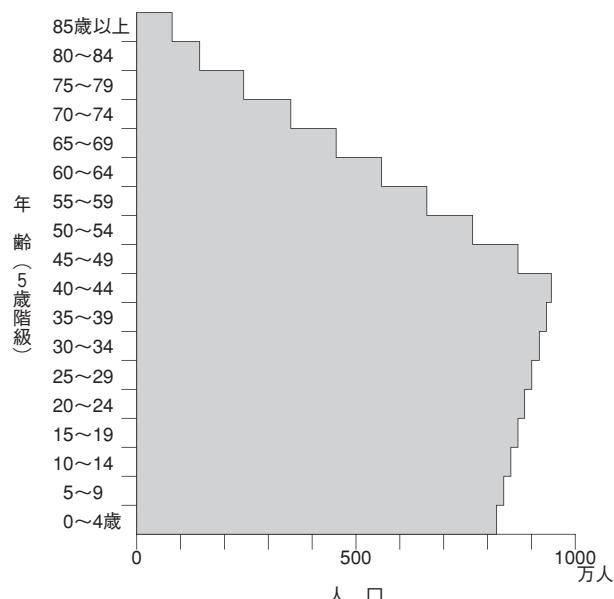
年齢調整死亡率について

死亡率は年齢によって異なるので、国際比較や年次推移の観察には、人口の年齢構成の差異を取り除いて観察するために、年齢調整死亡率を使用することが有用である。

年齢調整死亡率の基準人口については、平成元年までは昭和10年の性別総人口（都道府県は昭和35年総人口）を使用してきたが、現実の人口構成からかけ離れていたため、平成2年からは昭和60年モデル人口（昭和60年国勢調査日本人人口をもとに、ベビーブーム等の極端な増減を補正し、1,000人単位で作成したもの）を使用している。なお、計算式（5頁）中の「観察集団の各年齢階級の死亡率」は、1,000倍（死因別の場合は100,000倍）されたものである。

基準人口—昭和60年モデル人口—

年齢	基準人口	年齢	基準人口
0～4歳	8 180 000	50～54	7 616 000
5～9	8 338 000	55～59	6 581 000
10～14	8 497 000	60～64	5 546 000
15～19	8 655 000	65～69	4 511 000
20～24	8 814 000	70～74	3 476 000
25～29	8 972 000	75～79	2 441 000
30～34	9 130 000	80～84	1 406 000
35～39	9 289 000	85歳以上	784 000
40～44	9 400 000		
45～49	8 651 000		
		総数	120 287 000



平成 26 年 2 月 7 日 印刷
平成 26 年 2 月 18 日 発行

平成26年 我が国の人団動態
——平成24年までの動向——

編集 発行 厚生労働省大臣官房統計情報部

印刷 統計印刷工業株式会社

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

